

病気・人間・社会

(Disease, Human, Society)

担当教員名 法木 左近 、道信 良子					
科目区分 共通関連科目 目 選択		授業方法 講義	対象学年 1 年生	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー		授業終了後、電子メールで質問を受け付けます			
メールアドレス		法木：snoriki の末尾に@fpu.ac.jp 道信：michinor の末尾に@fpu.ac.jp			
授業概要		最初の 5 回は道信が担当し、健康、病気、治療と文化とのかかわりについて解説し、グローバルな環境における健康の課題について考察する。後半 10 回は法木が担当し、病気について理解を深めるとともに、病気をもつ人間全体について理解する。病気の理解については、医学概論 II といった位置づけでの授業である。			
到達目標		1. 健康、病気、治療と文化とのかかわりについて理解できる 2. グローバルな環境における健康の課題について理解できる 3. 遺伝性疾患、先天異常、性分化疾患、NIPT について理解できる 4. 脳血管障害や神経変性疾患と社会について理解できる 5. 障害や国際生活機能分類についても理解できる (本授業は、看護学科 DP1・5、社会福祉学科 DP1・4 に対応している。)			
授業計画・内容					
(第 1 回～第 5 回 道信良子)					
第 1 回 健康と文化					
第 2 回 病気と治療					
第 3 回 医療の体系					
第 4 回 環境と健康					
第 5 回 グローバル化と健康・ウェルビーイング					
(第 6 回～第 15 回 法木左近)					
第 6 回 成長と発達、先天異常の分類、出生前診断					
第 7 回 染色体異常、性分化疾患、性の決定とジェンダー					
第 8 回 性・年齢別に見た主な死因の構成割合、健康格差					
第 9 回 糖尿病、フットケア					
第 10 回 脳卒中、脳出血、クモ膜下出血					
第 11 回 脳梗塞、動脈硬化、血栓と塞栓					
第 12 回 高血圧、大動脈解離					
第 13 回 認知症、認知症支援の歴史					
第 14 回 神経変性疾患					
第 15 回 老年医学、国際生活機能分類					
遠隔授業となった場合、Zoom などによるオンライン授業で対応する。					
キーワード		文化、環境、グローバル化、ウェルビーイング、疾病、健康、病理、先天異常、生活習慣病、脳血管障害、国際生活機能分類			
教科書		道信良子編著『いのちはどう生まれ、育つのか』岩波書店 2015 年 880 円			
参考書		必要に応じて教員が講義時に指示する。			
評価方法・評価基準		評価方法： 第 1～5 回（道信） 個別課題レポート（40%）			

	第 6～15 回（法木） 試験（60%） 評価基準： （道信） 課題の理解、論旨の一貫性、主張の明確さ （法木） 60 点以上 ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。
関連科目	医学概論
履修要件	
必要な事前・事後学修	必要に応じて教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 病理専門医であり病理診断や病理解剖などの実務経験をもつ教員が、病気を人間、社会と関連づけて概説する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

居住福祉論

(Housing and Living Science)

担当教員名 内山 秀樹				
科目区分 共通関連科目 目 選択		授業方法 講義	対象学年 福祉：1 年 看護：2年	開講期 前期 単位数 2
オフィスアワー		授業終了後適宜対応		
メールアドレス		pt-huchiyama-g@g.fpu.ac.jp		
授業概要		少子高齢社会における社会的弱者のすまいと暮らしのあり方について居住福祉を切り口に現状、課題、対応策について講述する。生活を支える基盤としての住居の役割、歴史、伝統的木造住宅の特性、バリアの改善手法や制度、高齢者に優しく快適で安全安心な住環境について、その基礎知識、改善方策についてグループワークも含めて学ぶ。		
到達目標		福祉・看護・保健領域の専門家として、また「賢い」市民として必要な、福祉住環境論的視点からのすまいに関する基本的な知識を身に付けることができる。具体的には以下のとおりである。 ① 心豊かな安心安全な生活をおくるための住まいのあり方に関する住居学的知識 ② 日本の住宅が抱える住環境上の課題の背景とその実際の解決策・技法。 ③ 社会的弱者の住環境改善のためのしくみに関する知識。 ④ 福祉のまちづくりの視点と概要に関する知識。 (本授業は、看護学科のDP1、DP5に、社会福祉学科のDP1、DP4に対応している。)		
授業計画・内容				
第1回 オリエンテーションー居住福祉論の学びの概要 課題1：わが家のバリアチェック 第2回 すまいの役割ー気候風土とすまい、社会的環境とすまい 第3回 社会的弱者とすまいー住まいに潜む危険、在宅福祉とすまい 第4回 なぜ日本のすまいはバリアが多い？ー日本の伝統的住宅の変遷と特性 第5回 プレゼン 課題1：我が家のバリアチェック報告 第6回 在宅福祉と住宅のバリアフリーの意義ーころばぬ先の杖と知恵 第7回 住宅改修の手法ー移動空間、水回り等 第8回 住宅改修の進め方（動画による理解） 第9回 住宅改修の事例研究1 課題2：改修計画の個人提案 第10回 住宅改修支援のしくみとその実際ー介護保険制度等の流れ 第11回 住宅改修の事例研究2：グループワーク 第12回 住宅改修の事例研究3：グループ提案（課題3）の取りまとめ 第13回 住宅改修の事例研究4：グループ提案のプレゼンテーション 第14回 福祉のまちづくりー安心して暮らし続けられるまちづくり 第15回 講義のまとめと期末レポートの課題4の説明 遠隔授業となった場合は、オンライン（zoom）で講義を実施する。				
キーワード		社会的弱者、バリアフリー、住宅改修、介護保険制度、高齢者住居、福祉のまちづくり、コレクティブハウジング、グループホーム		
教科書		毎回資料を配布		
参考書		毎回資料を配布		
評価方法・評価基準		成績評価は、以下の4つの課題と毎回のふりかえりシートの記述内容で評価する。 課題1：20点（間取り図の分かりやすさ、チェック内容等）、課題2：20点（文章構成力、論理性等）、課題3：20点（将来予測力、課題解決度、間取り表現力等）、課題4：期末レ		

	ポート：30 点（文章構成力、論理性、文章ルール等）、ふり返しシート：10 点（受講姿勢）
関連科目	福祉のまちづくり論、福祉工学、高齢者福祉論、障害者福祉論、在宅看護論
履修要件	
必要な事前・事後学修	可能な限り次回講義の資料を事前に配布するので、毎回 1 ～ 2 時間程度の事前、事後学習をした上で臨む事。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 民間コンサルタントで 22 年間、住宅政策や福祉のまちづくりのコンサルティングに携わっていた経験をふまえ、高齢者にとって優しく快適で安全・安心な住環境整備方策について講述する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	授業は基本的にパワーポイントによるスライド投影で行う。写真、図表等によりビジュアル化する。授業終了後、質問、意見、感想等についてふり返しシートを毎回提出してもらい、必要な事項についてその次の回に回答、双方向型授業のツールとする。

臨床薬理学

(Clinical Pharmacology)

担当教員名 村上 茂 、伊藤 崇志 、渡邊 享平 、米田 誠				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	講義の後			
メールアドレス	murakami@fpu.ac.jp, tito@fpu.ac.jp, kyohei@u-fukui.ac.jp, myoneda@fpu.ac.jp			
授業概要	本授業では、薬が生体に働く作用（薬理作用）を分子レベルで解説する。同時に、薬が生体に吸収された後、どのように代謝され体外に排泄されるか（薬物の体内動態）についても併せて講義を行う。さらに、病院薬剤業務、薬による副反応や健康被害に関しても取り上げる。			
到達目標	薬は生体に有益な効果をもたらす物質として、医療のさまざまな用途に不可欠である。したがって、薬を使用する医療従事者は、薬の使用方法や保管方法についての知識が必要とされる。また、薬の服用について患者への適切な助言や指導が求められるため、薬の作用や副作用についても理解を必要とする。臨床薬理学では、主要な疾患を中心に、薬がどのように作用するか（薬理作用）や、服用した薬の体内動態（薬物動態学）について講義を行い、薬を適切に扱うために基礎知識の習得を目標とする。（本授業は、DP3 に対応している）			
授業計画・内容				
第 1 回 薬理学総論（薬理学概要） 第 2 回 薬物動態学 第 3 回 末梢神経系作用薬 第 4 回 薬による健康被害 第 5 回 中枢神経系作用薬 第 6 回 循環器系作用薬 第 7 回 血液系作用薬 第 8 回 呼吸器系作用薬 第 9 回 消化器系作用薬 第 10 回 内分泌・代謝系作用薬 第 11 回 抗腫瘍薬 第 12 回 抗炎症薬 第 13 回 病院薬剤業務 第 14 回 薬の投与と副反応 第 15 回 抗感染症薬 第 1 回、第 3 回、第 5 回～第 12 回、第 15 回：村上； 第 2 回：伊藤崇； 第 4 回：米田； 第 13 回～第 14 回：渡邊 遠隔授業の場合、Zoom によるオンライン授業とする。資料配布と課題提示は Google Classroom を使用する。				
キーワード	薬理学・薬物動態学・薬理作用・有害作用・安全性			
教科書	「薬理学」系統看護学講座（医学書院）			
参考書	小山岩雄著「超入門 新薬理学」（照林社）、「臨床薬理学」（MC メディカ出版）			
評価方法・評価基準	定期試験成績、レポート等で総合的に評価する。合格基準は 60 点以上（100 点満点）とする。			

	対面で期末試験が実施できない場合は、評価方法を変更することがある。
関連科目	臨床病態学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ
履修要件	講義内容を必ず復習すること。
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 製薬企業で医療用医薬品の研究開発経験を持つ教員や病院薬剤業務を担当する教員が、実務経験も生かし、臨床薬理学について講義を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 「微生物学、免疫学、薬理概論」
その他	準備学習については、教員が講義時に指示する

微生物・免疫学

(Microbiology and Immunology)

担当教員名 米田 誠、定 清直(非)、千原 一泰(非)、竹内 健司(非)				
科目区分 専門・必修	授業方法 講義	対象学年 2年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	いつでも歓迎(米田 N412)			
メールアドレス	米田: myoneda ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp			
授業概要	看護に必要な微生物学(医動物学・免疫学を含む)の基本的知識を習得する(定・千原・竹内)。 感染症の歴史についても学修する(米田)。			
到達目標	現在の感染症は複雑かつ多岐にわたる。感染症や関連する免疫異常症の本態を正確に把握し、それらの症候、治療、予防を習得する。また、感染症医療の現状や問題点を理解し、infection control nurseとしての基礎的能力を習得する。 (本授業は、DP3に対応している。)			
授業計画・内容				
第1回 感染症学総論、人類の感染症との闘い(米田)				
第2回 序論① 人体を取り巻く微生物(定)				
第3回 序論② 人体の防衛システム(定)				
第4回 細菌学総論① 感染経路、検査法、法令、抗菌薬、消毒と滅菌(千原)				
第5回 細菌学総論② 構造、遺伝、毒素、グラム染色(千原)				
第6回 主な病原細菌① グラム陰性桿菌(千原)				
第7回 主な病原細菌② グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、グラム陽性桿菌、結核菌ほか(千原)				
第8回 真菌学 総論、おもな病原真菌(千原)				
第9回 医動物学 総論、主な病原医動物(千原)				
第10回 免疫学① 自然免疫と獲得免疫(竹内)				
第11回 免疫学② 移植と輸血、アレルギー(竹内)				
第12回 ウイルスとプリオン(竹内)				
第13回 主な病原ウイルス① インフルエンザウイルスとHIV(竹内)				
第14回 主な病原ウイルス② ヒトヘルペスウイルスなど(竹内)				
第15回 ワクチンで予防できる病気(竹内)				
遠隔授業となった場合は、Zoomによるオンライン授業、GCによるオンデマンド授業等を実施				
キーワード	感染症、病原体、感染経路、宿主、予防、膠原病、自己免疫、院内感染			
教科書	「病原体・感染・免疫(第3版)」(南山堂)。ワークブック配布。			
参考書	「ナーシンググラフィカ臨床微生物・医動物学」(メディカ出版)、 「看護のための臨床病態学(第5版)」(南山堂)			
評価方法・評価基準	筆記試験およびレポート等で評価する(合格基準: 60点以上/100点満点)。 対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。			
関連科目	臨床病態学Ⅰ～Ⅳ			
履修要件	講義内容を必ず復習すること。			
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 医師として感染症診療に携わった経験を持つ教員が診断・治療などについて講義する。			

施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 「微生物学、免疫学、薬理概論」
その他	

病態生理学

(Pathophysiology)

担当教員名 法木 左近				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2 年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	月曜日 4 限 看護福祉学部棟 N459 室			
メールアドレス	snoriki の末尾に@fpu.ac.jp を付けて下さい			
授業概要	正しい的確な看護を行うためには、正常な人間の構造・機能を知るだけでなく、病気の原因（病因）やそれから発生する変化（症状）なども知らなければならない。本授業では、病気による形態学的・機能的変化について学ぶ。			
到達目標	1. 疾患に関する記述を読む際に、使用されている用語をたたく理解できる。 2. 疾患や病態を記述する上で、必要な用語をもちいることができる。 3. 目で見える変化（症状）の背景で起こっていることを考えることができる。 4. 遺伝疾患、炎症、循環障害、腫瘍について説明できる。 (本授業は、DP3 に該当する)			
授業計画・内容				
第 1 回：病理学とは？先天異常とは？遺伝疾患の種類にはどのようなものがあるか？優性遺伝とは？劣性遺伝とは？遺伝子の変異で優性遺伝となったり劣性遺伝となったりするのはなぜか？				
第 2 回：多因子遺伝とは？染色体異常にはどのようなものがあるか？性の分化異常にはどのようなものがあるか？胚芽病・胎芽病・胎児病とは？				
第 3 回：代謝障害；壊死とは？萎縮とは？変性とは？脂質代謝障害の疾患について				
第 4 回：蛋白質代謝障害の疾患について；ネフローゼとは？尿毒症とは？糖質代謝障害と疾患について；糖尿病とは？その他の代謝異常の疾患について；黄疸とは？				
第 5 回：循環障害；充血・うっ血・虚血・血栓・塞栓・出血・梗塞・DIC・浮腫などの用語の意味は？心不全とは？その原因は？ 右心不全と左心不全との違いは？				
第 6 回：血栓と塞栓の違いは？粥状硬化症とは？				
第 7 回：炎症とは？その原因は？炎症の部位ではどのようなことが起こっているのか？				
第 8 回：肉芽種と肉芽組織との違いは？炎症の全身に及ぼす影響にはどのようなものがあるか？				
第 9 回：免疫とは？体は異物と自分とをどのように区別しているのか？				
第 10 回：免疫不全・アレルギー・自己免疫疾患について。				
第 11 回：感染症の種類と病態				
第 12 回：腫瘍とは？良性腫瘍と悪性腫瘍との違いは？癌と肉腫との違いは？癌の種類にはどのようなものがあるか？癌の悪性度はどのようにきまるのか？予後とは？そもそも癌はなぜ発生するのか？				
第 13 回：癌の自然史。腫瘍のダブリングタイム（倍加時間）を考えてみる。				
第 14 回：癌の拡がり方にはどのような様式があるか？ウィルヒョウ転移とは？クルケンベルグ腫瘍とは？癌の診断はどのようになされているのか？ヒトは癌でなぜ死ぬのか？				
第 15 回：まとめ				
※遠隔授業となった場合、zoom によるオンライン授業を行う。				
キーワード	病態生理 病理学総論 疾患概念 医学用語 遺伝疾患、炎症、循環障害、腫瘍			
教科書	プリントを配布する。プリントは全部で約 90 頁程度となる。			

参考書	参考書は講義中に紹介する。
評価方法・評価基準	評価方法： 試験（80%）とレポート（20%）を実施し、総合的に判定する。 評価基準： 試験とレポートの点数を 100 点満点として、60 点以上。 対面で筆記試験ができなくなった場合、評価はレポートにより、総合的に行う。
関連科目	解剖生理学Ⅰ・解剖生理学Ⅱ→ 病態生理学→ 臨床病態学・病院実習
履修要件	病態について理解するには、正常の解剖学・組織学が理解されていなければならない。
必要な事前・事後学修	準備学習については、講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 病理専門医であり病理診断や病理解剖などの実務経験をもつ教員が、病態生理学の理解を深めるために炎症や腫瘍などについて講義以外に顕微鏡実習も実施する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

臨床病態学 I

(Clinical Pathophysiology I)

担当教員名 米田 誠				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	いつでも歓迎 (N412)			
メールアドレス	米田 : myoneda ※アドレスの末尾に@fpu. ac. jp			
授業概要	適切な看護を展開するための基礎となる疾患の病態機序を把握・修得することを目的として、各種内科疾患の本態や成り立ちを中心に、疫学・症状・診断・治療・予後ならびに看護上での注意点について講述する。			
到達目標	医学が益々進歩し、チーム医療の重要性が増す中で、看護師は患者さんに接し、その患者さんが持つ異常状態を迅速かつ的確に把握して適切な看護を展開しなければならない。そのために必要不可欠な各種疾患に関する基礎的知識と臨床病態を体系的に理解する。 (本授業は、DP3 に対応している。)			
授業計画・内容				
第 1 回 医学・医療の歴史、診察法、検査法、治療概論、医療倫理				
第 2 回 呼吸器疾患の症候、検査、治療 (1)				
第 3 回 呼吸器疾患の症候、検査、治療 (2)				
第 4 回 肺炎、肺結核、喘息、サルコイドーシス、COPD、職業性肺疾患				
第 5 回 気管支拡張症、肺癌、肺梗塞、肺水腫、過換気症候群、睡眠時無呼吸症候群、自然気胸				
第 6 回 中間まとめ				
第 7 回 循環器疾患の症候、検査、治療				
第 8 回 心不全、不整脈				
第 9 回 狭心症、心筋梗塞				
第 10 回 心筋症、心筋炎、心内膜炎、心弁膜症、先天性心疾患				
第 11 回 高血圧、動脈硬化、大動脈炎症候群、解離性大動脈瘤、末梢動脈疾患				
第 12 回 中間まとめ				
第 13 回 腎・尿路疾患の症候、検査、治療				
第 14 回 糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、各種腎炎、腎不全、透析、泌尿器系疾患				
第 15 回 総括				
遠隔授業となった場合は、Zoom によるオンライン授業、GC によるオンデマンド授業等を実施				
キーワード	臨床病態、疫学、症状、診断、治療、予後、看護			
教科書	「看護のための臨床病態学 (第 5 版)」(南山堂)。他に適宜資料を配布する。			
参考書				
評価方法・評価基準	定期試験成績とレポート等で総合的に評価し、合格基準は 60 点以上／100 点満点とする。 なお、対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。			
関連科目	臨床病態学Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、微生物・免疫学			
履修要件	講義内容を必ず復習すること。			
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 医師として診療に携わった経験を持つ教員が診断・治療などについて講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

臨床病態学Ⅱ

(Clinical Pathophysiology Ⅱ)

担当教員名 米田 誠				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	いつでも歓迎 (N412)。			
メールアドレス	米田 : myoneda ※アドレスの末尾に@fpu. ac. jp			
授業概要	適切な看護を展開するための基礎となる疾患の病態機序を把握・修得することを目的として、各種内科疾患の本態や成り立ちを中心に、疫学・症状・診断・治療・予後ならびに看護上での注意点について講述する。			
到達目標	医学が益々進歩し、チーム医療の重要性が増す中で、看護師は患者さんに接し、その患者さんが持つ異常状態を迅速かつ的確に把握して適切な看護を展開しなければならない。そのために必要不可欠な各種疾患に関する基礎的知識と臨床病態を体系的に理解する。 (本授業は、DP3 に対応している。)			
授業計画・内容				
第 1 回 消化器疾患の症候、検査、治療 第 2 回 食道炎、アカラジア、マロリーワイス症候群、食道癌、胃炎、消化性潰瘍、胃癌 第 3 回 潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸癌、腸閉塞 第 4 回 食中毒、腸管感染症、尿路感染症 第 5 回 中間まとめ 第 6 回 肝・胆・膵疾患の症候、検査、治療 第 7 回 ウイルス性肝炎 第 8 回 肝硬変、肝癌、胆石、膵炎、膵癌 第 9 回 中間まとめ 第 10 回 代謝・栄養異常症の症候、検査、治療（１） 第 11 回 代謝・栄養異常症の症候、検査、治療（２） 第 12 回 糖尿病、脂質異常症、肥満、痛風、メタボリック症候群 第 13 回 内分泌疾患の症候、検査、治療、下垂体機能低下症、尿崩症、ADH 不適合分泌症候群 第 14 回 橋本病、バセドウ病、副甲状腺機能異常、クッシング病、褐色細胞腫、アジソン病 第 15 回 総括 遠隔授業となった場合は、Zoom によるオンライン授業、GC によるオンデマンド授業等を実施				
キーワード	臨床病態、疫学、症状、診断、治療、予後、看護			
教科書	「看護のための臨床病態学」（南山堂）。他に適宜資料を配布する。			
参考書	「病原体・感染・免疫」（南山堂）			
評価方法・評価基準	定期試験成績とレポート等で総合的に評価し、合格基準は60点以上／100点満点とする。 なお、対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。			
関連科目	臨床病態学Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ、微生物・免疫学			
履修要件	講義内容を必ず復習すること。			
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり			

	医師として診療に携わった経験を持つ教員が診断・治療などについて講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

臨床病態学Ⅲ

(Clinical Pathophysiology Ⅲ)

担当教員名 米田 誠					
科目区分 専門	必修	授業方法 講義	対象学年 2年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	いつでも歓迎 (N412)。				
メールアドレス	米田 : myoneda ※アドレスの末尾に@fpu. ac. jp				
授業概要	適切な看護を展開するための基礎となる疾患の病態機序を把握・修得することを目的として、各種内科疾患の本態や成り立ちを中心に、疫学・症状・診断・治療・予後ならびに看護上での注意点について講述する。				
到達目標	医学が益々進歩し、チーム医療の重要性が増す中で、看護師は患者さんに接し、その患者さんが持つ異常状態を迅速かつ的確に把握して適切な看護を展開しなければならない。そのために必要不可欠な各種疾患に関する基礎的知識と臨床病態を体系的に理解する。 (本授業は、DP3 に対応している。)				
授業計画・内容					
第1回 血液性疾患の症候、検査、治療					
第2回 鉄欠乏性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血					
第3回 急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫、DIC、ITP、血友病					
第4回 中間まとめ					
第5回 膠原病の症候、検査、治療					
第6回 関節リウマチ、全身性エリトマトーデス					
第7回 多発性筋炎・皮膚筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織炎					
第8回 血管炎、シェーグレン症候群、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症					
第9回 成人スティル病、抗リン脂質症候群、アミロイドーシス、薬物アレルギー、アナフィラキシー					
第10回 中間まとめ					
第11回 感染症の症候、検査、治療					
第12回 性感染症 (STD)、エイズ (AIDS)、麻疹、風疹、水痘・带状疱疹					
第13回 伝染性単核球症、インフルエンザ、原虫感染症、レトロウイルス感染症					
第14回 ポリオ、日本脳炎、インフルエンザ脳症、プリオン病					
第15回 院内感染・総括					
遠隔授業となった場合は、Zoom によるオンライン授業、GC によるオンデマンド授業等を実施					
キーワード	臨床病態、疫学、症状、診断、治療、予後、看護				
教科書	「看護のための臨床病態学 (第5版)」(南山堂)。他に適宜資料を配布する。				
参考書	「病原体・感染・免疫 (第3版)」(南山堂)				
評価方法・評価基準	定期試験成績とレポート等で総合的に評価し、合格基準は60点以上／100点満点とする。 なお、対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。				
関連科目	臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ、微生物・免疫学				
履修要件	講義内容を必ず復習すること。				
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。				
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり				

	医師として診療に携わった経験を持つ教員が診断・治療などについて講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

臨床病態学Ⅳ

(Clinical Pathophysiology Ⅳ)

担当教員名 米田 誠					
科目区分 専門	必修	授業方法 講義	対象学年 2年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	いつでも歓迎 (N412)。				
メールアドレス	米田：myoneda ※アドレスの末尾に@fpu. ac. jp				
授業概要	適切な看護を展開するための基礎となる疾患の病態機序を把握・修得することを目的として、各種内科疾患の本態や成り立ちを中心に、疫学・症状・診断・治療・予後ならびに看護上での注意点について講述する。				
到達目標	医学が益々進歩し、チーム医療の重要性が増す中で、看護師は患者さんに接し、その患者さんが持つ異常状態を迅速かつ的確に把握して適切な看護を展開しなければならない。そのために必要不可欠な各種疾患に関する基礎的知識と臨床病態を体系的に理解する。 (本授業は、DP3 に対応している。)				
授業計画・内容					
第1回 脳・神経・筋疾患の解剖・生理、症候、検査、治療（1）					
第2回 脳・神経・筋疾患の症候、検査、治療（2）					
第3回 脳梗塞、TIA、クモ膜下出血、慢性硬膜下血種					
第4回 てんかん、片頭痛、脳腫瘍、パーキンソン病、アルツハイマー					
第5回 ALS、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、筋ジストロフィー、ギラン・バレー症候群					
第6回 髄膜炎・脳炎、ヘルペス脳炎、スピロヘータ・寄生虫感染症					
第7回 遺伝看護学（基礎）					
第8回 遺伝カウンセリング（事例検討）					
第9回 中間まとめ					
第10回 運動器の解剖・生理、症候、検査、治療					
第11回 運動器の外傷・骨折、脊椎・脊髄疾患					
第12回 上下肢の疾患、末梢神経麻痺					
第13回 眼と耳鼻咽喉の解剖・生理、症候、検査、治療、疾患					
第14回 皮膚の解剖・生理、症候、検査、治療、疾患					
第15回 総括					
遠隔授業となった場合は、Zoom によるオンライン授業、GC によるオンデマンド授業等を実施					
キーワード	臨床病態、疫学、症状、診断、治療、予後、看護				
教科書	「看護のための臨床病態学（第5版）」（南山堂）。他に適宜資料を配布する。				
参考書	「病原体・感染・免疫（第3版）」（南山堂）、 「ナーシング・グラフィカ病態生理学」（メディカ出版）				
評価方法・評価基準	定期試験成績とレポート等で総合的に評価し、合格基準は60点以上／100点満点とする。なお、対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。				
関連科目	臨床病態学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、微生物・免疫学				
履修要件	講義内容を必ず復習すること。				
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。				
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 医師として診療に携わった経験を持つ教員が診断・治療などについて講義する。				

施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

精神保健

(Mental Health Introduction)

担当教員名 長谷川 小眞子 、栗田 智未(非)				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	長谷川：講義終了後研究室（N303） 栗田：水曜日 10 時～16 時			
メールアドレス	長谷川：hasegawa@fpu.ac.jp 栗田：kurita@u-fukui.ac.jp			
授業概要	看護職に必要な精神保健に関する基礎知識を学習し、各専門領域の学習につなげることを目的とする。			
到達目標	(1) . 精神の発達と機能について理解できる。 (2) ストレスとその反応について理解できる。 (3) 社会における精神保健の現状と課題、および対策について理解できる。 (4) 自分自身のメンタルヘルスの維持・増進に活用することができる。 (本授業は、DP3 に対応している。)			
授業計画・内容				
第 1 回 精神保健とはー精神の健康（長谷川）				
第 2 回 精神の機能 1ー自我機能ー（栗田）				
第 3 回 精神の機能 2ー防衛機制ー（栗田）				
第 4 回 精神の危機とその反応 1ーストレスとストレス反応（栗田）				
第 5 回 精神の危機とその反応 2ー危機理論ー（栗田）				
第 6 回 ライフサイクルと精神健康①ー乳幼児期、学童期における精神保健（長谷川）				
第 7 回 ライフサイクルと精神健康②ー思春期・青年期、成人期、老年期における精神保健(長谷川)				
第 8 回 学校および家庭における精神保健（長谷川）				
第 9 回 職場における精神保健(長谷川)				
第 10 回 支援する専門職と精神保健(長谷川)				
第 11 回 自殺対策の現状と取り組み（長谷川）				
第 12 回 精神保健に関する問題のグループワーク 1（長谷川）				
第 13 回 精神保健に関する問題のグループワーク 2(長谷川)				
第 14 回 グループワーク発表・討論 1（長谷川・栗田）				
第 15 回 グループワーク発表・討論 2（長谷川・栗田）				
※遠隔授業となった場合、ZOOM によるオンライン授業、G C によるオンデマンド授業を行う				
キーワード	精神健康、精神発達、自我機能、ストレス、危機と危機介入、自殺対策			
教科書	萱間真美他編，精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア，南江堂，2021.			
参考書	・村井俊哉他著，メンタルヘルスを学ぶ 精神医学・内科学・心理学の視点から，ミネルヴァ書房，2015. ・吉川武彦，竹島正著，精神保健マニュアル第 4 版，南山堂.			
評価方法・評価基準	授業への取り組み態度（発言・質問の有無等）・個人課題・グループワーク課題・グループワーク発表（40 点）および期末試験（60 点）を合計し評価する。 ※遠隔の場合、期末試験をレポートに変更する。			

関連科目	精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護発展セミナー
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。 報道されているメンタルヘルスに関連する記事等に関心を寄せること。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師業務およびカウンセリング業務を経験した教員が精神保健に関する基本的な知識について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 精神保健
その他	対人援助職に必要な知識であることは当然として、自己の精神健康の維持・増進に役立てること。

看護学概論

(Introduction to Nursing)

担当教員名 笠井 恭子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	随時（メール等にて事前に日時調整）			
メールアドレス	kasai@fpu.ac.jp			
授業概要	1. 看護学を学ぶ学生に対する看護への導入として、近代看護の創始者であるナイチンゲールの看護論から、看護の定義、看護の役割、人間と環境の相互関係、健康の法則について学習する 2. 看護の歴史的変遷や医療安全の現状をふまえて今後の看護を展望する			
到達目標	1. ナイチンゲール看護論をとおして看護の定義、看護の役割・機能、人間と環境の相互関係、健康の法則等について理解できる 2. 看護を実践し発展させるための思考能力を育み、これからの看護の役割について考えることができる （本授業は、DP1、DP2 に対応している。）			
授業計画・内容				
第 1 回 看護の歴史的変遷／医療安全の現状 第 2 回 看護のメタパラダイム（人間 環境 健康 看護） 第 3 回 ナイチンゲールの功績 第 4 回 「看護覚え書」 序章 グループワーク 第 5 回 「看護覚え書」 各論 グループワーク 第 6 回 「看護覚え書」 各論 発表 1～5G／ディスカッション／まとめ 第 7 回 「看護覚え書」 各論 発表 6～10G／ディスカッション／まとめ 第 8 回 看護の定義、看護の役割・機能				
※遠隔授業となった場合は、ZOOM 等によるオンライン授業で対応する。				
キーワード	看護の歴史 看護のメタパラダイム ナイチンゲール 看護の定義 看護の役割・機能			
教科書	・系統看護学講座専門分野 I 基礎看護学〔1〕 看護学概論：茂野香おる，医学書院 ・看護覚え書：フロレンス・ナイチンゲール，現代社			
参考書	授業時に紹介する			
評価方法・評価基準	評価方法：レポート（100％）で評価しグループワークおよび発表の取り組みを評価に加える ナイチンゲール看護論をとおして看護の定義、看護の役割・機能をどのように理解したかを 以下の評価基準に沿って評価する。 評価基準：①課題の的確な把握、②論旨の一貫性、③資料の構成の適切性 ※遠隔授業時の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。			

関連科目	看護理論 健康生活支援演習 基礎看護技術 臨床看護技術 看護過程展開論 フィジカルアセスメント 看護倫理学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	事前学習：事前に配布する資料および教科書に目をとおり予備知識を持って授業に臨む
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員がナイチンゲール看護論を基盤として看護のメタパラダイムや看護の定義、役割・機能について授業を展開する
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む）
その他	特になし

看護理論

(Nursing Theory)

担当教員名 笠井 恭子 、東 知宏 、上木 礼子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	笠井 (N414) 東 (N302) 上木 (N416) : 随時 (メール等にて事前に日時調整)			
メールアドレス	笠井 : kasai 東 : azuma 上木 : reikou17 ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp			
授業概要	1. 主要な看護理論にふれ、それらを基に看護のメタパラダイムについて考究する 2. 複雑かつ困難な看護現象に対して、看護理論を活用することによってその現象を明確にし質の高い看護実践ができる能力を養う			
到達目標	1. 看護理論とは何か、看護理論の変遷、理論の分類について説明できる 2. 主要な看護理論の特徴について説明できる 3. 看護理論と看護実践の密接なつながりが述べることができる (本授業は、DP1 と DP3 に対応している。)			
授業計画・内容				
第 1 回	看護理論とは／看護理論の変遷			
第 2 回	ロジャーズ、ニューマンの看護理論			
第 3 回	ヘンダーソン、オレム グループワーク			
第 4 回	ヘンダーソン	発表／ディスカッション／まとめ		
第 5 回	オレム	発表／ディスカッション／まとめ		
第 6 回	ベナー、ワトソン	グループワーク		
第 7 回	ベナー	発表／ディスカッション／まとめ		
第 8 回	ワトソン	発表／ディスカッション／まとめ		
第 9 回	ロイ、レイニンガー	グループワーク		
第 10 回	ロイ	発表／ディスカッション／まとめ		
第 11 回	レイニンガー	発表／ディスカッション／まとめ		
第 12 回	キング、オーランド	グループワーク		
第 13 回	キング	発表／ディスカッション／まとめ		
第 14 回	オーランド	発表／ディスカッション／まとめ		
第 15 回	看護理論と看護実践のつながり			
第 1 ～ 2 回／第 12 ～ 15 回 笠井				
第 3 ～ 8 回 東				
第 9 ～ 11 回 上木				
※遠隔授業となった場合は、ZOOM 等によるオンライン授業で対応する。				
キーワード	看護理論 看護実践 看護のメタパラダイム			
教科書	看護理論改訂第 3 版 看護理論 21 の理解と実践への応用 : 筒井真優美編, 南江堂			
参考書	授業時に紹介する			

評価方法・評価基準	評価方法：レポート（100%）で評価しグループワークおよび発表の取り組みを評価に加える 第1～2、12～15回：キング、オーランドの看護理論、理論と実践のつながりの理解度（40%） 第3～8回：ヘンダーソン、オレム、ベナー、ワトソンの看護理論の理解度（40%） 第9～11回：ロイ、レイニンガーの看護理論の理解度（20%） 評価基準：①課題の的確な把握、②論旨の一貫性、③資料の構成の適切性 ※遠隔授業時の場合も、上記と同じ評価
関連科目	看護学概論 健康生活支援演習 基礎看護技術 臨床看護技術 看護過程展開論 フィジカルアセスメント 看護倫理学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	事前学習：事前に配布する資料および教科書に目をとおり予備知識を持って授業に臨む
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が主要な看護理論の特徴ならびに質の高い看護実践に向けて看護理論を活用する意義について授業を展開する
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む）
その他	特になし

基礎看護技術

(Fundamental Nursing Skills)

担当教員名 大島 千佳 、東 知宏 、上木 礼子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義および演習	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	大島（N306）、東（N302）、上木（N416）：授業後対応			
メールアドレス	大島：oshima 東：azuma 上木：reikou17 ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp			
授業概要	看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指す。対象の生活の質や日常生活活動を向上させるために欠かせない日常生活の援助に関する看護技術（環境調整、活動・休息援助、清潔・衣生活援助、食事援助）およびバイタルサインの観察技術を学習する。			
到達目標	1. 看護に共通する技術の原理・原則、根拠について理解できる 2. 生活者である看護の対象に対する日常生活を援助するための基本技術を修得できる 3. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本技術を修得できる 4. 対象に合わせた看護援助を考ることができる 5. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける （本授業は DP2 および DP3 に対応している。）			
授業計画・内容				
第 1 回 基礎看護技術概論：講義 （大島）				
第 2 回 基礎看護技術概論：演習 オリエンテーション／衛生的手洗い（東）				
第 3 回 活動・休息援助：講義 活動の援助（大島）				
第 4 回 活動・休息援助：演習 同上				
第 5 回 活動・休息援助：講義 睡眠・休息の援助（大島）				
第 6 回 活動・休息援助：演習 同上				
第 7 回 環境調整：講義 ベッド周囲の環境整備（上木）				
第 8 回 環境調整：演習 同上				
第 9 回 環境調整：講義 病床の環境整備（上木）				
第 10 回 環境調整：演習 同上				
第 11・12 回 実技テスト①：環境調整技術（上木・東・大島）				
第 13 回 清潔・衣生活援助：講義 清潔の援助①（東）				
第 14 回 清潔・衣生活援助：演習 同上				
第 15 回 清潔・衣生活援助：講義 清潔の援助②（東）				
第 16 回 清潔・衣生活援助：演習 同上				
第 17 回 清潔・衣生活援助：講義 清潔の援助③（東）				
第 18 回 清潔・衣生活援助：演習 同上				
第 19 回 清潔・衣生活援助：講義 衣生活の援助（東）				
第 20 回 清潔・衣生活援助：演習 同上				
第 21・22 回 実技テスト②：清潔・衣生活援助技術（東・上木・大島）				
第 23 回 食事援助：講義 （東）				
第 24 回 食事援助：演習 同上				

第 25 回 食事援助：講義 口腔ケア（東）

第 26 回 食事援助：演習 同上

第 27 回 バイタルサインの観察：講義 体温・脈拍・呼吸（大島）

第 28 回 バイタルサインの観察：演習 同上

第 29 回 バイタルサインの観察：講義 血圧・意識（大島）

第 30 回 バイタルサインの観察：演習 同上

※具体的な授業計画は、「第 1 回基礎看護技術概論」の際に別途説明する。

※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業を行う。

キーワード	日常生活援助技術、環境調整技術、活動・休息援助技術、清潔・衣生活援助技術、食事援助技術 バイタルサインの観察技術
教科書	・茂野香おる他著：系統看護学講座専門Ⅰ基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院. ・任和子他著：系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院. ・香川芳子編：七訂 食品 80 キロカロリーガイドブック，東京栄養大学出版部.
参考書	看護が見える① 基礎看護技術，メディックメディア その他、授業の中で紹介する。
評価方法・評価基準	評価方法：期末試験(60%)、単元毎の課題(10%)、単元毎の小テスト(20%)、実技テスト(10%)により評価する。遠隔授業の場合は評価比率を調整して評価する。 評価基準：到達目標 1. 3. 4. を期末試験・課題・小テストの評価基準とする。到達目標 2. 3. を実技テストの評価基準とする。到達目標 5. は、課題提出状況、無断欠席の有無、無断遅刻の有無、演習時の身だしなみで評価する。
関連科目	健康生活支援演習 臨床看護技術 看護学概論 看護理論 看護過程展開論 フィジカルアセスメント 看護倫理学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	
必要な事前・事後学修	授業に先立ち資料を提示する。予習を行った上で授業に参加すること(90分)。 授業後は課題に取り組み、授業の復習を行うこと(90分)。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が、看護実践に必要な基礎的な知識および技術に関する講義・演習を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護に関する科目 栄養学(食品学を含む。)
その他	

臨床看護技術

(Clinical Nursing Skills)

担当教員名 東 知宏 、上木 礼子 、大島 千佳				
科目区分 専門 必修	授業方法 演習	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	東（N302） 上木（N416） 大島（N306） 授業後対応します			
メールアドレス	東 azuma@ 上木 reikou17@ 大島 oshima@ （@以降は fpu. ac. jp）			
授業概要	看護の理論に裏付けられた看護実践能力の修得を目指す。対象の生活の質や日常生活活動を向上させるために欠かせない日常生活の援助に関する看護技術（排泄援助）および感染予防の技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、検査時の看護、症状・生体機能管理技術、与薬の技術を学習する。			
到達目標	1. 感染予防に必要な知識と技術を修得できる。 2. 排泄の援助に必要な知識と技術を修得できる。 3. 呼吸・体温異常時の各種療法および褥瘡を含む創傷管理の援助の方法が修得できる。 4. 各種検査の目的・方法、検査時の看護師の役割、必要な援助の方法が習得できる。 5. 薬物療法の意義・目的を理解し、必要な援助の方法を習得するとともに、安全に与薬を行うシステムのあり方について理解できる。 （本演習は DP2 および DP3 に対応している。）			
授業計画・内容				
第 1 回 排泄援助（自然排泄の介助）（上木） 第 2 回 排泄援助（導尿・排便を促す援助・ストーマケア）（上木） 第 3 回 排泄援助演習（便尿器の与え方・おむつ交換）（上木・東） 第 4 回 排泄援助演習（浣腸・陰部洗浄）（上木・東） 第 5 回 感染予防（感染予防策）（東） 第 6 回 感染予防（滅菌と消毒）（東） 第 7 回 感染予防演習（ガウンテクニック）（東・上木） 第 8 回 感染予防演習（無菌操作）（東・上木） 第 9 回 排泄援助演習（導尿・男性器）（上木・大島） 第 10 回 排泄援助演習（導尿・女性器）（上木・大島） 第 11 回 実技テスト（無菌操作）（東・大島・上木） 第 12 回 実技テスト（導尿）（上木・大島・東） 第 13 回 呼吸・循環・体温異常時の看護（酸素療法・排痰ケア・人工呼吸療法）（上木） 第 14 回 呼吸・循環・体温異常時の看護（体温調整・末梢循環促進ケア・創傷管理）（上木） 第 15 回 呼吸・循環・体温異常時の看護演習（酸素療法・吸引）（上木・東） 第 16 回 呼吸・循環・体温異常時の看護演習（罨法・包帯法）（上木・東） 第 17 回 検査と看護（検査方法とその目的）（東） 第 18 回 検査と看護（検査における看護師の役割）（東） 第 19 回 検査と看護演習（尿試験紙検査）（東・大島・上木） 第 20 回 検査と看護演習（採血）（東・大島・上木） 第 21 回 呼吸・循環・体温異常時の看護（ロールプレイ）（東・上木） 第 22 回 検査と看護（ロールプレイ）（東・上木）				

- 第 23 回 与薬と看護（与薬の基礎知識）（大島）
- 第 24 回 与薬と看護（与薬における医療安全）（大島）
- 第 25 回 与薬と看護（与薬の実際①：経口与薬・口腔内与薬・点眼・経皮的与薬・直腸内与薬）（大島）
- 第 26 回 与薬と看護（与薬の実際②：注射）（大島）
- 第 27 回 与薬と看護演習（皮下注射・筋肉注射）（大島・東・上木）
- 第 28 回 与薬と看護演習（静脈内注射）（大島・東・上木）
- 第 29 回 実技テスト（採血）（東・大島・上木）
- 第 30 回 実技テスト（皮下注射）（大島・東・上木）

※遠隔授業となった場合には、ZOOM によるオンライン授業およびオンデマンド演習とする

キーワード	感染予防の技術、排泄援助の技術、呼吸・循環を整える技術、創傷管理技術、症状・生体機能管理技術、与薬の技術
教科書	・茂野香おる他著：系統看護学講座専門Ⅰ基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院 ・任和子他著：系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院
参考書	授業の中で紹介する。
評価方法・評価基準	評価方法 期末試験(60%)、小テスト(20%)、課題(10%)、実技テスト(10%)により評価する。遠隔授業の場合は評価比率を調整して評価する。 評価基準 感染予防に関する知識と技術を期末試験と小テストで評価する。排泄の援助に必要な知識と技術を期末試験と小テスト、実技テストで評価する。呼吸・体温異常時の援助、創傷管理の援助への理解を期末試験、小テストで評価する。検査に対する知識と技術を期末試験、小テスト、課題、実技テストで評価する。薬物療法に対する知識と技術を期末試験、小テスト、実技テストで評価する
関連科目	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、健康生活支援演習、看護倫理学、看護過程展開論、フィジカルアセスメント、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	看護学概論、基礎看護技術を履修していること。
必要な事前・事後学修	授業に先立ち資料を提示する。予習を行った上で授業に参加すること（90分）。授業後は課題に取り組み、授業の復習を行うこと（90分）。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が、看護実践に必要な基礎的な知識および技術に関する講義・演習を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

看護過程展開論

(Nursing Process)

担当教員名 東 知宏 、笠井 恭子					
科目区分 専門 必修		授業方法 講義	対象学年 2	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	東 (N302) 笠井 (N414) 授業後対応します				
メールアドレス	東 : azuma@fpu.ac.jp 笠井 : kasai@fpu.ac.jp				
授業概要	対象に適切な看護を提供するための看護計画を立案し、実施、評価する、看護過程の展開について学習する。問題解決過程やクリティカルシンキング、看護診断といった、看護過程の展開に必要な思考法の学習を通して、論理的で客観性のある看護過程を展開できる能力を養う。				
到達目標	・看護過程の展開について理解できる。 ・問題解決過程、クリティカルシンキングについて理解できる。 ・看護診断について理解できる。 ・看護過程を用いて事例を展開できる。 (本授業は DP2 および DP3 に対応している。)				
授業計画・内容					
第1回 看護過程とは(看護過程の構成要素)(東)					
第2回 看護過程とは(問題解決過程・クリティカルシンキング)(東)					
第3回 看護診断とは/看護診断のプロセス(笠井)					
第4回 看護診断の種類と表現方法(笠井)					
第5回 看護過程の実践：情報収集(東)					
第6回 看護過程の実践：アセスメント(東)					
第7回 看護過程の実践：看護計画の立案(東)					
第8回 看護過程の実践：看護計画の実施・評価・修正(東)					
第9回 看護課程による事例展開1事例目(情報収集・アセスメント)(東)					
第10回 看護過程による事例展開1事例目(計画立案・評価・修正)(東)					
第11回 看護課程による事例展開1事例目(評価・修正)(東)					
第12回 看護課程による事例展開2事例目(情報収集・アセスメント)(東)					
第13回 看護過程による事例展開2事例目(計画立案・評価・修正)(東)					
第14回 看護課程による事例展開2事例目(評価・修正)(東)					
第15回 まとめ(東)					
キーワード	看護過程 問題解決過程 クリティカルシンキング 看護診断				
教科書	茂野香おる他著：系統看護学講座専門Ⅰ基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院 T.ヘザー・ハードマン他著：NANDA-I 看護診断 定義と分類 2021—2023，医学書院				
参考書	授業の中で紹介する。				
評価方法・評価基準	評価方法 課題(10%)、小テスト(10%)、レポート(80%)により評価する。遠隔授業の場合も同じ方法で評価する。 評価基準 看護過程の展開についての理解を小テストを用いて評価する。問題解決過程、クリティカルシンキングへの理解を課題を用いて評価する。看護診断への理解度をレポートにより評価する。看護過程を用いて事例を展開する能力をレポートにより評価する。				

関連科目	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、健康生活支援演習、看護倫理学、フィジカルアセスメント、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、健康生活支援演習、基礎看護学実習Ⅰを履修していること。
必要な事前・事後学修	事前学習：講義に先立ち資料を提示する。予習を行い、準備を整えて授業に参加すること。(90分) 事後学修：講義の進行にあわせて課題を提示する。期限内に課題を提出すること。(90分)
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が、看護過程の展開に必要な基礎的な知識および考え方に関する講義・指導を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

フィジカルアセスメント

(Physical Assessment)

担当教員名 大島 千佳 、東 知宏 、上木 礼子 、山内 豊明(非)				
科目区分 専門 必修	授業方法 演習	対象学年 2年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	大島 (N306)、東 (N302)、上木 (N416)、山内 (学外) : 授業後対応			
メールアドレス	大島:oshima 東:azuma 上木:reikou17 ※末尾に@fpu.ac.jp			
授業概要	人間の全身の状態を的確に把握するために、系統的に行う身体診査であるフィジカルアセスメントの意義や具体的方法(フィジカルイグザミネーション)を学習し、対象者を包括的に評価し、看護の実践に活用できる能力を養う。			
到達目標	1. フィジカルアセスメントを看護に活用する目的・意義を理解できる。 2. フィジカルアセスメントに必要な基礎的知識と基本となる概念を理解する。 3. 身体の系統的で客観的な評価から得られた所見を総合し、対象者を包括的に判断・解釈する方法を理解する。 4. フィジカルアセスメントに必要とされる診察機器を理解し、演習で使用してみる。 (本授業は DP2 および DP3 に対応している。)			
授業計画・内容				
第1回 概論:講義 ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションとは(山内)				
第2回 概論:講義 フィジカルアセスメントに必要な技術(山内)				
第3回 呼吸器系のアセスメント:講義(東)				
第4回 循環器系のアセスメント:講義(大島)				
第5回 呼吸器系のフィジカルアセスメント:演習(東)				
第6回 循環器系のフィジカルアセスメント:演習(大島)				
第7回 消化器系のアセスメント:講義(大島)				
第8回 消化器系のフィジカルアセスメント:演習(大島)				
第9回 感覚器系のアセスメント:講義(大島)				
第10回 感覚器系のフィジカルアセスメント:演習(大島)				
第11回 運動器系のアセスメント:講義(大島)				
第12回 運動器系のフィジカルアセスメント:演習(大島・上木)				
第13回 中枢神経系のアセスメント:講義(大島)				
第14回 中枢神経系のフィジカルアセスメント:演習(大島)				
第15回 まとめ:事例を用いたフィジカルアセスメントまとめ(大島)				
※具体的な授業計画は、「第1回概論」の際に別途説明する。				
※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業を行う。				
キーワード	ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、看護過程			
教科書	・山内豊明著:フィジカルアセスメントガイドブック―目と手と耳でここまでわかる, 第2版 医学書院。 ・茂野香おる他著:系統看護学講座専門 I 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I, 医学書院。			
参考書	・医療情報科学研究所編:フィジカルアセスメントがみえる, メディックメディア。 ・藤崎郁著:フィジカルアセスメント完全ガイド第2版, 学研メディカル秀潤社。			
評価方法・評価基準	評価方法:期末試験(80%)、単元毎の課題(10%)、単元毎の小テスト(10%)で評価する。			

	遠隔授業の場合は評価比率を調整して評価する。 評価基準：到達目標を期末試験・課題・小テストの評価基準とする。
関連科目	解剖生理学Ⅰ、解剖生理学Ⅱ、臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅱ、健康生活支援演習、看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、看護倫理学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、健康生活支援演習、基礎看護学実習Ⅰを履修していること。
必要な事前・事後学修	教科書、動画、配布資料を用い、事前学習をした上で授業に臨むことを前提とする。そのほかの事前学習は必要時提示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員、医師経験を有する教員が、フィジカルアセスメントに必要な知識と技術について講義・演習する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

健康生活支援演習

(Healthy living Support Seminar)

担当教員名 上木 礼子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義 演習	対象学年 1 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	上木（N416 研究室）：随時（メール等にて事前に日時調整）			
メールアドレス	上木：reikou17 ※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp をつけてください			
授業概要	対象理解・関係性構築のためのコミュニケーション技術を学習するとともに、地域で生活する人々との関わりをとおして、生活環境や人々がかかえる生活・健康上の問題について理解し看護学を学ぶための基礎力を養う			
到達目標	1. 対象理解・関係性構築のためのコミュニケーションに関する知識・技術を習得する 2. 地域住民と関わるができる 3. 地域住民の生活環境や生活・健康上の問題について理解できる 4. ロールプレイをとおして看護コミュニケーションの基礎力を高めることができる （本授業は DP2、DP4 に対応している）			
授業計画・内容				
本授業は全 15 回実施します。第 1 回と 2 回はクラスメンバーの交流を図るとともに、身体をつかったレッスンを通して自身の声や体の使い方を意識してもらいます。第 3 回と 4 回は医療者に求められるコミュニケーション技術、グループワークなどに必要なアサーティブなコミュニケーションを学びます。第 5 回から 10 回までは、地元永平寺町の高齢者グループとの交流会を中心に地域住民の暮らしと健康問題について考えます。第 11 回から 15 回までは模擬患者を対象に看護師のロールプレイをしながら、看護のコミュニケーションを学びます。 （1）健康生活支援演習オリエンテーション（プログラム、到達目標、グループワークの進め方） （2）演劇ワークショップ（コミュニケーションのための身体・声を意識するワーク）前川嘉宏先生 （3）コミュニケーション論（医療者に求められるコミュニケーション技術） （4）アサーティブコミュニケーション（相手を生かし、自分を生かすコミュニケーション技術） （5）地域住民との交流会 オリエンテーション （6）地域住民との交流会 準備グループワーク （7）地域住民との交流会 ※クラスを前半グループと後半グループに分けて実施する （8）交流会の成果発表にむけた GW （9）交流会の成果発表にむけた GW （10）成果発表会 （11）成果発表会/まとめ （12）看護コミュニケーション（看護師ロールプレイングの説明） （13）看護師ロールプレイングの GW（シナリオ作成・練習） （14）模擬患者を対象にした看護師ロールプレイング/デブリーフィング （15）模擬患者を対象にした看護師ロールプレイング/デブリーフィング ※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業で対応します。				
キーワード	コミュニケーション 地域住民との交流 ロールプレイ 模擬患者			
教科書	・茂野香おる他著：系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学〔1〕看護学概論，医学書院.			

	・茂野香おる他著：系統看護学講座専門分野Ⅰ基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院.
参考書	授業時の中で紹介する
評価方法・評価基準	評価方法：レポートと受講態度により総合的に判定する 評価基準：受講態度（グループワーク・交流会・発表会の取り組み）（30%）、レポート（70%） [1. 課題を的確にとらえて展開しているか、2. 論旨が一貫しているか、3. 自分の主張（考えや思い）を的確に表現しているか、4. 資料の構成が適切でわかりやすいか] ※遠隔授業時と同じ、
関連科目	看護学概論 看護理論 基礎看護技術 臨床看護技術 看護過程展開論 フィジカルアセスメント 看護倫理学 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ
履修要件	
必要な事前・事後学修	事前に配布する資料および教科書に目をとおり予備知識を持って授業に臨む
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が対人関係を構築するための知識・技術について授業を展開する
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

基礎看護学実習 I

(Nursing Practicum I : Fundamental Nursing)

担当教員名 上木 礼子 、東 知宏 、大島 千佳				
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	対象学年 1 年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	上木 (N416 研究室) 東 (N302 研究室) 大島 (N306 研究室) 随時：メール等にて事前に日時調整			
メールアドレス	上木 reikou17 東 azuma 大島 oshima (※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp をつけてください)			
授業概要	県内の基幹病院において、担当看護師と行動をともにし指導を受けながら、既習の看護技術が実際の看護場面でどのように適用されているかを観察するとともに、対象の日常生活の援助を実践し、看護の役割・機能を学ぶ。			
到達目標	1. 病院の機能および入院環境を理解できる。 2. 看護の対象・看護の実際を正確に把握できる。 3. 日常生活の援助を中心とした対象とのかかわりを通して対象への感性および表現技術を高めることができる。 4. 既習の看護理論と看護の実際を照らし合わせ、看護の果たすべき役割・機能について考察できる。 5. 看護学生として臨地実習で学ぶために必要な態度を身につけることができる。 (本授業は、DP2、DP4 に対応している)			
授業計画・内容				
実習施設：福井県立病院 実習期間：2 月末～3 月上旬 集中実習(4 日間) 実習方法：1 病棟に 3～4 名の学生を配置し、担当看護師の指導のもと実習を展開する 遠隔実習になった場合は ZOOM によるオンライン実習とする 【病院実習】 ・ 病院オリエンテーション、病棟オリエンテーション、病院内見学 ・ 担当看護師と行動をともにし指導を受けながら、上記の実習目標を達成する 【学内・在宅実習】 ・ 実習のまとめ（グループワーク、グループ発表） ・ 記録の提出				
キーワード	臨地実習 病院の機能 入院環境 看護の役割と機能			
教科書	関連科目で使用している教科書			
参考書	関連科目で使用している参考書			
評価方法・評価基準	評価方法：実習内容(40%)、実習態度(10%)、記録物(50%)から評価する。遠隔実習となった場合には評価方法に課題を追加し、評価比率を調整する。 評価基準：病院機能・療養環境を理解し、看護の対象・看護の実際を正確に把握する能力を記録物から評価する。対象とのかかわり対象への感性および表現技術を向上させる能力を実習内容から評価する。看護理論と看護の実際から看護の果たすべき役割・機能について考察する能力を記録物および実習内容から評価する。看護学生として臨地実習で学ぶため			

	に必要な態度が身についているかどうかを
関連科目	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、看護過程展開論、フィジカルアセスメント、健康生活支援演習、基礎看護学実習Ⅱ、看護倫理学
履修要件	・看護学概論、基礎看護技術、健康生活支援演習を修得していること ・看護理論、臨床看護技術を履修していること
必要な事前・事後学修	関連科目を復習し、看護技術の練習を行ったうえで実習に臨むこと
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員の指導の下、看護に必要な基礎的な看護実践能力を身につけるための実習を行う
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）
その他	実習の日時、内容、諸注意については、別途実習要項を配布し説明する

基礎看護学実習Ⅱ

(Nursing Practicum Ⅱ: Fundamental Nursing)

担当教員名 東 知宏 、上木 礼子 、大島 千佳 、笠井 恭子				
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	対象学年 2年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	東 (N302) 上木 (N416) 大島 (N306) 笠井 (N414) 随時対応します			
メールアドレス	東 azuma@ 上木 reikou17@ 大島 oshima@ 笠井 kasai@ (@以降は fpu. ac. jp)			
授業概要	対象の個別に即した看護を認識し、計画的に看護を実践、評価するという看護過程を展開するための基本的能力を修得する。			
到達目標	・ 対象の全体像をイメージし、看護に必要な対象の事実を正確に把握できる。 ・ 対象および対象をとりまく人々に優先すべき看護を考え、実施し、対象の立場から評価できる。 ・ 自分の意図や気持ちを適切に伝達できる。 ・ 対象に起こりうる危険を予測し整えることができる。 ・ 実習体験の評価を通して、看護者としての自己認識を高めることができる。 (本実習は DP3 および DP4 に対応している。)			
授業計画・内容				
実習施設：福井県立病院、福井赤十字病院、福井循環器病院				
実習期間：8月上旬～9月上旬 集中実習（10日間）				
実習方法：1病棟につき4～6名の学生配置とし、学生1対患者1の受け持ち実習を展開する				
遠隔実習となった場合には、ZOOMによるオンライン実習とする				
【病院実習】				
・ 初期：病棟オリエンテーション、自己紹介、情報収集、担当看護師とケアに参加する ・ 中期：可能な看護の実践、看護アセスメントおよびアセスメントに基づく看護計画を立案する ・ 終期：看護を実践しながら看護過程を展開する				
【学内・在宅実習】				
・ 実習のまとめ、記録の提出				
キーワード	臨地実習 療養環境 看護の役割と機能 看護過程展開の技術			
教科書	関連科目で使用している教科書			
参考書	関連科目で使用している参考書			
評価方法・評価基準	評価方法：実習内容（40%）、実習態度（10%）、記録物（50%）から評価する。遠隔実習となった場合には評価方法に課題を追加し、評価比率を調整する。 評価基準：対象の事実を正確に把握する能力を記録物から評価する。対象および対象をとりまく人々に優先すべき看護を考え、実施する能力を実習内容と記録物から評価する。自分の意図や気持ちを適切に伝達できる能力を実習内容から評価する。対象に起こりうる危険を予測し整えることができる能力を実習内容から評価する。実習体験の評価を通じた看護者としての自己認識を記録物および実習			
関連科目	看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、健康生活支援演習、看護倫理学、看護過程展開論、フィジカルアセスメント、基礎看護学実習Ⅰ			

履修要件	・看護学概論、看護理論、基礎看護技術、臨床看護技術、健康生活支援演習、基礎看護学実習Ⅰを修得していること ・看護過程展開論、フィジカルアセスメントを履修していること
必要な事前・事後学修	関連科目を復習し、看護技術の練習を行ったうえで実習に臨むこと
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員の指導の下、看護に必要な基礎的な看護実践能力を身につけるための実習を行う
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む）
その他	実習の日時、内容、諸注意については、別途実習要項を配布し説明する

看護倫理学

(Nursing Ethics)

担当教員名 笠井 恭子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2 年 4 年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	随時（メール等にて事前に日時調整）			
メールアドレス	kasai@fpu.ac.jp			
授業概要	1. 医療倫理・看護倫理の変遷、医療に関わる倫理学の諸理論、医療倫理の4原則・重要概念、ケアの倫理、 看護倫理の重要概念について教授する 2. 倫理的問題をかかえる事例について、「倫理的問題を解決するためのモデル」を活用し検討する			
到達目標	1. 医療倫理・看護倫理の歴史的な歩みについて理解できる 2. 医療に関わる倫理学の諸理論、医療倫理の4原則・重要概念について理解できる 3. ケアの倫理、看護倫理の重要概念について理解できる 4. 看護実践上の倫理的問題に対する感受性と問題解決能力を高めることができる （本授業は、DP1 と DP2 に対応している。）			
授業計画・内容				
第1回 医療倫理・看護倫理の変遷 第2回 医療に関わる倫理学の諸理論：功利主義、義務論、徳倫理 第3回 医療倫理の4原則と原則の対立／医療倫理の4原則を用いた事例検討 第4回 医療倫理の重要概念：インフォームドコンセント、コンピテンス、パターナリズム、尊厳 第5回 ケアの倫理／倫理的ジレンマ／臨床倫理4分割法の活用 第6回 看護倫理の重要概念：アドボカシー、アカウンタビリティ、協働性、ケアリング 第7回 個人ワーク／グループワーク（臨床倫理4分割法を用いた事例検討） 第8回 発表／ディスカッション／まとめ ※遠隔授業となった場合は、ZOOM 等によるオンライン授業で対応する。				
キーワード	医療倫理 ケアの倫理 看護倫理 倫理的ジレンマ 臨床倫理4分割法			
教科書	指定しない			
参考書	授業時紹介する			
評価方法・評価基準	評価方法：レポート（100%） 提示された事例について、生じているジレンマが理解できているか、さらに、臨床倫理4分割法を用いて、関わりの方向性が導き出せるかについて、以下の評価基準に沿って評価する。 評価基準：①課題を的確に把握、②論旨の一貫性、③資料の構成の適切性 ※遠隔授業時の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。			
関連科目	専門教育科目全般			

履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	事前学習：事前に配布する資料に目をとおり予備知識を持って授業に臨む
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が看護倫理学に関する授業および事例検討の演習を行う
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護に関する科目 養護概説
その他	特になし

母性看護学概論

(Introduction to Maternal Nursing)

担当教員名 岩谷 久美子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2 年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	随時 (N408)			
メールアドレス	岩谷 : kiwatani@fpu.ac.jp			
授業概要	母性看護の基盤となる概念（母性・父性・親性など）と母親および父親の役割取得と発達、女性のライフサイクルに応じた発達課題について教授する。さらに、現代社会の中に産むことと子育てに関する現状と課題を提示し、母性看護学の特徴・役割について教授する。			
到達目標	1. 母性看護の基盤となる概念が理解できる。 2. 人の性と生殖のメカニズムとその意義が理解できる。 3. ライフステージ各期における健康問題と支援について学ぶ。 4. 母子保健の動向や法律、国際化と問題点、ジェンダーと人権等について考察できる。 5. 母子のための地域包括ケアについて学び、母性看護の役割・意義を理解する。 (本授業はDP-1・2に対応している)			
授業計画・内容				
第1回	母性看護の基盤となる概念			
第2回	人間の性と生殖のメカニズム			
第3回	母性の健康と生活環境			
第4回	女性のライフステージ各期の健康と看護問題（喫煙・子宮がん・更年期障害など）			
第5回	女性のライフステージ各期の健康と看護問題（性感染症・人工妊娠中絶・不妊など）			
第6回	ジェンダーと人権			
第7回	母子保健に関する歴史・動向・法律・施策			
第8回	母性看護学の特徴、母子のための地域包括ケア、母性看護に関わる職種・場・役割・連携			
※対面授業ができない場合はZoom等による授業とGCを利用します。				
キーワード	母性・父性・セクシュアリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ・ライフサイクル・母子のための地域包括ケア			
教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 母性看護学1 医学書院			
参考書	講義資料はその都度配布する。参考書は随時紹介する。			
評価方法・評価基準	評価方法：レポート:70%、小テスト30%、で評価する。 評価基準：授業最初にルーブリックで示すが、到達目標を5段階で評価する。 ただし対面式で評価できない場合は、レポート等、後日連絡する。			
関連科目	看護の基礎科目			
履修要件	特になし			
必要な事前・事後学修	事前学習：教科書に目を通すこと。 講義時に指示する。			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・助産師の資格を有し業務経験のある教員が母性看護学に必要な基本的な知識を持			

	って講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

母性看護学

(Maternal Health Nursing)

担当教員名 岩谷 久美子 、平井 宏美 、牧野 葵				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 3年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	講義終了後随時 岩谷 (N408) 平井宏美 (N109) 牧野葵 (N304)			
メールアドレス	岩谷 : kiwatani@fpu.ac.jp、平井 : hirohira@fpu.ac.jp、牧野 : mknaoi@fpu.ac.jp			
授業概要	妊娠期・分娩期・産褥期の母親とその子（胎児・新生児）の身体的・精神的・社会的側面からその特徴を概説し、ウエルネスの概念に基づき、健康上の強みを視点に於いた看護の必要性和具体的援助の実際について講義と演習を行う。			
到達目標	1) ウエルネスの概念に基づいて看護の必要性和具体的援助とのつながりを理解できる。 2) 妊産褥婦とその子の正常・異常の経過を理解し、具体的な看護の実際を理解できる。 3) 妊娠期からの母子関係の発達と家族機能ならびに心理的・社会的に応じた看護を理解できる。 4) 周産期の正常からの逸脱の経過を理解し、看護の実際を理解できる。 (本授業は、DP-2・3に対応している)			
授業計画・内容				
日程を変更する可能性もある。初日のオリエンテーションに注意。)				
【妊娠期の看護】 担当：岩谷 久美子				
第1回	妊娠の成立と、妊娠初期の母体の身体的・心理的特徴および胎児の発育と健康状態の理解			
第2回	妊娠経過の健康診査や保健指導、ハイリスク妊娠の理解			
第3回	母親役割取得過程、出産・育児への準備を支援するための看護			
【分娩期の看護】 担当：岩谷 久美子				
第4回	分娩の3要素と分娩経過、分娩経過に伴う産婦の身体的・心理的変化の特徴の理解			
第5回	分娩期の異常についての看護			
【産褥期の看護】 担当：平井 宏美				
第6回	産褥期の定義、産褥期の経過			
第7回	産褥期の健康状態のアセスメント、産褥期の復古現象を促進するための看護			
第8回	産褥期の進行現象を促進するための看護			
第9回	産褥期の母子関係や育児行動、母親役割取得にむけた看護			
第10回	産褥期の異常と看護（特に帝王切開後の看護）			
【新生児の看護】 担当：牧野 葵				
第11回	新生児の定義・分類			
第12回	早期新生児の生理的変化と必要な看護（呼吸、循環、体温）			
第13回	早期新生児の生理的変化と必要な看護（糖代謝、消化・吸収、栄養、黄疸、免疫等）			
第14回	早期新生児の生理的変化と必要な看護・帝王切開術で出生した児の特徴と看護			
第15回	早産・低出生体重児・ハイリスク児の特徴と看護			
キーワード	妊娠、分娩、産褥、妊産褥婦、新生児、母性、ウエルネス、母子関係、家族、不妊			
教科書	1) 系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学1、医学書院 2) 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学2、医学書院 3) 村本淳子・崎山貴代：ナーシング・ポケットマニュアル 母性看護 最新版、医歯薬出版			

参考書	1) 新道幸恵 他：母性の心理社会的側面と看護ケア、医学書院 2) 太田操編著：ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程、医歯薬出版 第4版 3) 有森直子 編集：母性看護学Ⅱ、医歯薬出版株式会社
評価方法・評価基準	評価方法：講義の理解度を試験（100点）として評価を行う。また小テストで理解度を確認する。 評価基準：到達目標に照らして総合的な理解度を最終試験で評価する。 評価配分は、岩谷：30%、平井：40%、牧野 30%、とする。 ただし、対面式で試験ができない場合は、出題形式や試験の実施方法を変更する。
関連科目	専門基礎科目、看護の基礎科目、母性看護学概論、小児看護学概論
履修要件	2年次までに必修となっている専門科目を履修していること
必要な事前・事後学修	事前学習：教科書に目を通すこと。教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・助産師業務を経験した教員が母性看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実態に働きかける看護技術。認識に働きかける技術・看護過程展開の技術について講義・演習する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	対面授業ができない場合は zoom によるオンライン授業、LMS・GC によるオンデマンド授業等で行う

母性看護学演習

(Maternal Health Nursing Seminar)

担当教員名 岩谷 久美子 、平井 宏美 、牧野 葵				
科目区分 専門 必修	授業方法 演習	対象学年 3 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	講義終了後随時 岩谷 (N408) 平井宏美 (N109) 牧野葵 (N304)			
メールアドレス	岩谷 : kiwatani@fpu.ac.jp、平井 : hirohira@fpu.ac.jp、牧野 : mknaoi@fpu.ac.jp			
授業概要	妊娠期・分娩期・産褥期の母親とその子（胎児・新生児）の身体的・精神的・社会的側面からその特徴を理解し、看護過程を通してアセスメントする視点を学ぶ。さらに演習により、母性看護の対象に対する具体的援助の実際について学び、母性看護の役割を理解する。また母子保健に関して国内だけでなく、海外の看護活動から、現状や課題を考察できる機会とする。			
到達目標	1)) 妊産褥婦とその子の正常な経過を理解し、必要な知識・技術を習得する。 2) 海外における母子保健の現状・課題を考察できる。 3) 具体的な事例を通して、妊産褥婦の生理的変化への適応促進と健康上の問題解決のための看護過程が展開できる基礎的能力を養う。 (本授業は DP-3・4 に対応している)			
授業計画・内容				
(特別講義のため、日程を変更する可能性もある。初日のオリエンテーションに注意。)				
【妊娠期・分娩期の看護】 担当：岩谷 久美子				
第 1 回	妊娠期の観察と看護			
第 2 回	妊娠期の健康診査や保健指導の実際とアセスメント			
第 3 回	産婦と胎児の分娩進行にむけた援助			
第 4 回	妊娠期・分娩期のアセスメントと看護過程の展開			
第 5 回	海外（フィリピン）における母子保健の現状・課題（特別講義）			
【産褥期の看護】 担当：平井 宏美				
第 6 回	産褥期の観察と看護			
第 7 回	産褥期の進行現象を促進するための看護、母子関係や育児行動、母親役割取得にむけた看護			
第 8 回	産褥期の健康状態のアセスメント			
第 9 回	産褥期の看護過程の展開			
第 10 回	帝王切開術による産褥期のリスクと看護			
【新生児の看護】 担当：牧野 葵				
第 11 回	新生児期の観察と看護			
第 12 回	新生児期の看護に必要な援助技術			
第 13 回	帝王切開術で出生した児の特徴と看護			
第 14 回	新生児期のアセスメント			
第 15 回	新生児期の看護過程の展開			
キーワード	妊娠、分娩、産褥、妊産褥婦、新生児、看護過程、母子関係、家族、母性看護技術			
教科書	1) 系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学 1、医学書院 2) 系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学 2、医学書院 3) 村本淳子・崎山貴代：ナーシング・ポケットマニュアル 母性看護 最新版、医歯薬出			

	版
参考書	1) 新道幸恵 他：母性の心理社会的側面と看護ケア、医学書院 2) 太田操編著：ウエルネス看護診断に基づく母性看護過程、医歯薬出版 第4版 3) 有森直子 編集：母性看護学Ⅱ、医歯薬出版株式会社
評価方法・評価基準	評価方法：講義の理解度を最終試験（100点）として評価を行う。 評価基準：到達目標に照らして総合的な理解度、特に母性看護に関する技術・看護過程のアセスメント力が身についたかどうか評価する。 ただし、対面式で試験ができない場合は、出題形式や試験の実施方法を変更する。
関連科目	専門基礎科目、看護の基礎科目、母子看護学概論、母性看護学、小児看護学
履修要件	2年次までに必修となっている専門科目を履修していること
必要な事前・事後学修	事前学習：教科書に目を通すこと。教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・助産師業務を経験した教員が母性看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実態に働きかける看護技術。認識に働きかける技術・看護過程展開の技術について講義・演習する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	対面授業ができない場合は zoom によるオンライン授業、LMS・GC によるオンデマンド授業等で行う。

小児看護学概論

(Introduction to Child Health Nursing)

担当教員名 金粕 仁美				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	随時受付 金粕 (N308)			
メールアドレス	金粕: kanekasu@fpu.ac.jp			
授業概要	子どもと家族を取り巻く社会の変遷を概観した上で、小児医療・看護の現状について学ぶ。また、子どもを理解するための発達理論や子どもの成長発達の特徴と支援について学ぶ			
到達目標	1. 子どもと家族を取り巻く社会や小児医療・看護の変遷と現状について理解を深めることができる 2. 胎生期～思春期・青年期までの子どもの発達の特徴と支援について理解を深めることができる 本授業は、DP 1・2・3に対応している			
授業計画・内容				
第1回 子どもと家族を取り巻く社会の変遷 子どもの保健・福祉に関する法律 第2回 子どもを理解するための発達理論 小児医療・小児看護の変遷、プレパレーション 第3回 難病をもつ子どもとその家族 第4回 子どもの成長発達の特徴と支援：胎生期・新生児期・乳児期 第5回 子どもの成長発達の特徴と支援：幼児期① 第6回 子どもの成長発達の特徴と支援：幼児期② 第7回 子どもの成長発達の特徴：学童期、思春期・青年期 第8回 小児医療における医療安全、倫理 * 遠隔授業になった場合：ZOOM によるオンライン授業、GC を利用				
キーワード	子どもと家族、成長・発達、母子保健、児童福祉、子育て支援			
教科書	1) ナーシング・グラフィカ 小児看護学①, 小児の発達と看護, メディカ出版 2) 病気が見える Vol.15, 小児科, Medic Media			
参考書	1) 保育に役立つ子どもの発達が分かる本, 金子龍太郎, 吾田富士子, ナツメ社 2) 科学的看護論, 薄井坦子, 日本看護協会出版会			
評価方法・評価基準	評価方法はレポートと小テストから総合的に判断する。詳細は初回講義時に説明する 遠隔授業になった場合も同様			
関連科目				
履修要件				
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が講義時に指示する			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有し業務経験のある教員が、小児看護学の基本的な知識及び看護実践に必要な考え方について講義する			

施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 学校保健
その他	

小児看護学

(Child Health Nursing)

担当教員名 金粕 仁美 、上谷 祐子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 3年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	随時受付 金粕 (N308) 上谷 (N110)			
メールアドレス	金粕: kanekasu@fpu.ac.jp, 上谷: kamitani@fpu.ac.jp			
授業概要	さまざまな発達段階・健康障害とその段階・生活過程にある子どもに対し、適切な看護を行うための基本的な考え方と看護技術について学ぶ			
到達目標	1. 科学的看護論を基盤に、子どもとその家族を対象とした看護過程の展開が理解できる 2. 基礎看護技術の知識を基に、小児看護に必要な看護技術が理解・習得できる 本授業は、DP 2・3に対応している			
授業計画・内容				
第1回 導入、虐待防止・こどもの貧困への対策 第2回 児童福祉：障害を持つ子どもへの支援 第3回 子どもの疾患と看護：慢性疾患（気管支喘息） 第4回 子どもの疾患と看護：慢性疾患（気管支喘息）事例展開 第5回 子どもの疾患と看護：慢性疾患（Ⅰ型糖尿病） 第6回 子どもの疾患と看護：慢性疾患（Ⅰ型糖尿病）事例展開 第7回 子どもの疾患と看護：悪性腫瘍（白血病） 第8回 子どもの疾患と看護：悪性腫瘍（神経芽腫） 第9回 特別講義（1）：子どものあそび 第10回 特別講義（1）：子どものあそび 第11回 特別講義（2）：発達障害児の医療と療育 第12回 特別講義（2）：発達障害児の医療と療育 第13回 子どもの疾患と看護：精神疾患、神経疾患 第14回 子どもの疾患と看護：周術期（アデノイド増殖症）事例展開 第15回 子どもの疾患と看護：周術期（プレパレーション） 第1～6回, 13～15回は金粕、第7, 8回は上谷が担当する * 遠隔授業になった場合：ZOOMによるオンライン授業、GCを利用				
キーワード	子どもと家族、成長・発達のアセスメント、看護展開、小児看護技術			
教科書	1) ナーシング・グラフィカ 小児看護学①, 小児の発達と看護, メディカ出版系統 2) ナーシング・グラフィカ 小児看護学②, 小児看護技術, メディカ出版 3) 病気が見える Vol. 15, 小児科、Medic Media			
参考書	1) 保育に役立つ子どもの発達が分かる本, 金子龍太郎, 吾田富士子, ナツメ社 2) 科学的看護論, 薄井坦子, 日本看護協会出版会			
評価方法・評価基準	評価方法はレポートと小テストで総合的に判断する。レポートには、事例展開の記録や授業毎のミニレポート、特別講義のレポートが含まれる。詳細は初回講義時に説明する遠隔授業となった場合も同様			
関連科目	基礎看護技術ⅠⅡⅢ、フィジカルアセスメント、母性看護学、精神看護学、家族看護論、学校保健Ⅰ			

履修要件	小児看護学概論を履修していること
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が講義時に指示する
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有し業務経験のある教員が、小児看護に関する基本的な知識及び看護技術、 看護過程展開について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）
その他	

小児看護学演習

(Skill Training Seminar of Child Health Nursing)

担当教員名 金粕 仁美、上谷 祐子				
科目区分 専門 必修	授業方法 演習	対象学年 3 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	随時受付 金粕 (N308) 上谷 (N110)			
メールアドレス	金粕: kanekasu@fpu.ac.jp, 上谷: kamitani@fpu.ac.jp			
授業概要	さまざまな発達段階・健康障害とその段階・生活過程にある子どもに対し、適切な看護を行うための基本的な考え方と看護技術について学ぶ			
到達目標	1. 子どもとその家族を対象とした看護過程の展開が理解できる 2. 小児看護に必要な看護技術が理解・習得できる 本授業は、DP3・4に対応している			
授業計画・内容				
第1回 手術を受ける子どもへのプレパレーション 第2回 小児がんの子どもと家族の看護：事例展開（記録1） 第3回 小児がんの子どもと家族の看護：事例展開（記録2） 第4回 小児がんの子どもと家族の看護：事例展開（記録3） 第5回 小児がんの子どもと家族の看護：事例展開（記録4） 第6回 小児がんの子どもと家族の看護：事例展開（記録4） 第7回 小児がんの子どもと家族の看護：事例展開（記録5） 第8回 急性期における子どもと家族の看護：事例展開（記録3） 第9回 急性期における子どもと家族の看護：事例展開（記録4） 第10回 急性期における子どもと家族の看護：事例展開（記録4） 第11回 急性期における子どもと家族の看護：事例展開（記録5） 第12回 急性期における子どもと家族の看護：計画発表 第13回 急性期における子どもと家族の看護：計画発表 第14回 小児看護技術（1）：VS測定，フィジカルアセスメント 第15回 小児看護技術（2）：輸液法・与薬，日常生活援助 第1回, 8～14回は金粕、第2～7回, 15回は上谷が担当する * 遠隔授業になった場合：ZOOMによるオンライン授業、GCを利用				
キーワード	子どもと家族、成長・発達のアセスメント、看護展開、小児看護技術			
教科書	1) ナーシング・グラフィカ 小児看護学①, 小児の発達と看護, メディカ出版系統 2) ナーシング・グラフィカ 小児看護学②, 小児看護技術, メディカ出版 3) 病気が見える Vol. 15, 小児科、Medic Media			
参考書	1) 保育に役立つ子どもの発達が分かる本, 金子龍太郎, 吾田富士子, ナツメ社 2) 科学的看護論, 薄井坦子, 日本看護協会出版会			
評価方法・評価基準	評価方法はレポートで総合的に判断する。レポートには、事例展開の記録や小児看護技術のレポート、授業毎のミニレポートが含まれる。詳細は初回講義時に説明する 遠隔授業となった場合も同様			
関連科目	基礎看護技術ⅠⅡⅢ、フィジカルアセスメント、母性看護学、精神看護学、家族看護論、学校保健Ⅰ			

履修要件	小児看護学概論を履修していること
必要な事前・事後学修	準備学習については教員が講義時に指示する
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有し業務経験のある教員が、小児看護に関する基本的な知識及び看護技術、 看護過程展開について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）
その他	

成人・老年看護学概論

(Introduction to Adult・Gerontological Nursing)

担当教員名 有田 広美 、久米 真代 、熊谷 あゆ美				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	メールで事前連絡要 有田（N413）久米（N311）熊谷（N415）			
メールアドレス	有田：arita 久米：kume 熊谷：ayuku 末尾に@fpu.ac.jp を付けてください			
授業概要	成人期および老年期にある人の身体・心理・社会的特徴、発達課題や生活、さらに様々な健康課題を理解し、看護に必要な知識を教授する。老年期を過ごす人々が自身の健康問題に取り組み、家族や地域社会の中でどのように生活しているのかを学ぶとともに老年期にある人々の健康、看護の基本的な考え方と実践に必要な看護を教授する。また、成人および高齢者の健康政策、社会保障の変遷を踏まえて今後の方向性を探求する。			
到達目標	1. 成人期にある人々の身体的・心理的・社会的特徴を述べられる 2. 老年期にある人々の身体的・心理的・社会的な側面から加齢に伴う変化を理解し、加齢変化を考慮した看護を考えることができる 3. 加齢変化や様々な課題に適応しながら生活している高齢者の多様性、低下していく力と持てる力、伸びゆく力を理解できる 4. 成人および老年期にある人々の健康問題と保健・医療・福祉政策を理解できる 5. 疾病の経過（急性期からターミナル期）と各経過期の特徴および看護について理解できる 6. 老年看護の専門家の活動を通して老年看護の将来像を描くことができる （本授業は、DP1, 2 に対応している。）			
授業計画・内容				
第 1 回 ライフサイクルにおける成人期と老年期の位置づけ、発達課題 有田 第 2 回 成人期にある人の身体的、心理社会的特徴 有田 第 3 回 老年期にある人の身体的・心理社会的特徴 久米 第 4 回 老年期にある人の身体的・心理社会的特徴 久米 第 5 回 成人・老年を取り巻く社会環境の変化と家族の多様化 有田 第 6 回 成人・老年の保健の動向、成人期に特徴的な健康問題 熊谷 第 7 回 老年期に特徴的な健康問題 久米 第 8 回 保健医療福祉政策（生活習慣病対策、がん対策、虐待防止対策と身体拘束禁止等） 有田・久米 第 9 回 社会の変化と高齢者の社会保証制度の変遷 久米 第 10 回 健康の段階に応じた看護（急性期）				

熊谷

第 11 回 健康の段階に応じた看護（回復期）

熊谷

第 12 回 健康の段階に応じた看護（慢性期）

有田

第 13 回 健康の段階に応じた看護（終末期）

久米

第 14 回 地域・在宅への継続医療と看護、質の高い看護実践のための人材

有田

第 15 回 特別講義：老年看護専門看護師の活動

久米

※遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業を行う

キーワード	成人 老年 発達課題 加齢変化 健康問題
教科書	成人看護学 1 成人看護学概論/成人保健 第 7 版 メヂカルフレンド社 2024 年版 最新老年看護学第 4 版 日本看護協会出版会 2024 年版
参考書	特になし
評価方法・評価基準	筆記試験 100% ※対面で期末筆記試験ができない場合は評価方法を変更することがある
関連科目	基礎看護学概論
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	講義時に適宜提示する
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師を経験した教員および専門看護師が基本的知識および高度な看護実践を講義する
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

急性看護学

((Acute Nursing))

担当教員名 熊谷 あゆ美 矢島 直樹				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2 年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	授業終了後 熊谷 (N415) 矢島 (N208)			
メールアドレス	熊谷 : ayuku@fpu. ac. jp 矢島 : nya.jima@fpu. ac. jp			
授業概要	手術を受ける患者や健康状態の急激な変化が予測される患者の看護について、基礎的知識を習得する。手術侵襲が生体に及ぼす影響、術後合併症予防、急性疾患の病態とトリアージ、家族看護について学ぶ。			
到達目標	1. 手術となる疾患の病態、手術侵襲と生体反応が理解できる。 2. 周術期における全身の機能とアセスメント、術後合併症と看護を理解できる。 3. 手術や急性疾患が及ぼす身体面や心理面への影響と意思決定支援の重要性を理解できる。 4. 救命救急の場合や災害時におけるトリアージと観察の必要性が理解できる。 (本授業は、DP2、3 に対応している)			
授業計画・内容				
周術期にある患者の理解と周術期看護 [熊谷]				
第 1 回 : 手術侵襲と生体反応、全身管理				
第 2 回 : 術前の看護 : 身体面のアセスメントと術前訓練				
第 3 回 : 術前の看護 : 心理面のアセスメントと意思決定支援				
第 4 回 : 臓器移植と看護の実際 (特別講義)				
第 5 回 : 術中の看護 : 麻酔と手術、手術看護				
第 6 回 : 術直後・術後の看護 : 予測される問題と観察、術後合併予防				
第 7 回 : "				
第 8 回 : 消化器外科手術と看護 : 胃がん				
第 9 回 : 術式の特殊性と看護 (グループワーク)				
心臓・血管外科手術、呼吸器外科手術、脳神経外科手術、婦人科手術、泌尿器科手術等				
第 10 回 : 術式の特殊性と看護 発表				
第 11 回 : 術式の特殊性と看護 まとめ				
危機的状況にある患者や家族の理解と救急看護 [矢島]				
第 12 回 : 救命救急と看護の実際 (特別講義)				
第 13 回 : 救命救急 : 重症患者のフィジカルアセスメント				
第 14 回 : 救命処置 : 一次救命処置、二次救命処置、外傷初期診療と看護				
第 15 回 : 救急医療体制				
※遠隔授業の場合は ZOOM によるオンライン授業、グーグルクラスルームによるオンデマンド授業等を行う。				
キーワード	周術期看護 手術侵襲 術後合併症 救急看護 救急医療			
教科書	成人看護学 急性期看護学Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 成人看護学 急性期看護学Ⅱ 救急看護・クリティカルケア 南江堂			
参考書	特になし			
評価方法・評価基準	評価方法は到達目標の達成度を期末試験、グループワーク、課題、小テストから、総合的に評価する。			

	評価基準は講義時に説明する。遠隔授業の場合も同様とする。
関連科目	専門基礎科目 成人・老年看護学概論 セルフケア支援論
履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	教員が講義時に提示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり この領域での看護師経験のある教員が、急性看護学の基本的な知識について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）
その他	特になし

急性看護学演習

((Seminar on Acute Nursing))

担当教員名 熊谷 あゆ美 矢島 直樹				
科目区分 専門 必修	授業方法 演習	対象学年 3 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	授業終了後 熊谷 (N415) 矢島 (N208)			
メールアドレス	熊谷 : ayuku@fpu. ac. jp 矢島 : nyajima@fpu. ac. jp			
授業概要	手術を受ける患者が合併症を併発することなく、回復過程を歩むためのケアについて学ぶ。救命救急に必要な患者の観察や救命処置について、根拠に基づき実践できる基礎的能力を養う。事例を用いた術前術後ケアの技術演習、救急時対応のシミュレーションを通して学ぶ。			
到達目標	1. 手術を受ける対象の看護過程の展開が理解できる。 2. 術後合併症予防のための術前術後ケアの根拠が理解できる。 3. 救命救急に必要な患者の観察や処置の根拠が理解できる。 (本授業は、DP3、4に対応している)			
授業計画・内容				
周術期にある患者の看護過程の展開と合併症予防のためのケア [熊谷/矢島]				
第 1 回 : 周術期患者の看護				
第 2 回 : "				
第 3 回 : 看護過程の事例展開 : 術前 情報収集				
第 4 回 : " : 術前 問題の明確化				
第 5 回 : " "				
第 6 回 : 術前の呼吸訓練演習				
第 7 回 : " 発表とまとめ				
第 8 回 : 看護過程の事例展開 : 術中 看護計画立案				
第 9 回 : " : 術直後 看護計画立案				
第 10 回 : " : 術後 看護計画立案				
第 11 回 : 術後の早期離床演習				
第 12 回 : " 発表とまとめ				
危機的状況にある患者に必要なケア [矢島/熊谷]				
第 13 回 : 救急患者の看護				
第 14 回 : 救命処置演習				
第 15 回 : " 発表とまとめ				
※遠隔授業の場合は ZOOM によるオンライン授業、グーグルクラスルームによるオンデマンド授業等を行う。				
キーワード	周術期看護 術前術後ケア 看護過程 一次救急処置 二次救急処置			
教科書	成人看護学 急性期看護学Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 成人看護学 急性期看護学Ⅱ 救急看護・クリティカルケア 南江堂			
参考書	成人看護学 成人看護技術 南江堂			
評価方法・評価基準	評価方法は到達目標の達成度を期末試験、グループワーク、課題、演習記録から、総合的に評価する。 評価基準は講義時に説明する。遠隔授業の場合も同様とする。			
関連科目	専門基礎科目 看護の基礎科目 成人・老年看護学概論 セルフケア支援論 急性看護学			

履修要件	特になし
必要な事前・事後学修	教員が演習時に提示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり この領域での看護師経験のある教員が、急性看護学の基本的な知識について演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特になし
その他	特になし

セルフケア支援論

(Self-care Support for Chronic Diseases)

担当教員名 有田 広美、久米 真代、熊谷 あゆ美、岡田 恭子、 藤田 祐子、 松崎 かさね				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	メールで事前連絡要 有田（N413）久米（N311）熊谷（N415）岡田（N508）松崎（N411）藤田（N110）			
メールアドレス	有田：arita 久米：kume 熊谷：ayuku 岡田：okada 藤田：yfujita 松崎：kasane 末尾に@fpu.ac.jp を付けてください			
授業概要	慢性疾患の特徴や慢性疾患を持つ患者の健康障害を理解し、慢性的な健康障害をもって生きる人に看護を提供するための知識・技術を教授する。さらに、慢性疾患のセルフケアが上手くできずに、急性増悪した際の治療および看護についても教授する。また、社会資源の活用や患者とその家族を支える保健医療福祉制度、多職種連携と退院支援等を教授する。			
到達目標	1. 慢性の健康障害を持つ人の治療と生活習慣の再調整を支援する方法を説明できる 2. 病いや障がいと共に生きていくことについて考察できる 3. 慢性疾患が急性増悪したときの看護を理解できる 4. 退院後の療養生活を見据えた退院支援を理解できる （本授業は、DP 2, 3に対応している）			
授業計画・内容				
第1回	生活習慣の継続的な調整を必要とする患者の看護（糖尿病）			有田
第2回	生活習慣の継続的な調整を必要とする患者の看護（糖尿病）			有田
第3回	生活習慣の継続的な調整を必要とする患者の看護（慢性腎不全）			藤田
第4回	生活習慣の継続的な調整を必要とする患者の看護（慢性腎不全）			藤田
第5回	生活習慣の継続的な調整を必要とする患者の看護（慢性心不全）			久米
第6回	生活習慣の継続的な調整を必要とする患者の看護（慢性心不全）			久米
第7回	生活の再構築を必要とする患者の看護（パーキンソン病）			松崎
第8回	生活の再構築を必要とする患者の看護（パーキンソン病）			松崎
第9回	生活の調整を必要とする患者の看護（慢性閉塞性肺疾患）			岡田
第10回	生活の調整を必要とする患者の看護（肺炎、誤嚥性肺炎）			岡田
第11回	慢性疾患増悪時の看護（呼吸器、循環器系疾患）			熊谷
第12回	放射線治療を受ける人の看護			
有田				
第13回	がん化学療法を受ける人の看護（がん看護専門看護師による特別講義）			有田
第14回	生活習慣の継続的な調整を必要とする患者の看護（クローン病・潰瘍性大腸炎）			有田
第15回	生活習慣の継続的な調整を必要とする患者の看護（クローン病・潰瘍性大腸炎）			有田
※遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業を行う				
キーワード	セルフケア 疾病受容 退院支援 成人 高齢者			
教科書	最新老年看護学第4版，日本看護協会出版会，2024年版 がん看護学 第3版，医学書院，2024年版			
参考書				

評価方法・評価基準	評価方法：筆記試験 100%（各担当教員が授業コマ数に合わせた配分で出題する） 評価基準：講義の理解度を期末試験として評価する ※遠隔授業の場合は上記と同じ評価方法・評価基準とする
関連科目	成人・老年看護学概論 解剖生理学、臨床病態学、薬理学等
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	講義時に提示する
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師を経験した教員および専門看護師が基本的知識および高度な看護実践を講義する
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

セルフケア支援演習

(Seminar Self-care Support for Chronic Diseases)

担当教員名 有田 広美、久米 真代、藤田 祐子、松崎 かさね				
科目区分 専門 必修	授業方法 演習	対象学年 3 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	メールで事前連絡要 有田（N413）久米（N311）松崎（N411）藤田（N110）			
メールアドレス	有田：arita 久米：kume 藤田：yfujita 松崎：kasane 末尾に@fpu.ac.jp を付けてください			
授業概要	慢性疾患の発症や慢性疾患の急性増悪で治療を受ける患者および家族を理解し、健康的なライフスタイルの調整や退院後のセルフケア行動の獲得に向けた支援を学ぶ。事例を用いてアセスメント、看護計画立案し、看護技術演習では実践を学ぶ。少人数のグループ討議を中心に個別学習を進める。			
到達目標	1. 紙上患者のこれまでの生活習慣および生きた過程を踏まえ、身体・心理・社会的側面から全体像を描くことができる 2. 紙上患者の治療による苦痛、治療が今後の生活に及ぼす影響を述べられる 3. 既習の知識を基に事例の看護過程の展開ができる 4. 紙上患者に援助を提供する際に必要な知識・技術を用いて実践できる （本授業は、DP3、4に対応している）			
授業計画・内容				
第1回 【講義】アセスメントの枠組み、看護過程の展開（有田、久米）				
第2回 【講義】看護過程の展開（有田、藤田）				
第3回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開①（有田、藤田、松崎）				
第4回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開②アセスメント（有田、藤田、松崎）				
第5回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開③関連図（有田、藤田、松崎）				
第6回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開④看護計画（有田、藤田、松崎）				
第7回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開⑤看護技術演習（有田、藤田、松崎）				
第8回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開⑥看護技術演習（有田、藤田、松崎）				
第9回 がん化学療法を受ける肺がん患者の看護過程の展開⑦長期の治療に対する支援（有田、藤田、松崎）				
第10回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開①疾患の理解（久米、松崎、藤田）				
第11回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開②全体像の理解と退院に向けた課題の明確化（久米、松崎、藤田）				
第12回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開③課題の優先順位の決定とアセスメント（久米、松崎、藤田）				
第13回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開④看護計画の立案（久米、松崎、藤田）				
第14回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢者の看護過程の展開⑤技術演習 酸素療法・点滴治療を行っている高齢患者の移動介助（松崎、久米、藤田）				
第15回 心不全の急性増悪で治療を受ける高齢患者の看護過程の展開⑥計画の実施・評価（久米、松崎、藤田）				

※遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業を行う

キーワード	セルフケア 急性増悪 退院支援 成人 高齢患者 看護過程展開
教科書	今日の治療薬 2024, 南江堂
参考書	最新老年看護学第 4 版, 日本看護協会出版会, 2023 年版 がん看護学 第 3 版, 医学書院, 2023 年版、「セルフケア支援論」特別講義の資料
評価方法・評価基準	評価方法：看護過程の展開記録 60% (各 30%)、筆記試験 40% 評価基準：看護過程の展開記録は必要な知識を使い妥当な展開ができているかにより評価する
関連科目	解剖生理学、薬理学、臨床病態学、成人・老年看護学概論、セルフケア支援論 老年看護援助論
履修要件	なし
必要な事前・事後学修	講義時に提示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり この領域で看護師経験のある教員が本演習に必要な基本的知識および看護技術を講義する
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

老年看護援助論

(Gerontological Nursing Care Assistance)

担当教員名 久米 真代 、岡田 恭子 、松崎 かさね					
科目区分 専門 必修		授業方法 講義	対象学年 2	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	講義終了後および在室時。実習指導で不在のことがあるため、事前にメールをいただくと確実です。 久米（N311）、岡田（N508）、松崎（N411）				
メールアドレス	久米：kume 岡田：okada 松崎：kasane ※末尾に@fpu.ac.jp をつけてください				
授業概要	高齢者の栄養と摂食機能の特徴、排泄機能の特徴を理解し、食と排泄を関連付けて看護の実際を理解できる。加齢に伴う運動機能や運動器官の変性や病態を理解し、活動を維持するための看護の実際が理解できる。高齢者の認知機能の特徴と障害（高齢者うつ、せん妄、認知症）を理解し、看護の実際が理解できる。				
到達目標	1. 加齢に伴う栄養、摂食機能、排泄機能の変化を理解できる 2. 運動機能の加齢変化、高齢者に多い疾患が高齢者の生活に及ぼす影響を理解し、根拠に基づいた看護を行う基礎知識を修得できる 3. 高齢者の“強み”に着目し、もてる機能を維持しながら生活するための看護を考えることができる 4. うつ、せん妄、認知症の違いを述べることができる 5. 認知機能障害をもつ高齢者の健康と生活を援助するために必要な基本的知識と技術が身につく （本科目はDP2・3に対応する。）				
授業計画・内容					
第 1 回 多角的・包括的な健康アセスメントの枠組みと方法 （久米）					
第 2 回 消化器系の加齢変化と低栄養 （久米）					
第 3 回 摂食嚥下障害のアセスメントと看護①摂食嚥下機能の加齢変化 （松崎）					
第 4 回 摂食嚥下障害のアセスメントと看護②摂食嚥下障害のアセスメントと看護 （松崎）					
第 5 回 加齢に伴う泌尿器系の変化と排尿障害、排便障害 （岡田）					
第 6 回 排泄障害のアセスメントと看護 （岡田）					
第 7 回 脱水・熱中症のアセスメントと看護 （久米）					
第 8 回 運動器（骨・関節・筋・神経）・平衡覚の加齢変化、転倒予防のアセスメントと看護 （久米）					
第 9 回 骨粗鬆症・骨折後のアセスメントと看護 （久米）					
第 10 回 睡眠障害の特徴と看護 （久米）					
第 11 回 うつの特徴と看護 （久米）					
第 12 回 せん妄の特徴とせん妄を予防する看護 （久米）					
第 13 回 認知症の理解①認知症の原因疾患と診断過程 （久米）					
第 14 回 認知症の理解②認知機能障害の特徴と認知症の行動・心理症状 （久米）					
第 15 回 認知症高齢者の看護の基本、アセスメントと看護 （久米）					
※遠隔授業となった場合、ZOOM によるオンライン授業もしくは GC によるオンデマンド授業となる					
キーワード	低栄養、食と排泄、運動機能、活動と休息、うつ、せん妄、認知症				
教科書	最新老年看護学第 4 版 2024 年版				
参考書	講義の時に適宜紹介する				

評価方法・評価基準	評価方法：試験 100% 評価基準：試験の採点結果を基準とする。
関連科目	成人・老年看護学概論、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床栄養学・生化学、臨床薬理学、病態生理学、臨床病態学
履修要件	成人・老年看護学概論、基礎看護学実習は履修していること
必要な事前・事後学修	講義時に提示する
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 高齢者専門の病院や急性期病院、介護老人保健施設で看護師業務を経験した教員が、老年看護学の基礎的な知識・技術について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

老年看護援助演習

(Seminar on Gerontological Nursing Assistance)

担当教員名 久米真代、岡田恭子、松崎かさね					
科目区分 専門必修		授業方法 演習	対象学年 3年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	講義終了後と事前にメールをいただければいつでも対応します 久米 (N311)、岡田 (N508)、松崎 (N411)				
メールアドレス	久米 : kume 岡田 : okada 松崎 : kasane ※末尾に@fpu.ac.jp をつけてください				
授業概要	長期臥床によって全身の筋肉が低下して高齢者の離床拡大に向けて必要なフィジカルアセスメントの実際や援助技術の実際を学ぶ。脆弱な皮膚の特徴を理解し、医療関連機器の圧迫創傷や失禁関連皮膚炎の予防につながる援助の実際を学ぶ。認知症高齢者との具体的ななかかわり方について学ぶ。慢性疾患の急性増悪に多い慢性心不全や脳血管障害の事例を用いて、病態を理解したうえで回復過程の看護の実際について事例展開を通して学ぶ。				
到達目標	1. フレイル・生活不活発病を予防する看護を考えることができる 2. 高齢者の皮膚の特徴を理解し、皮膚トラブルを予防する看護が実践できる 3. 高齢者の権利や尊厳が侵害されやすい要因を理解し、看護について考えることができる 4. 複数の疾患に罹患し、介護老人保健施設に入所している認知症高齢者の事例をもとに身体・心理・社会的側面および“強み”をとらえ、全体像を描くことができる 5. 既習の知識をもとに高齢者を多角的・包括的にアセスメントし、看護計画を立案することができる 6. ロールプレイを行うことで自分の実践を振り返り、計画を評価・修正することができる (本授業はDPの3・4に対応している。)				
授業計画・内容					
第1回 老年症候群・フレイル・生活不活発病と看護 (久米)					
第2回 高齢者の皮膚の特徴と医療関連機器圧迫創傷やスキンケア、失禁関連皮膚炎を予防する看護 (久米)					
第3回 高齢者の皮膚トラブルを予防するケアの実際(保湿ケア、テープのはがし方、おむつの選択方法と使用、交換) (岡田、松崎、久米)					
第4回 老年看護の倫理的課題(認知症高齢者の意思決定支援を含む) (松崎)					
第5回 脳血管疾患のアセスメントと看護: 疾患の特徴と高齢者ゆえの課題 (久米)					
第6回 脳血管疾患のアセスメントと看護: アセスメントの視点と看護の実際 (久米)					
第7回 高齢者の人生の最終段階における看護 高齢者のエンドオブライフケア (岡田)					
第8回 介護保険施設における看護 (松崎)					
第9回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程①病気の理解 (第9～15回: 久米、岡田、松崎)					
第10回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程②全体像の理解と高齢者の望む生活に影響する課題の明確化					
第11回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程③課題の優先順位の決定とアセスメント					
第12回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程④看護計画の立案					
第13回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程⑤ロールプレイの計画書を作成					
第14回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程⑥看護計画の実施(ロールプレイ) (認知症看護認定看護師4名)					
第15回 介護老人保健施設に入所している高齢者の看護過程⑦看護計画の評価・修正、まとめ					

キーワード	フレイル、生活不活発病、医療関連機器圧迫創傷、失禁関連皮膚炎、認知症高齢者の意思決定
教科書	2023 年版最新老年看護学第 4 版（日本看護協会出版会）
参考書	なし
評価方法・評価基準	評価基準：演習レポート 20%、看護過程展開の記録 50%、試験 30% ①レポートは演習を通しての学びおよび課題を記述できているかにより評価する。 ②看護過程展開は、必要な知識を使い高齢者の強みを活かした看護の展開が出来ているかにより評価する。 ※遠隔授業となった場合、評価方法を変更することがある。
関連科目	成人・老年看護学概論、老年看護援助論
履修要件	成人・老年看護学概論、老年看護援助論、基礎看護学実習は履修していること。
必要な事前・事後学修	事前・事後学習については、講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 高齢者専門病院および急性期病院、介護老人保健施設で看護師業務を経験した教員が高齢者の特徴に合わせて看護技術を実施し、看護過程の展開において実践を振り返ることができるように演習を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

緩和ケア論

(Palliative Care)

担当教員名 有田 広美 、梅津 千香子 、金粕 仁美 、長谷川 小眞子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2 年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	随時 有田（N413） 梅津（N205） 金粕（N308） 長谷川（N303）			
メールアドレス	有田：arita 梅津：cumedu 金粕：kanekasu 長谷川：hasegawa 末尾に@fpu.ac.jp			
授業概要	緩和ケアの概念を理解するとともに、緩和ケアを提供するうえで必要な基本的知識と技術を教授する。残された時間が限られた人と家族の心理を理解し、苦痛の緩和を考える。さらに、生きることを考える死生観も養う。この授業では領域横断の科目とし、成人期および老年期における終末期の特徴と緩和ケア、小児における終末期の特徴と緩和ケア、精神疾患を持つ人の緩和ケア、在宅における緩和ケアをオムニバス形式で講義する。			
到達目標	1. 緩和ケアの考え方、症状コントロールについて理解できる 2. 緩和ケアを必要とする対象の身体および心理の特徴を理解できる 3. 緩和ケアを必要とする対象とその家族の心理を理解できる 4. 意思決定支援と緩和ケアにおける倫理的課題を理解できる 5. ライフサイクル、健康障害、療養の場の違いにおける緩和ケアを理解できる（本授業は、DP2, 3 に対応している。）			
授業計画・内容				
第 1 回 緩和・ターミナルケアの考え方、全人的苦痛（有田） 第 2 回 緩和ケアの歴史と緩和ケアの現状（有田） 第 3 回 症状コントロール、痛みのアセスメント、WHO がん疼痛除痛ラダー（有田） 第 4 回 意思決定を支える援助①（悪い知らせに対する心理的反応、死にゆく人の心理過程）（有田） 第 5 回 意思決定を支える援助②（ACP、人生の最終段階における医療の決定プロセス）（有田） 第 6 回 緩和ケアを受ける人の心理とコミュニケーション（有田） 第 7 回 ターミナル期にある人の家族の心理 悲嘆（有田） 第 8 回 【演習】アドバンス・ケア・プランニング/事例を基に援助を考える（有田） 第 9 回 【演習】事例を基に援助を考える（グループ発表）（有田） 第 10 回 緩和ケアにおけるチーム医療、非がん患者の緩和ケア（有田） 債 11 回 緩和ケアにおける倫理的課題（有田） 第 12 回 小児看護における緩和ケア（金粕） 第 13 回 精神看護における緩和ケア（長谷川） 第 14 回 在宅における緩和ケア（梅津） 第 15 回 特別講義：緩和ケアにおける意思決定支援とチームアプローチ（がん看護専門看護師）（有田） ※遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業を行う				
キーワード	緩和ケア 症状コントロール 全人的苦痛 意思決定支援 緩和ケアにおける倫理的課題			
教科書	ナーシンググラフィカ成人看護学⑥緩和ケア第 3 版, メディカ出版, 2022.			
参考書				
評価方法・評価基準	評価方法：期末試験（60%）とレポート課題（40%） 評価基準：筆記試験は到達目標に関する理解の度合い、レポートは課題を的確にとらえてまとめているか。 ※対面で筆記試験ができない場合は評価方法を変更することがある			

関連科目	成人・老年看護学概論
履修要件	
必要な事前・事後学修	講義時に予習箇所を提示する。次回講義までに提示された教科書の範囲を読んでくこと
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師を経験した教員およびがん看護専門看護師が基本的知識および高度な看護実践を講義する
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	終末期や見取りを考えたことがなく難しく感じるかもしれませんが、この科目は看護の原点です。正解を出すのではなく、感じて考えてほしい内容です。

地域包括支援論

(Community-based Integrated Support)

担当教員名 成田光江 竹内智子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義・演習	対象学年 3 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	講義・演習前・中・終了後、必要に応じて対応する 成田（N313）、竹内（N508）			
メールアドレス	成田：narita@fpu.ac.jp 竹内：totake@fpu.ac.jp			
授業概要	地域包括支援論では、生活と環境の関係性と、地域で生活する多様な生活者や生活者の生活実態を理解し、地域包括支援と支援の必要性を学ぶ。また、生活者が望む生活の実現に向けた入退院支援や、生活を支える社会保障制度、自治体施策、制度・施策に基づく地域資源、多機関・多職種の専門性、役割と機能、連携の技術等を学修する。			
到達目標	1. 生活と環境の相互関係がわかる 2. 地域生活者の多様性がわかる 3. 生活を支える社会保障制度や自治体施策、制度・施策に基づく地域資源がわかる 4. 生活者が望む生活の実現に向けた入退院支援方法がわかる 5. 多機関・多職種の専門性、役割と機能、連携の技術がわかる 6. 地域包括支援における看護師の役割がわかる。 本授業は DP の 1～5 に該当する。			
授業計画・内容				
1 回目	生活と環境①	生活と地域・社会との関係		
2 回目	生活と環境②	地域包括支援とは		
3 回目	生活と環境③	外部講師 テーマ：生活を支える住まいと住まい方（仮）		
4 回目	多様な地域資源①	多機関・多職種の専門性と役割（入所系）		
5 回目	多様な地域資源②	多機関・多職種の専門性と役割（訪問系）		
6 回目	多様な地域資源③	地域支援システム（地域包括ケアシステム、重層支援体制）		
7 回目	連携の技術①	個別支援とチーム支援		
8 回目	連携の技術②	地域支援と連携支援		
9 回目	連携の技術③	外部講師 テーマ：生活を支える看護小規模多機能型居宅介護施設サービスの実際（仮）		
10 回目	DVD 視聴	多職種連携 退院前カンファレンス		
11・12 回目	演習①②	事例を用いた地域包括支援 退院支援計画書の作成～発表、まとめ 事例紹介、情報の整理、ジェノグラム、エコマップの作成		
13・14 回目	演習③④	ワークショップ テーマ：こんな包括支援ができればいいな ワークショップ～発表、まとめ		
15 回目	まとめ・総括	地域包括支援における看護の役割と機能		
【備 考】				
遠隔授業になった場合は Zoom によるオンライン講義・演習を行う				
キーワード	多様性、地域資源、入退院支援、多職種連携、地域包括支援			
教科書	ナーシンググラフィカ 健康と社会・生活 MC メディカ出版 その他（適宜紹介する）			
参考書	最新版 医療福祉総合ガイドブック（NPO 法人 日本医療ソーシャルワーク協会） 地域包括ケアシステム、多職種連携、社会保障制度に関する本（適宜紹介する）			

評価方法・評価基準	評価方法：事前学修とレポート内容 80% 演習への取り組み状況、学修態度 20% 評価基準：到達目標の習得状況（事前学修とレポート内容、講義・演習での発言・質問） 自己の考えを整理し、分かりやすく伝えることができているか 礼節をわきまえ自ら学修しているか（容姿、挨拶、返事、主体性、自立性、積極性等） ※対面実習ができない場合は評価方法を変更することがある
関連科目	看護学に関するすべての科目、保健・医療・福祉の支援制度・サービスに関する科目
履修要件	看護学に関する全ての科目を「履修」していなければ履修できない
必要な事前・事後学修	事前学習：既存の知識・技術の振り返り（社会保障制度、自治体施策、入退院支援、病院・施設等の種類と機能、連携職種の専門性と役割、多職種連携 等）、事後学修：レポート作成
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師、社会福祉士の資格を持ち、病院の入院・外来看護、施設看護、訪問看護、入退院支援、多機関・多職種連携、コミュニティワーク、メディカル・ソーシャルワーク、自治体施策の立案・運営等の実務経験者、療育・介護家族の当事者・支援実務経験者
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	健康維持に努め、主体的・自立的に学修すること

地域・在宅看護学

(Community and Home Health Nursing)

担当教員名 普照 早苗、梅津 千香子、成田 光江				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	講義後および必要時（研究室来訪時は事前にメール連絡をすること）			
メールアドレス	sfutio（普照）、cumezu（梅津）、narita（成田） 後ろに@fpu.ac.jp をつけてください。			
授業概要	地域・在宅看護論では、自宅やそれに準じた環境で生活を営む療養者および家族を対象に、看護・医療・福祉・保健のあらゆる側面から QOL を高める支援を目指し、多職種と連携・協働しながら、看護の役割を果たすための基礎的な専門知識・法制度・システム・援助方法について学習する。			
到達目標	1. 地域・在宅看護の役割を果たす際の重要な視点を身につける。 2. 地域・在宅看護の対象者への援助を導き出す看護過程を習得する。 3. 地域で生活する療養者および家族の権利・尊厳について考え理解する能力を身につける。 （本科目は、DP2 と DP3 に対応している。）			
授業計画・内容				
第 1 回 地域・在宅看護学とは 在宅看護の定義、概要と関連する法制度（普照） ～介護保険・医療保険～				
第 2 回 在宅療養を支える社会資源および関連機関と多職種連携（成田）				
第 3 回 訪問看護利用者とその家族の特徴・特性① 療養者本人（梅津）				
第 4 回 訪問看護利用者とその家族の特徴・特性② 家族（梅津）				
第 5 回 在宅療養者とその家族の QOL と尊厳・意思決定（普照）				
第 6 回 在宅におけるリスクマネジメント：予防と救急場面での対応（普照）				
第 7 回 在宅ターミナルケア：人生の最終段階における医療・看護ケア（梅津）				
第 8 回 継続的視点をもった看護：退院調整・退院支援（普照）				
第 9 回 在宅療養者とその家族にかかわる看護倫理（普照）				
第 10 回 在宅療養者とその家族への看護：在宅看護過程①情報収集・アセスメント（梅津・普照）				
第 11 回 在宅療養者とその家族への看護：在宅看護過程②看護計画・具体策立案（梅津・普照）				
第 12 回 在宅療養者とその家族への看護：在宅看護過程③看護展開・看護援助の実施（梅津・普照）				
第 13 回 在宅療養者とその家族への看護：在宅看護過程④評価・計画発表（梅津・普照）				
第 14 回 在宅看護活動における ICT の活用、BCP の重要性（普照）				
第 15 回 地域・在宅看護の今後の展望・発展～まとめ～（普照・梅津）				
※遠隔授業となった場合：ZOOM、LMS を中心としたオンライン授業に切り替える。				
キーワード	地域、在宅生活、療養者と家族、介護力、意思決定、QOL、セルフケア、地域包括ケアシステム、地域共生社会、社会保障、連携、看護過程、ケアマネジメント、リスクマネジメント、倫理			
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①「地域療養を支えるケア」メディカ出版			
参考書	授業内で提示する。			
評価方法・評価基準	①毎回の授業後のレポート課題（50%）、②最終レポート課題（50%）の総合評価を成績とする。但し、①、②各項目の 6 割以上満たしていることを単位取得条件とする。遠隔授業時も同様。			

関連科目	「健康・疾病・障害の理解」「社会の理解」「看護の基礎」の各科目、公衆衛生看護学の各科目
履修要件	「履修の手引き」の履修上の留意事項の通り。
必要な事前・事後学修	
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師・保健師の資格をもつ訪問看護師経験のある教員（普照、梅津）及び、看護師・社会福祉士の資格をもつ教員（成田）が担当する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

地域・在宅看護学演習

(Skill Training Seminar of Community and Home Health Nursing)

担当教員名 普照 早苗、梅津 千香子、成田 光江				
科目区分 専門 必修	授業方法 演習	対象学年 3	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	講義後および必要時（研究室来訪時は事前にメール連絡をすること）			
メールアドレス	sfutio（普照）、cumezu（梅津）、narita（成田） 後ろに@fpu.ac.jp をつけてください。			
授業概要	在宅看護論で学んだ知識を基に、自宅やそれに準じた環境で生活を営む療養者および家族に対して看護の提供ができるよう、在宅看護展開に必要な知識や、実践的な看護技術について学習する。			
到達目標	1. 在宅療養者および家族を対象とした看護援助方法を学び、理解する。 2. 在宅という場における具体的な看護援助技術を学び、実践・習得する。 3. 療養者および家族の生活の場に第三者が介入することの意味を考え、本人および家族を尊重し、配慮した行動とは何かを理解する。 （本科目は、DP3 と DP4 に対応している。）			
授業計画・内容				
第 1 回	ガイダンス：在宅看護論で学んだ知識の再確認（普照）			
第 2 回	地域包括ケアシステム・地域共生社会：多職種連携・協働（成田）			
第 3 回	精神疾患療養者・小児療養児とその家族への訪問看護（普照）			
第 4 回	在宅における医療的ケア及びリハビリテーション（普照）			
第 5 回	在宅療養者とその家族の看護過程① 事例情報の整理とアセスメント（梅津）			
第 6 回	在宅療養者とその家族の看護過程② グループワーク（梅津・普照）			
第 7 回	在宅療養者とその家族の看護過程③ グループワーク（梅津・普照）			
第 8 回	看護過程の発表（梅津・普照）			
第 9 回	在宅における日常生活援助：季節によって変化する援助内容（普照）			
第 10 回	在宅での清潔管理（洗髪・足浴・口腔ケア）① 演習（普照・梅津）			
第 11 回	在宅での清潔管理（洗髪・足浴・口腔ケア）② 演習（普照・梅津）			
第 12 回	在宅における看護倫理（普照）			
第 13 回	訪問看護の実際：家庭に出向く際に留意する振る舞いやマナー（梅津）			

第 14 回 訪問看護事業所の運営・管理の実際（普照）

第 15 回 まとめ：これからの在宅看護に必要な視点（普照・梅津）

※遠隔授業となった場合：ZOOM、LMS を中心としたオンライン授業に切り替える。

キーワード	療養者と家族、地域共生社会、他職種連携、看護過程、看護倫理、家族観、在宅看護技術
教科書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論②「地域療養を支える技術」メディカ出版 「訪問看護おもてなし接遇マナーハンドブック」ラゲーナ出版
参考書	「地域・在宅看護学」で使用したナーシング・グラフィカ地域・在宅看護論①「地域療養を支えるケア」（メディカ出版）も授業時持参すること。その他は随時資料を提示する。
評価方法・評価基準	毎回の授業後のレポート課題（50%）、最終レポート課題（50%）の総合評価を成績とする。但し、上記項目の各 6 割以上満たしていることを単位取得条件とする。遠隔授業時も同様。
関連科目	「看護の基礎」「ライフサイクルと看護」の各科目、公衆衛生看護学の各科目。社会保障・社会福祉概説、衛生関係法規、保健福祉行政論、地域・在宅看護学。
履修要件	「履修の手引き」の履修上の留意事項の通り。
必要な事前・事後学修	在宅看護を扱った書籍・記事・映画等、授業外でも様々なメディアに触れてみる。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・保健師の資格をもつ訪問看護師経験のある教員（普照、梅津）及び、看護師・社会福祉士の資格をもつ教員（成田）が担当する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

精神看護学概論

(Introduction to Mental Health Nursing)

担当教員名 川村 みどり				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	授業終了後または事前のメール連絡で日時調整			
メールアドレス	kwmr2021 アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください			
授業概要	精神看護学の意義・目的・機能および精神看護学が取り扱う精神健康、精神障害の意味を理解する。これを基盤として、さまざまな場や状況における精神看護学の展開に必要な基礎知識を理解する。			
到達目標	1. 精神看護学の意義・目的・機能が理解できる。 2. 精神看護における基本的な理論や技法が理解できる。 3. 精神看護学の発展経過を理解し、今後の精神看護学の発展を考察できる。 (本授業は、DP 1、DP 2 に対応している。)			
授業計画・内容				
第 1 回 精神看護学で学ぶこと—心の健康と現代社会 第 2 回 精神看護の対象の理解と支援 1) 脳の仕組みと精神機能、心の機能と発達 第 3 回 精神看護の対象の理解と支援 2) 危機、精神の健康とマネジメント 第 4 回 精神看護の対象の理解と支援 3) 援助関係の構築、セルフケアへの援助 第 5 回 精神保健医療福祉の変遷 第 6 回 患者の権利擁護 第 7 回 精神医療保健福祉の法や施策 第 8 回 多職種連携と看護、家族への看護 ※遠隔授業となった場合、ZOOM によるオンライン授業、G C によるオンデマンド授業を行う				
キーワード	精神看護、精神健康、精神障害、リカバリー、精神保健医療福祉制度			
教科書	・ 萱間真美ら編集, 精神看護学Ⅰ こころの健康と地域包括ケア(改訂第 3 版): 現代に生きる人々のこころの健康を支える, 南江堂(2022) ・ 萱間真美ら編集, 精神看護学Ⅱ 地域・臨床で活かすケア(改訂第 3 版): 対象者の力を引き出し支える, 南江堂 (2022)			
参考書	マーク・レーガン著 ビレッジから学ぶリカバリーへの道 メアリー・エレン・コーブランド著 元気回復行動プラン WRAP			
評価方法・評価基準	評価方法: 筆記試験およびレポート 期末試験 (70%) とレポート (30%) を実施し、総合的に判定する。 精神看護学に関する主要な概念の理解の度合いを、期末試験とレポートにより評価する。 ※遠隔の場合、期末試験をレポート等に変更する。			
関連科目	精神保健、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護発展セミナー			
履修要件				
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師業務を経験した教員が精神看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 精神保健
その他	

精神看護学

(Mental Health Nursing)

担当教員名 川村 みどり 、長谷川 小眞子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	川村：授業終了後または事前のメール連絡で日時調整、N409 ～ N303 長谷川：水曜日 PM6:00			
メールアドレス	川村：kwmr2021 長谷川：hasegawa アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください			
授業概要	精神看護の展開の基礎知識となる、精神疾患や看護実践の方法、精神科における各種検査や各種治療法（薬物療法、精神療法など）および精神障害に対する心理社会的リハビリテーションの概要などを理解する。			
到達目標	1. 精神機能と精神症状が理解できる。 2. 代表的な精神疾患の病態、症状、治療方法などの概要が理解できる。 3. 精神障害を持つ対象者への看護が理解できる。 4. 精神障害に対する心理社会的リハビリテーションの概要が理解できる。 (本授業は、DP2、DP3に対応する。)			
授業計画・内容				
第1回 精神を病む人への理解と看護、精神症状と状態像のとらえ方 第2回 精神機能と精神症状、主な精神疾患・障害の特徴と看護 第3回 統合失調症の特徴と看護 1) 第4回 統合失調症の特徴と看護 2) 第5回 気分障害の特徴と看護 1) 第6回 気分障害の特徴と看護 2) 第7回 神経症性障害等の特徴と看護（不安症、強迫症） 第8回 精神作用物質使用による精神・行動の障害の特徴と看護（アルコール依存症） 第9回 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群の特徴と看護（摂食障害） 第10回 神経発達障害と知的障害の特徴と看護、パーソナリティ障害の特徴と看護 第11回 検査と看護 第12回 薬物療法と看護 第13回 心理・社会的療法と看護 第14回 災害時の精神保健医療活動、身体疾患を有する人を精神の健康、安全管理 第15回 社会復帰・社会参加への支援、生きる力に着目した援助、社会資源の活用と調整 ※遠隔授業となった場合、ZOOMによるオンライン授業、G Cによるオンデマンド授業を行う				
キーワード	精神機能、精神症状、精神疾患、精神看護、精神科治療			
教科書	新規の購入は不要（精神看護学概論で使用した教科書を用いる）。			
参考書				
評価方法・評価基準	評価方法：筆記試験および確認テスト・レポート等 期末試験（80%）、課題レポート・グループワーク資料・確認テスト（20%）を実施し、総合的に判定する。 精神看護の展開の基礎知識となる主要な概念の理解の度合いを、期末試験やレポート等により評価する。 ※遠隔の場合、期末試験をレポート等に変更する。			

関連科目	精神保健、精神看護学概論、精神看護学演習、精神看護学実習、精神看護発展セミナー
履修要件	精神保健、精神看護学概論を履修していること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師業務を経験した教員が精神看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	講義内容ごとに確認テストを行うので、自己の学習習得状況を把握すること。

精神看護学演習

(Seminar of Mental Health Nursing)

担当教員名 長谷川 小眞子 、川村 みどり				
科目区分 専門 必修	授業方法 演習	対象学年 3年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	長谷川（N303）：水 PM6:00～ 、川村（N409）：授業終了後または事前のメール連絡で日時調整			
メールアドレス	長谷川：hasegawa@fpu.ac.jp 川村：kwmr2021@fpu.ac.jp			
授業概要	対象者のセルフケアおよびストレスの回復に向けた看護について、治療的関係性の活用を基盤とした精神看護学の知識と技術を学修する。			
到達目標	(1) 精神看護の技術として自己活用と治療的関係性の構築の重要性が理解できる。 (2) 精神医療における治療的環境での看護実践が理解できる。 (3) 精神障害を持つ人のセルフケアの再構築に向けた看護過程の展開が理解できる。 (本授業は、DP3、DP4 に対応している。)			
授業計画・内容				
第 1 回 精神看護における看護技術 (ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法、患者－看護師関係、アセスメント、チームのダイナミクス)				
第 2 回 精神医療における治療的環境と看護 1（入院治療の意味、治療的環境）				
第 3 回 精神医療における治療的環境と看護 2（安全を守る、緊急事態に対処する）				
第 4 回 地域における精神看護（地域生活を支える様々な社会資源）				
第 5 回 精神看護における看護過程の展開				
第 6 回 看護過程演習 1（統合失調症患者の事例）				
第 7 回 看護過程演習 2（統合失調症患者の事例）				
第 8 回 看護過程演習 3（統合失調症患者の事例）				
第 9 回 看護過程演習 4（統合失調症患者の事例）				
第 10 回 看護過程演習 5（気分障害患者の事例）				
第 11 回 看護過程演習 6（気分障害患者の事例）				
第 12 回 看護過程演習 7（気分障害患者の事例）				
第 13 回 看護過程演習 8（実施・評価）				
第 14 回 精神看護における精神障害者の地域生活移行および地域生活継続支援の実際（外部講師）				
第 15 回 精神看護専門看護師の活動の実際（外部講師）				
※遠隔授業となった場合、ZOOM によるオンライン授業、G Cによるオンデマンド授業を行う				
キーワード	対人関係技術、治療的関係性、精神症状アセスメント、看護過程、ストレス、リカバリー、リエゾン精神看護、地域精神保健			
教科書	なし（精神看護学概論、精神看護学で使用した教科書を用いる）。			
参考書	野中猛著，図説精神障害リハビリテーション，中央法規，2006. 野中猛著，図説リカバリー，中央法規，2011. 田中美恵子編，精神看護学―学生-患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版，2015.			
評価方法・評価基準	授業への取り組み態度（発言・質問等）、看護過程演習への意欲と態度、演習課題（40%）、定期試験（60%）を合計し評価する。 ※遠隔の場合、期末試験をレポート等に変更する。			
関連科目	精神保健、精神看護学概論、精神看護学、精神看護学実習、精神看護発展セミナー			

履修要件	精神保健、精神看護学概論、精神看護学を履修していること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師業務を経験した教員が精神看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術について講義・演習する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	講義部分は内容ごとに確認テストを行うので、自己の学習習得状況を把握すること。

公衆衛生看護学概論

(Introduction to Public Health Nursing)

担当教員名 中谷 芳美				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義・演習	対象学年 2年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	講義終了後 中谷 (N410)			
メールアドレス	ynaka@fpu.ac.jp			
授業概要	公衆衛生看護学の概念を概説し、地域の健康課題に対応する公衆衛生看護活動の理念、個人・家族・グループ、組織・集団・地域を対象とする公衆衛生看護活動の場、展開方法の特徴を踏まえて公衆衛生看護活動の役割と専門性について教授する。			
到達目標	1. 公衆衛生看護学の概念と公衆衛生看護活動の理念、社会的責務を理解できる。 2. 人々の健康に影響する社会環境や生活環境と現代社会が抱える広範囲かつ複雑な健康課題を理解できる。 3. 公衆衛生看護活動の対象の捉え方と活動の場・展開の方法の特徴を理解できる。 4. 公衆衛生看護活動の課題と保健師の役割・専門性を考察できる。 (本授業は、DP1, 2, 3に対応している。)			
授業計画・内容				
第1回 公衆衛生看護学の概念と理念				
第2回 公衆衛生の理念と公衆衛生看護の基盤となる概念				
第3回 公衆衛生看護の歴史と保健師活動の変遷				
第4回 社会環境の変化と健康課題				
第5回 健康の社会的決定要因と健康課題解決の資源				
第6回 公衆衛生看護活動の対象（個人・家族・グループ）の捉え方				
第7回 公衆衛生看護活動の対象（組織・集団・地域）の捉え方				
第8回 公衆衛生看護活動の場（保健所における公衆衛生看護活動）				
第9回 公衆衛生看護活動の場（市町村における公衆衛生看護活動）				
第10回 公衆衛生看護活動の展開（健康と生活、活動の基盤）				
第11回 公衆衛生看護活動の展開（公衆衛生看護活動の方法）				
第12回 公衆衛生看護活動の計画・実践・評価（PDCA サイクル）				
第13回 地域診断演習				
第14回 計画策定と施策化				
第15回 公衆衛生看護活動の課題と保健師の役割・専門性				
※遠隔授業となった場合の対応：ZOOMによるオンライン授業				
キーワード	公衆衛生看護、公衆衛生、ヘルスプロモーション、地域の健康課題、保健師活動			
教科書	標準保健師講座第1巻 公衆衛生看護学概論（第6版）[医学書院]			
参考書	国民衛生の動向 2023/2024 [厚生統計協会]			
評価方法・評価基準	評価方法は、期末筆記試験（85%）、課題レポート（15%）を実施し、総合的に評価する。評価基準は、公衆衛生看護学の概念と公衆衛生看護活動の理念、社会的責務、人々の健康に影響する社会環境や生活環境と現代社会が抱える広範囲かつ複雑な健康課題、公衆衛生看護活動の対象の捉え方と活動の場・展開方法の特徴に対する理解の度合いを筆記試験により評価する。公衆衛生看護活動の課題と保健師の役割・専門性を主体的に考える能力をレポートにより評価する。 遠隔の場合の評価方法：筆記試験、レポートをLMSに提出してもらい評価する			

関連科目	看護学概論、公衆衛生学、成人・老年看護学概論、精神看護学概論、保健医療福祉行政論
履修要件	
必要な事前・事後学修	授業時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 公衆衛生看護活動を経験した教員が公衆衛生看護学の概念・理念、対象・方法に関する基本的な知識及び考え方について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 養護概説
その他	

保健指導論

(Public Health Nursing Skills : Health counseling & education)

担当教員名 中谷 芳美				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義・演習	対象学年 2年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	講義終了後 N410 研究室			
メールアドレス	ynaka@fpu.ac.jp			
授業概要	公衆衛生看護活動における保健指導の目的と対象、保健指導の歴史的変遷を概説し、地域で生活する個人・家族を支援するために必要な知識と理論、技術・方法を紹介する。健康相談、健康診査の場における個別保健指導の展開方法と基本的な姿勢、支援の実際について Role playing を通して理解してもらう。			
到達目標	1. 公衆衛生看護活動における保健指導の目的と対象を理解できる。 2. 個人・家族の保健指導を実施するために必要な理論と技術・方法を理解できる。 3. 健康相談と健康診査の目的・対象・方法、保健指導の展開方法と基本姿勢、支援の実際を理解できる。 4. 保健指導の展開方法と基本姿勢、支援の実際について理解を深めることができる。 (本授業は、DP2, 3に対応している。)			
授業計画・内容				
第1回 公衆衛生看護における保健指導の目的と対象 第2回 保健指導で活用できる理論と技術、方法 第3回 保健行動・健康行動を生み出す「力」に関する理論 第4回 個別保健指導の主な技術、健康相談の目的・対象・方法・契機 第5回 健康相談の展開方法と基本姿勢、支援の実際 第6回 健康診査の目的と対象・方法、健康診査における保健指導 第7回 個人・家族への保健指導の実際：Role playing 第8回 個人・家族への保健指導の実際：Role playing ※遠隔授業となった場合の対応：ZOOMによるオンライン授業				
キーワード	公衆衛生看護活動の技術、保健指導、保健行動理論、行動変容			
教科書	標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術（第5版）[医学書院]			
参考書	国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]			
評価方法・評価基準	評価方法は、筆記試験を実施して評価する。 評価基準は公衆衛生看護活動における保健指導の目的と対象、個人・家族の保健指導を実施するために必要な理論と技術・方法、健康相談と健康診査の目的・対象・方法、保健指導の展開方法と基本姿勢、支援の実際に対する理解の度合いを記述問題・選択肢問題に対する回答内容により評価し、60点以上を合格とする。 遠隔の場合の評価方法：筆記試験をLMSに提出してもらい評価する。			
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、基礎看護学科目全般、成人・老年看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、保健医療福祉行政論、公衆衛生学			

履修要件	公衆衛生看護学概論を履修していること
必要な事前・事後学修	授業時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が保健指導論の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術。認識に働きかける技術・看護過程展開の技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 健康相談活動の理論・健康相談活動の方法
その他	

公衆衛生看護活動論 I

(Public Health Nursing I)

担当教員名 小島 亜未				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2 年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	授業終了後 N316 研究室			
メールアドレス	akojima@fpu.ac.jp			
授業概要	公衆衛生看護活動における健康教育の位置づけ、健康教育の定義と目的・目標、対象と場、基盤となる理論を概説し、健康教育の展開過程と実際について教授する。地域組織活動の歴史と概念、活用できる理論・方法論、グループの発展過程を概説し、住民と協働してグループ・地域組織の活動を支援し、地域ケアシステムの構築とネットワーク化を展開する保健師の役割を教授する。			
到達目標	1. 健康教育の定義と目的・目標、対象と場、基盤となる理論を理解できる。 2. 健康教育の企画・立案、実施、評価の展開過程を理解できる。 3. 地域組織活動の歴史と概念、活用できる理論・方法論、グループの発展過程を理解できる。 4. 住民と協働してグループ・地域組織の活動を支援し、地域ケアシステムの構築とネットワーク化を展開する保健師の支援方法と技術、役割を理解できる。本授業は、DP2、DP3に対応している。			
授業計画・内容				
第 1 回 公衆衛生看護活動における健康教育の位置づけと健康教育の方法				
第 2 回 健康教育の技術と教育媒体				
第 3 回 健康教育の展開過程				
第 4 回 健康教育の実際				
第 5 回 健康教育の基盤となる理論：PRECEDE-PROCEED モデルによる活動の展開				
第 6 回 地域組織活動の歴史と概念、地域組織活動に活用できる理論・方法論				
第 7 回 住民の自立支援と地域組織活動の実際グループの発展過程とグループ支援における保健師の役割				
第 8 回 地域ケアシステムの構築とネットワーク化				
※遠隔授業となった場合の対応：ZOOM によるオンライン授業				
キーワード	公衆衛生看護活動、健康教育、地域組織活動、地域ケアシステム、ネットワーク化			
教科書	標準保健師講座 第 2 巻 公衆衛生看護技術[医学書院]			
参考書	国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]			
評価方法・評価基準	期末試験で評価する。 対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。			
関連科目	公衆衛生看護学概論、保健指導論、基礎看護学、成人看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論、老年看護学概論、保健医療福祉行政論、公衆衛生学			
履修要件	公衆衛生看護学概論を履修していること			
必要な事前・事後学修	授業時に指示する。			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 公衆衛生看護活動を経験した教員が公衆衛生看護活動の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術、認識に働きかける技術・看護過程展開の技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 健康相談活動の理論・健康相談活動の方法
その他	

公衆衛生看護活動論Ⅱ

(Public Health Nursing Ⅱ)

担当教員名 中谷 芳美 、小島 亜未 、斎藤 博子(非)				
科目区分 専門 選択	授業方法 講義	対象学年 3年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	授業終了後 中谷 (N410) 小島 (N316) 斎藤 (N305)			
メールアドレス	中谷 ynaka@fpu.ac.jp 小島 akojima@fpu.ac.jp 斎藤 saitouhi@fpu.ac.jp			
授業概要	地域で生活する個人や家族、特定集団、地域住民のライフステージ各期における健康問題・課題を解決する公衆衛生看護活動を展開するために必要な知識・方法と市町村、保健所における公衆衛生看護活動の実際について理解する。			
到達目標	1. 地域で生活する人々のライフステージ各期における健康課題と健康課題を解決するために展開されている公衆衛生看護活動の方法と実際について理解できる。 2. 市町村における公衆衛生看護活動の展開方法と実際について理解できる。 3. 保健所における公衆衛生看護活動の展開方法と実際について理解できる。 (本授業は、DP3, 4に対応している。)			
授業計画・内容				
第 1 回 母子保健の理念、母子保健医療福祉施策の動向と課題 (中谷)				
第 2 回 母子および親子の健康課題と支援の実際 (中谷)				
第 3 回 乳幼児期の成長発達と健康課題への支援の実際 (中谷)				
第 4 回 支援のニーズが高い親子の健康課題と支援の実際 (中谷)				
第 5 回 成人保健の理念、成人保健施策の動向と課題 (小島)				
第 6 回 成人期の生活の特徴・健康課題と公衆衛生看護活動の実際 (小島)				
第 7 回 高齢者保健の理念、高齢者保健祉施策の動向と課題 (小島)				
第 8 回 高齢期の生活の特徴・健康課題と公衆衛生看護活動の実際 (小島)				
第 9 回 高齢者の介護予防活動、地域包括ケアの実際と課題 (小島)				
第 10 回 保健所における公衆衛生看護活動の展開 (斎藤)				
第 11 回 障害者保健の理念、障害者施策の動向と公衆衛生看護活動の実際 (斎藤)				
第 12 回 精神保健の理念、精神保健施策の動向と課題 (斎藤)				
第 13 回 精神障害者の生活と保健指導、公衆衛生看護活動の実際 (斎藤)				
第 14 回 難病保健の理念、難病保健施策の動向と公衆衛生看護活動の実際 (斎藤)				
第 15 回 感染症保健の動向と公衆衛生看護活動の実際 (斎藤)				
※遠隔授業となった場合の対応：ZOOM によるオンライン授業				
キーワード	公衆衛生看護活動、母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健、難病保健、障害者保健、感染症保健			
教科書	標準保健師講座 第 1 巻 公衆衛生看護学概論(第 6 版) [医学書院] 標準保健師講座 第 2 巻 公衆衛生看護技術 (第 5 版) [医学書院] 標準保健師講座 第 3 巻 対象別公衆衛生看護活動 (第 5 版) [医学書院]			
参考書	国民衛生の動向 2023/2024 [厚生統計協会]、関連科目で使用した教科書・参考書			
評価方法・評価基準	評価方法は、期末筆記試験で評価する。 評価基準は、母子保健の理念・保健医療福祉施策の動向と課題、母子および親子、乳幼児期の成長発達、支援のニーズが高い親子への支援の実際に対する理解の度合い (25 点)、成人保健の理念・施策の動向と課題、成人期の健康課題、高齢者保健の理念・施策の動向と課題、高齢期の健康課題、介護予防活動、地域包括ケアと公衆衛生看護活動の実際に対する理解の度合い (35 点)、障害者保健・精神保健・難病保健の理念・施策の動向と課題、感			

	染症保健の動向と課題に対する保健所における公衆衛生看護活動の実
関連科目	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動Ⅰ、保健医療福祉行政論 公衆衛生学、疫学、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論Ⅰを履修していること
必要な事前・事後学修	授業時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護活動の目的・対象・方法に関する基本的な知識 及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術。認識に働きかける技術・看護過程展開 の技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

政策形成過程演習

(Skill Training Seminar of Policy formulation process)

担当教員名 小島 亜未、坂部 敬子				
科目区分 専門 選択	授業方法 演習	対象学年 3 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	授業終了後 小島 (N316) 坂部 (N109)			
メールアドレス	小島 : akojima@fpu.ac.jp 坂部 : ksakabe@fpu.ac.jp			
授業概要	保健医療福祉行政のしくみや制度の変遷と現状を踏まえて、政策への住民参加と計画策定・実施・評価のサイクルについて概説し、地域生活や社会生活の問題や課題を解決する政策を立案する政策形成過程について事例を用いた演習を通して教授する。			
到達目標	1. 国の政策動向と自治体の保健福祉政策の関連を理解することができる。 2. 地域の健康課題を基にした政策過程と評価、施策化・事業化の意義について説明することができる。 3. 施策化・事業化における保健師の役割について説明することができる。 4. 地域の健康課題から、健康課題解決の施策の検討、事業化の必要性を検討し、施策・事業計画を立案することができる。本授業は、DP3、DP4 に対応している。			
授業計画・内容				
第 1 回・第 2 回	保健医療福祉における施策化と事業化 【講義】 1) 公共政策の理念と政策体系（政策-施策-事業） 2) 国の政策動向と自治体の保健福祉政策の関連 3) 政策過程と評価 4) 施策化・事業化の実際と保健師の役割			
第 3 回～5 回	地域の健康課題を解決するための政策形成過程演習（施策・事業計画の作成） 【演習】 * 下記事例について、個人およびグループワークにて展開 ・事例 1 : 子育て支援（虐待予防） ・事例 2 : 生活習慣病予防 ・事例 3 : 介護予防 ・事例 4 : 災害時の健康危機予防			
第 6 ・ 7 回	グループ発表			
第 8 回	まとめ : 政策形成過程に必要なスキルと保健師の役割			
※遠隔授業となった場合は、Zoom によるオンライン授業を行う。				
キーワード	公衆衛生看護活動、健康課題、政策形成			
教科書	標準保健師講座 第 1 巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 国民衛生の動向 2023/2024 [厚生統計協会]			
参考書	関連科目で使用した教科書・参考書			
評価方法・評価基準	課題レポート（80%）、授業態度及びグループワークの発表内容と参加態度（20%）で評価する。 ※遠隔授業となった場合も、課題レポート、授業（Zoom）態度で評価する。			
関連科目	保健医療福祉行政論、公衆衛生学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目			
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、疫学を履修していること			
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実体に関与する看護技術、認識に関与する技術・政策形成過程展開の技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

公衆衛生看護技術 I (地域診断)

(Public Health Nursing Skills I)

担当教員名 小島 亜未 、坂部 敬子 、中谷 芳美 、斎藤 博子(非)				
科目区分 専門 選択	授業方法 演習	対象学年 3 年	開講期 後期集中	単位数 1
オフィスアワー	授業終了後 小島 (N316) 坂部 (N109) 中谷 (N410) 斎藤 (N305)			
メールアドレス	小島 akojima@fpu. ac. jp 坂部 ksakabe@fpu. ac. jp 中谷 ynaka@fpu. ac. jp			
授業概要	公衆衛生看護活動の基盤となる地域診断に必要な情報を収集し、地域の特性と健康指標をアセスメントした結果に基づいて健康課題を明らかにする能力を、実習する市町の地域診断を通して教授する。			
到達目標	実習する市町の地域診断に必要な情報を収集し、マップの作成および作表・作図とデータのアセスメントをおこない、地域特性を把握する。成人期・高齢期に関するデータをアセスメントし、健康課題を考えることができる。本授業は、DP3、DP4、DP5 に対応している。			
授業計画・内容				
第 1・2 回 地域診断演習オリエンテーション 地域特性の把握（マップ、市町の概要の作成） 第 3～5 回 地域特性・健康課題の把握とアセスメントの方法（デモンストレーション） 第 6～15 回 地域特性・健康課題の把握とアセスメント ※実施する項目 ・人口・世帯数の推移 ・年齢 3 区分別人口割合の推移 ・出生数・率、死亡数・率の推移 ・死因別死亡率の推移（全国・福井県・市町） ・特定健康診査の実施状況 ・がん検診の実施状況 ・要介護（要支援）認定者の状況 ※遠隔授業となった場合は、ZOOM によるオンライン授業を行う。				
キーワード	公衆衛生看護活動、地域診断、地域特性、健康課題			
教科書	標準保健師講座 第 1 巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 標準保健師講座 第 2 巻 公衆衛生看護技術 [医学書院] 標準保健師講座 第 3 巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院] 国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]			
参考書	関連科目で使用した教科書・参考書			
評価方法・評価基準	課題レポート（90%）、授業態度及びグループワークの発表内容と参加態度（10%）で評価する。 ※遠隔授業となった場合も、課題レポート、授業（Zoom）態度で評価する。			
関連科目	保健医療福祉行政論、公衆衛生学、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目			
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、疫学、政策形成過程演習を修得していること			
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及			

	び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術、認識に働きかける技術・看護過程展開の技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

公衆衛生看護技術Ⅱ（個人・家族）

(Public Health Nursing Skills Ⅱ)

担当教員名 坂部 敬子 、小島 亜未 、中谷 芳美				
科目区分 専門 選択	授業方法 演習	対象学年 3年	開講期 後期集中	単位数 1
オフィスアワー	授業終了後 坂部 (N109) 小島 (N316) 中谷 (N410)			
メールアドレス	坂部 ksakabe@fpu. ac. jp 小島 akojima@fpu. ac. jp 中谷 ynaka@fpu. ac. jp			
授業概要	地域で生活する個人・家族を支援するために必要な知識・技術と方法、態度について教授する。個人・家族への支援方法としての家庭訪問と幼児健康診査に必要な知識・技術、態度は演習を通して教授する。			
到達目標	1. 家庭訪問 ・ 家庭訪問の過程と実際、支援に必要な知識・技術と方法を理解することができる。 ・ 訪問事例を通して、訪問前に入手できる情報から対象をアセスメントし、訪問目的、訪問時に確認すること、訪問時に実施する支援を考えることができる。 ・ 事例の訪問場面から得た情報をアセスメントし、今後の支援を考えることができる。 2. 幼児健康診査 ・ 幼児健診におけるアセスメント、支援に必要な知識・技術と方法を理解することができる。 ・ 事例の保健指導場面から得た情報をアセスメントし、健診時に行う支援、今後の支援を考えることができる。 (本授業は、DP3、DP4、DP5 に対応している。)			
授業計画・内容				
第 1 回 家庭訪問の目的と対象、方法(坂部)				
第 2 ・ 3 回 家庭訪問による支援の実際(坂部) 課題①：事例 A の家庭訪問前に得られた情報をアセスメントし、家庭訪問の目的と必要な支援を考える(坂部、小島、中谷)				
第 4 ・ 5 回 課題②：家庭訪問場面の情報をアセスメントし、必要な支援を考える(坂部、小島、中谷) 課題③：家庭訪問場面での母親への対応を考える(坂部、小島、中谷)				
第 6 回 幼児健康診査時の問診と発育・発達のアセスメント、保健指導の実際(坂部)				
第 7 . 8 回 課題④：事例 B の幼児健康診査で得られた情報をセスメントし、今後の支援計画を考える(坂部、小島、中谷) 課題⑤：保健指導場面での母親への対応を考える(坂部、小島、中谷)				
※課題①～⑤は、個人ワークとグループワークを組み合わせで行う。 ※遠隔授業となった場合は、ZOOM によるオンライン授業を行う。				
キーワード	公衆衛生看護活動、個人・家族支援、家庭訪問、幼児健康診査、保健指導			
教科書	標準保健師講座 第 1 巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 標準保健師講座 第 2 巻 公衆衛生看護技術 [医学書院] 標準保健師講座 第 3 巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院] 国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]			

参考書	関連科目で使用した教科書・参考書
評価方法・評価基準	課題レポート（90%）、授業態度及びグループワーク参加態度（10%）で評価する。 ※遠隔授業となった場合も、課題レポート、授業（ZOOM）態度で評価する。
関連科目	保健医療福祉行政論、公衆衛生学、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、疫学、政策形成過程演習を修得していること
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義前・講義時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術・認識に働きかける技術・看護過程展開の技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

公衆衛生看護技術Ⅲ(集団・組織)

(Public Health Nursing Skills Ⅲ)

担当教員名 坂部 敬子 、小島 亜未 、中谷 芳美 、斎藤 博子(非)				
科目区分 専門 選択	授業方法 演習	対象学年 3年	開講期 後期集中	単位数 1
オフィスアワー	授業終了後 坂部 (N109) 小島 (N316) 中谷 (N410) 斎藤 (N305)			
メールアドレス	坂部 ksakabe@fpu. ac. jp 小島 akojima@fpu. ac. jp 中谷 ynaka@fpu. ac. jp			
授業概要	地域で生活するグループ・集団を支援するために必要な知識・技術と方法、態度について教授する。集団への支援方法としての健康教育の展開過程は演習を通して教授する。			
到達目標	1. 健康教育の対象者・地域の特性をアセスメントし、健康課題を挙げて優先順位を決定し、必要な支援を考えることができる。 2. アセスメントに基づき、健康教育の目的・目標を明確化し、健康教育計画書と教材を作成することができる。 (本授業は、DP3、DP4、DP5に対応している。)			
授業計画・内容				
第1・2回 健康教育演習の進め方 課題①：健康教育の場の理解(坂部、小島、中谷、斎藤) 課題②：健康教育の対象のアセスメント、健康課題・必要性な支援の把握(坂部、小島、中谷、斎藤) 課題③：健康課題の優先順位の明確化(坂部、小島、中谷、斎藤) 第3～6回 グループ課題：健康課題の発表と優先順位1位の健康課題の決定(坂部、小島、中谷、斎藤) 第7・8回 課題④⑤：健康教育の目的・目標・教育内容・教育方法の設定と教材の作成(坂部、小島、中谷、斎藤) ※課題①～⑤：個人ワーク グループ課題：グループワーク ※遠隔授業となった場合は、ZOOMによるオンライン授業を行う。				
キーワード	公衆衛生看護活動、集団・組織支援、健康教育の展開過程			
教科書	標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術 [医学書院] 標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院] 国民衛生の動向 2024/2025 [厚生統計協会]			
参考書	関連科目で使用した教科書・参考書			
評価方法・評価基準	課題レポート (90%)、グループワークの発表内容と参加態度及び授業態度 (10%) で評価する。 ※遠隔授業となった場合も、課題レポート、グループワーク (ZOOM) で評価する。			
関連科目	保健医療福祉行政論、公衆衛生学、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目			
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護管理論、疫学、政策形成過程演習を修得していること			
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義前・講義時に指示する。			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護学の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術・認識に働きかける技術・看護過程展開の技術について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

公衆衛生看護管理論

(Public Health Nursing Administration)

担当教員名 中谷 芳美				
科目区分 専門 選択	授業方法 講義	対象学年 3年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	授業終了後 中谷 (N410)			
メールアドレス	ynaka@fpu.ac.jp			
授業概要	公衆衛生看護管理の目的と機能について概説し、保健師に求められる公衆衛生看護管理機能としての情報管理、地域ケアの質の保証、組織運営と業務管理、予算管理、人事管理と人材育成、災害時の健康危機管理について学習する。			
到達目標	1. 公衆衛生看護管理の目的と構成要素について理解できる。 2. 公衆衛生看護管理機能としての情報管理、地域ケアの質の保証、組織運営と業務管理、予算管理、人事管理と人材育成について理解できる。 3. 災害時の健康危機管理における保健師の役割を理解できる。 (本授業は、DP3、4に対応している。)			
授業計画・内容				
第1回 公衆衛生看護管理の目的と機能 第2回 公衆衛生看護における情報管理 第3回 地域ケアの質の保証 第4回 組織運営と管理 第5回 事業・業務管理（計画・実践・評価） 第6回 人事管理と人材育成 第7回 予算の管理 第8回 災害時の健康危機管理 ※遠隔授業となった場合の対応：ZOOMによるオンライン授業				
キーワード	公衆衛生看護管理機能、健康危機管理、公衆衛生看護活動			
教科書	標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論（第6版）[医学書院] 標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動（第5版）[医学書院]			
参考書	国民衛生の動向 2023/2024 [厚生統計協会]			
評価方法・評価基準	評価方法は、筆記試験を実施して評価する。 評価基準は、公衆衛生看護管理の目的と構成要素、公衆衛生看護管理機能としての情報管理、地域ケアの質の保証、組織運営と業務管理、予算管理、人事管理と人材育成、災害時の健康危機管理における保健師の役割に対する理解の度合いを記述問題・選択肢問題に対する回答内容により評価し、60点以上を合格とする。 遠隔の場合の評価方法：筆記試験をLMSに提出してもらい評価する。			
関連科目	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論Ⅰ、公衆衛生看護活動論Ⅱ、保健医療福祉行政論、公衆衛生学			
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論Ⅰを履修していること			

必要な事前・事後学修	授業時に指示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が公衆衛生看護管理の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術。認識に働きかける技術・看護過程展開の技術について講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

産業保健論

(Occupational Health)

担当教員名 平井 一芳 、小島 亜未				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 3 年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	講義終了後 平井（N460）、小島（N316）			
メールアドレス	平井：thirai@fpu.ac.jp 小島：akojima@fpu.ac.jp			
授業概要	【平井／4 回】産業保健の理念と歴史および産業現場における保健医療職者の活動原則から実際の進め方について教授（労働衛生管理、 労働環境における健康障害の予防、職場のメンタルヘルスなど）する。 【小島／4 回】産業看護の理念・目的と産業看護職の役割・機能、産業保健の制度とシステムを踏まえて、産業看護職の職務と産業看護活動の実際について教授する。			
到達目標	1. 労働者の環境情報・健康情報から問題点を抽出し、適切な改善目標を立て、改善活動への支援ができる。 2. 職場巡視、環境測定データなどから産業看護の 3 管理である健康管理・作業環境管理・作業管理を行う上での問題点を理解し職場に 提言できる。 3. 産業看護の理念・目的、産業看護職の役割・機能について理解する。 4. 産業看護職の職務と産業看護活動の実際について理解する。 （本授業は、DP3、DP4 に対応している）			
授業計画・内容				
【平井】 第 1 回 産業保健の歴史と現状 第 2 回 労働基準法と労働安全衛生法 第 3 回 労働衛生管理の方法と体制 第 4 回 健康管理、過重労働・メンタルヘルス対策 【小島】 第 5 回 産業看護の理念・目的と産業看護職の役割・機能 第 6 回 産業看護の歴史と現状 第 7 回 産業保健の制度とシステム 第 8 回 産業看護職の職務と産業看護活動の実際				
注）遠隔授業となった場合の対応：ZOOM によるオンライン授業、オンデマンド授業等				
キーワード	産業保健、労働安全衛生法、労働衛生管理、健康管理、産業看護活動			
教科書	【平井】 指定しない 【小島】 標準保健師講座 第 1 巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 標準保健師講座 第 3 巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院]			
参考書	【平井】 岸玲子他「New 予防医学・公衆衛生学」. 改訂第 4 版. 2018. 南江堂 「国民衛生の動向」2023/2024 Vol. 70 No. 9. 厚生労働統計協会 【小島】 職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営 河野啓子「産業看護学」. 第 2 版. 2021. 日本看護協会出版会			

評価方法・評価基準	【平井】 期末試験（筆記）80% 授業態度等 20% 【小島】 期末試験（筆記） * 対面で期末試験ができない場合は評価方法を変更することがある。
関連科目	公衆衛生学、公衆衛生看護学概論、成人看護学、精神看護学、保健指導論
履修要件	公衆衛生看護学概論、保健指導論、公衆衛生看護活動論Ⅰを履修していること
必要な事前・事後学修	【平井】 参考書（「国民衛生の動向」2023/2024Vol. 70 No. 9）巻末の統計表や厚生労働省のホームページで公開されている当該科目関連の「統計情報・白書」を閲覧する。【小島】授業時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 保健師業務を経験した教員が産業保健・看護活動の目的・対象・方法に関する基本的な知識及び看護実践に必要な実体に働きかける看護技術。認識に働きかける技術・看護過程展開の技術について講義する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

学校保健Ⅰ

(School HealthⅠ)

担当教員名 松川 里美				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 2年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	授業の後に質問等を受け付けます。(N411)			
メールアドレス	pt-matsusato アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	子どもの健康課題に取り組むために、地域医療の観点から、人間の発育発達及び様々な健康レベルの理解と健康課題を見つけ理解し、学校保健と地域保健の組織活動について学ぶ。			
到達目標	子どもとその家族を取り巻く環境と生活を理解し、子どもの成長と発達の健康維持増進のための手立てを理解する。また児童生徒の生活の基盤となる学校における健康問題の課題解決とその方法を理解する。 子どもたちの健康問題について支える保健指導の内容が理解でき、学校と家庭・地域の保健福祉機関との連携についても述べることができる。(本授業はDP2、DP3に対応している。)			
授業計画・内容				
第1回 学校保健のしくみを理解し、関連する法律や制度について学ぶ。				
第2回 児童生徒の健康増進のための基盤となる、学校保健活動の現状を知り理解を深める。				
第3回 健康診断の意義や法的根拠を知り、児童生徒の健康課題について明確にする。				
第4回 学校安全・危機管理について学び、危機管理体制・救急処置について考える。				
第5回 集団感染と予防接種について学び、健康観察の意義について考える。				
第6回 児童生徒の特性を踏まえての健康相談活動の実施方法と留意点について理解する。				
第7回 学校での保健教育における保健学習と保健指導の進め方について理解する。				
第8回 現代的な健康課題解決にむけた健康教育および家庭・地域保健との連携について考える。				
※遠隔授業となった場合は、zoomによるオンライン授業で対応する				
キーワード	学校保健 健康管理 健康教育 健康相談活動			
教科書	松浦賢長ら編集、保健の実践科学シリーズ 学校看護学、講談社（2017）			
参考書	河田史宝ら著、新版・養護教諭執務のてびき第10版、東山書房（2018） 教員養成系大学保健協議会著、学校保健ハンドブック〈第7次改訂〉、ぎょうせい（2019）			
評価方法・評価基準	授業参加態度（10％）と小レポート（20％）、期末レポート（50％）、各単元テスト（20％）で評価する。 授業参加態度は講義にきちんと参加できたか、参加は主体的であったかどうかを評価する。 小レポート、期末レポートでは示された課題について、自分の考えを述べて理論的に結論を導き出しているかを評価する。			
関連科目	小児看護学			
履修要件				
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 養護教諭を経験した教員が、学校保健全般についての対応と指導について講義・演習する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 学校保健
その他	

学校保健Ⅱ

(School Health NursingⅡ)

担当教員名 松川 里美				
科目区分 専門 選択	授業方法 講義	対象学年 3年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	授業の後に質問等を受け付けます。(N411)			
メールアドレス	pt-matsusato アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください。			
授業概要	学校保健活動の中核となって職務を遂行する養護教諭の専門性について言及する。職務の実際については、保健教育の進め方や、健康相談活動(ヘルスカウンセリング)のあり方等について、授業研究や事例検討会を通して理解を深め、学校における養護教諭の職務の特質や保健室機能についての認識を深める。			
到達目標	① 心身の発育・発達期として重要な時期にある小・中学生から高校生までの心身の健康状態や健康課題について理解する。 ② 学校における保健管理と保健教育について学び、学校組織の中での保健管理のあり方と保健教育の進め方について理解する。 ③ 学校保健を推進していく養護教諭の役割や職務について理解し、養護教諭を取り巻く現状や課題をつかむ。(本授業はDP3に対応している。)			
授業計画・内容				
第 1 回 学校教育と学校保健：教育の目的や教育課程と学習指導要領について知り、学校経営と学校保健の関連を学ぶ。				
第 2 回 養護教諭の職務：養護教諭の歴史を紐解き、社会の変遷に伴う職務へのニーズや法改正、教育改革の動向にみられる養護教諭の職務について理解を深める。				
第 3 回 児童生徒の健康課題：児童生徒の発育発達を理解し、発達段階に応じた健康課題について理解する。				
第 4 回 健康診断：健康診断の計画の立て方や実施の流れについて理解を深める。				
第 5 回 健康観察と保健管理：健康観察の目的と方法、法的根拠について学ぶ。				
第 6 回 学校環境衛生：学校環境衛生検査の項目と基準を理解し、検査の実際と管理・改善について学ぶ。				
第 7 回 学校安全：学校における学校安全活動の果たす意義について、理解を深める。				
第 8 回 救急処置：学校で多いけがや事故について理解し、正しく素早く応急手当ができるようになる。				
第 9 回 健康相談活動：ヘルスカウンセリングのすすめ方と養護教諭の行う健康相談活動の特性を理解する。				
第 10 回 健康相談活動の実際：具体的な事例から健康相談活動の実際を学ぶ。				
第 11 回 健康教育の進め方：現代的健康課題を認識し、学校における健康教育のあり方を学ぶ。				
第 12 回 健康教育の実際：保健学習と保健指導についての授業構想と指導案の作成や効果的な教材の活用について学ぶ。				
第 13 回 保健室経営：学校保健管理センター、心の居場所、保健健康教育推進の場としての保健室経営について学ぶ。				
第 14 回 学校保健計画と保健組織活動：学校保健計画立案と学校保健委員会、家庭・地域との連携を学ぶ。				
第 15 回 養護教諭に必要な力：養護教諭の職務・役割を实践するうえで基盤となる資質能力について理解する。				
遠隔授業となった場合は、zoom のよるオンライン授業で対応する				
キーワード	学校保健	養護教諭	健康管理	健康教育 健康相談活動

教科書	①河田史宝ら著、新版・養護教諭執務のてびき第10版、東山書房（2018） ②大谷尚子ら編集、改訂 養護実習ハンドブック（養護教諭必携シリーズ）、東山書房（2015）
参考書	松浦賢長ら編集、保健の実践科学シリーズ 学校看護学、講談社（2017） 日本学校保健会著、教職員のための子供の健康相談および保健指導の手引き 令和3年度改訂、日本学校保健会（2022） 日本学校保健会著、学校保健の動向 令和4年度版、日本学校保健会（2022）
評価方法・評価基準	授業参加態度（1割）と単元レポート（2割）、期末レポート（5割）、各単元テスト（2割）から評価する。授業参加姿勢とは講義への参加の主体性や適切な受講態度を評価する。期末レポートは、示された課題について、講義内容だけに留まらず教科書以外の文献からも情報を求めることができたか、自分の考えを述べて理論的に結論を導き出しているか。レポート内容は学校における保健活動の特徴をつかみ、養護教諭の役割や職務を理解し、今日的な健康課題解決に迫ることができたかについて評価する
関連科目	
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 養護教諭を経験した教員が、学校保健全般についての対応と指導について講義・演習する。学校組織についても講義・演習を通して深める。
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護に関する科目 養護概説
その他	

母性看護学実習

(Nursing Practice: Maternal Health Nursing)

担当教員名 岩谷 久美子、平井 宏美、牧野 葵				
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	対象学年 3年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	随時 岩谷（N408） 平井（N109） 牧野（N304）			
メールアドレス	岩谷：kiwatani@fpu.ac.jp、平井：hirohira@fpu.ac.jp、牧野：mknaoi@fpu.ac.jp			
授業概要	母子とその家族を対象として看護を実践する。実習では、周産期の経過や対象の背景を把握し、知識を統合した看護アセスメント・看護計画立案と看護実践・評価を行い、基本的な看護実践能力を身につける。また、実習体験を通して周産期における母性の特性と母性看護の役割について理解を深める。			
到達目標	1）妊産褥婦および胎児・新生児の身体的心理社会的特性について理解を深め、ウェルネスの観点から看護の必要性を考え、看護実践能力を養う。 2）親役割の取得過程と誕生した子どもを含めた家族の発達課題について理解を深め、家族成員個々と家族全体を捉えた実践能力を養う。 3）学生自身の学習課題について考え、課題達成への努力と自己評価ができる。 （本授業はDP-4・5に対応している）			
授業計画・内容				
【実習内容】				
1. 受け持ち看護実習				
1）妊産褥婦とその子どもを全体としてとらえて、ウェルネスの観点から看護の必要性を考える。				
2）妊産褥婦とその子どもの健康的な生活や適応・親役割取得を支援するための看護計画を立案する。				
3）妊産褥婦とその子どもに必要な看護を対象に適した方法で実践し、評価する。				
4）看護実習体験を通して、母性看護のあり方やその役割を理解する。				
2. 機能別実習				
1）産婦の看護の必要性を理解し、実践、評価する。				
2）産科外来看護の役割を理解し、実践、評価する。				
【実習方法】				
1. 場所：福井県済生会病院南館 周産期センターS3 病棟、産科外来				
福井県立病院 6階北病棟、産科外来				
2. 期間：実習前オリエンテーションおよびまとめを含む臨床実習2週間				
3. 実習形態：受け持ち看護実習と機能別実習を組み合わせる。				
1）受け持ち看護実習：妊婦又は褥婦1名を受け持ち、看護過程を展開する。				
2）機能別実習：産婦の看護および妊婦健診・助産外来等の産科外来看護を見学または実践する。				
各種集団的に行われる保健指導（母親教室・母乳準備教室等）を見学する。				
※対面授業ができない場合はZoomによる遠隔授業ならび実習の一部を学内演習に変更する場合がある。				
キーワード	看護過程の展開、母親役割取得、家族関係の再構築、ウェルネス			
教科書	1) 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論、母性看護学1 医学書院 2) 系統看護学講座 専門分野 母性看護学各論、母性看護学2 医学書院 3) 吉沢豊予子：マタニティアセスメントガイド、真興交易（株）医書出版部			
参考書	1) 新道幸恵 他：母性の心理社会的側面と看護ケア、医学書院、1990. 2) 宮崎和子監修：看護観察のキーポイントシリーズ母性Ⅱ、中央法規出版、2000. 3) 太田編著：ウェルネス看護診断に基づく母性看護過程、医歯薬出版 第4班			

	4) 平澤 美恵子 , 村上 睦子 : 新訂版 写真でわかる母性看護技術 アドバンス 2020
評価方法・評価基準	評価方法は、母性看護実践の内容と実習記録、個人面接等から目標の達成状況、基礎的知識・技術・態度等を総合的に評価する。 評価基準は、実習評価表に基づき評価する。
関連科目	母性看護学概論、母性看護学、母性看護学演習
履修要件	母性看護学概論、母性看護学を履修していなければならない。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・助産師の資格を有する教員の指導の下、母性看護学実習に必要な看護実践能力を身につけるための実習を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	実習のための健康観察ならびに行動制限等のルールを必ず遵守してください。

小児看護学実習

(Nursing Practice : Child Health Nursing)

担当教員名 金粕 仁美 、上谷 祐子				
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	対象学年 3年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	実習期間中随時受付 金粕（N308）, 上谷（N110）			
メールアドレス	金粕: kanekasu@fpu.ac.jp, 上谷: kamitani@fpu.ac.jp			
授業概要	子どもの成長発達や健康レベルに応じた看護を実践できる能力を修得する			
到達目標	子どもの成長発達、及び健康障害が子どもの身体・こころ・社会関係に及ぼす影響を理解し、より健康に育まれるよう子どものもてる力を活かしながら看護を実践し、評価する看護実践能力の修得することができる 本授業は、DP 4・5に対応している			
授業計画・内容				
1. 実習スケジュール 実習期間は 10 日間 ・ 小児病棟/医療型障害児入所施設（5 日間） ・ 保育園/福祉型児童発達支援センター（2 日間）				
2. 各実習施設での実習のねらい [小児病棟/医療型障害児入所施設] 1) 健康障害をもち入院/入所している子どもの成長発達を理解し、成長発達を意図した関わりができる 2) 健康障害をもつ子どもの全体像・日常生活力・立体像を把握した上で、子どもとその家族に必要な看護が展開できる 3) 子どもと家族をとりまく保健・医療・福祉・教育における看護師の役割や、多職種連携について理解できる [保育園/福祉型児童発達支援センター] 1) 子どもの成長発達や生活の特徴、成長発達に応じた生活援助の実際を学ぶ 2) 子どもの家族に対する支援の実際を学ぶ 3) 看護の視点を持ち、保育の中での健康管理や安全管理について理解する 4) 施設内における多職種連携や、他施設との連携について理解する				
* 遠隔授業になった場合：状況により学内実習に代替する				
キーワード	子どもと家族、成長・発達、小児看護技術、看護展開、看護実践能力			
教科書	1) ナーシング・グラフィカ 小児看護学①, 小児の発達と看護, メディカ出版系統 2) ナーシング・グラフィカ 小児看護学②, 小児看護技術, メディカ出版 3) 病気が見える Vol.15, 小児科、Medic Media			
参考書				
評価方法・評価基準	実習の進行状況、実習記録やレポートの提出状況を加味した上で、実習目標の達成度を 4 段階で評価する			
関連科目	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習			

履修要件	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習を修得していること
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が実習開始時に指示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員の指導の下、小児看護に必要な看護実践能力を身につけるための実習を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）
その他	専門領域看護実習の詳細をまとめた「実習要項」を別に配布する 小児感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の抗体検査結果を把握しておくこと

急性看護学実習

(Acute Nursing Practice)

担当教員名 熊谷 あゆ美 矢島 直樹				
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	対象学年 3 年	開講期 後期集中	単位数 2
オフィスアワー	授業終了後 熊谷（N415） 矢島（N208）			
メールアドレス	熊谷：ayuku@fpu.ac.jp 矢島：nyajima@fpu.ac.jp			
授業概要	急性期（医療を積極的に受けなければ、健康のレベルが向上しない段階）にある対象とその家族に必要な看護実践能力を養う。			
到達目標	1. 周術期にある対象の全体像を把握できる。 2. 周術期の経過に応じた看護を実践できる。 3. 急性期における医療チームの連携と看護師の役割を理解できる。 4. 看護を常に Critical に見つめ、理論的に分析する力を養うことができる。 5. 看護実践を通して看護提供者としての自己を成長させることができる。 （本授業は、DP4、5に対応している）			
授業計画・内容				
実習方法				
1. 手術を受ける患者を受け持ち、術前、術中、術後の看護問題を明確にする。実習指導者と教員の指導のもと、看護計画を立案・実践して学ぶ。				
2. 手術室看護師による看護実践を通して、術中看護の計画・実施・評価の実際を学ぶ。				
3. 救急外来を受診した患者の初期治療の実際を見学し、救急看護について学ぶ。				
4. 個人やグループで、実習を振り返り、学びと自己の課題を明確にする。				
実習病院				
福井県立病院				
実習場所				
周術期看護実習：消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、婦人科、泌尿器科等に手術目的で入院した病棟、手術室、HCU、ICU 等				
救急看護実習：救急外来				
※詳細は実習要項を参照すること。				
※病院実習ができない場合は学内演習を行う。また遠隔授業の場合は ZOOM によるオンライン授業、グーグルクラスルームによるオンデマンド授業等を行う。				
キーワード	周術期患者 看護展開 手術看護 救急患者			
教科書	成人看護学 急性期看護学Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂 成人看護学 急性期看護学Ⅱ 救急看護・クリティカルケア 南江堂			
参考書	成人看護学 成人看護技術 南江堂			
評価方法・評価基準	評価方法は到達目標の達成度を実習記録、看護実践やカンファレンス参加の状況等から、総合的に評価する。 評価基準は実習時に説明する。病院実習ができなくなった場合（学内演習、遠隔授業等）も同様とする。			
関連科目	専門基礎科目 看護の基礎科目 成人・老年看護学概論 セルフケア支援論 急性看護学 急性看護学演習			
履修要件	成人・老年看護学概論を「履修」し、急性看護学および急性看護学演習を「修得」していること			

必要な事前・事後学修	教員が実習時に提示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり この領域での看護師経験のある教員が、急性看護学に必要な看護実践能力を養うための実習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）
その他	特になし

セルフケア支援実習

(Nursing Practicum: Self-care Support for Chronic Diseases)

担当教員名 有田 広美、久米 真代、松崎 かさね、藤田 祐子				
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	対象学年 3 年	開講期 後期集中	単位数 2
オフィスアワー	メールで事前連絡要 有田 (N413) 久米 (N311) 松崎 (N411) 藤田 (N110)			
メールアドレス	有田 : arita 久米 : kume 松崎 : kasane 藤田 : yfujita 末尾に@fpu.ac.jp を付けてください			
授業概要	急性期病院で治療中の成人から老年期にある対象者とその家族への関わりを通して、治療を必要とする対象者の全体像を理解し、退院に向けてセルフケア能力や健康問題に適応する能力を支援する看護実践能力を養う。			
到達目標	1. 対象の全体像を把握できる 2. 情報収集から看護計画立案、看護援助の実施・評価までの一連の看護過程を展開できる 3. 退院後の生活を見据え、対象者の強みを生かしたセルフケア支援とは何かを考察できる (本授業は、DP4, 5に対応している)			
授業計画・内容				
【実習期間】2 週間 (10 日間) 【実習方法・内容】 ＜病棟実習＞ ・ 1～2 名の患者を受け持ち、看護過程を展開する ・ 受け持ち患者の看護に必要な情報を理解したうえで適切な情報収集を行う。 これまでの生活や自己管理に対する認識を把握するためにコミュニケーション力を活用する。 ・ 毎日の行動計画を立案し、看護師と相談・報告しながら助言をもらい、対象の把握を進める。 ・ 治療や入院生活が生命や日常生活にどのような影響を及ぼしているかを分析し、問題を特定し、退院を視野に入れた看護を実践する。 ・ 実習グループでカンファレンスを行い、実践したことや自分の考えを言語化し、客観的に評価する。 他者の発言からも自己の考えを深める。 ＜学内実習＞ 看護計画立案 (1 週目)、病棟報告会のレポート、看護計画の実施評価 (2 週目)、学内まとめのプレゼンテーション (最終日) 【実習施設】福井県立病院 病棟は実習要項を参照。				
※遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業で対応する				
キーワード	セルフケア 疾病受容 退院支援 成人 高齢者			
教科書	なし			
参考書	最新老年看護学第 4 版, 日本看護協会出版会, 2023 年版 がん看護学 第 3 版, 医学書院, 2023 年版			
評価方法・評価基準	評価方法 : 実習記録用紙と教員とのディスカッション・学内実習のレポート (80%)、病棟実習での受け持ち患者や看護師への態度・学内実習時の取り組み態度 (20%) で評価する 評価基準 : 実習要項の実習目標を評価基準としどの程度達成できたかで評価する。			

関連科目	解剖生理学、薬理学、臨床病態学、成人・老年看護学概論、セルフケア支援論、セルフケア支援演習
履修要件	成人・老年看護学概論を履修し、セルフケア支援論、セルフケア支援演習を修得していること
必要な事前・事後学修	事前学習については、実習直前に提示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験のある教員が本実習に必要な看護実践能力を身につけるための実習を行う
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

緩和ケア実習

(Practicum: Palliative Care)

担当教員名 有田 広美 藤田 祐子				
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	対象学年 3	開講期 後期集中	単位数 2
オフィスアワー	メールで事前連絡要 有田（N413）藤田（N110）			
メールアドレス	有田：arita 藤田：yfujita 末尾に@fpu.ac.jp を付けてください			
授業概要	緩和ケアを必要とする患者とその家族の苦痛を全人的な視点から理解し、QOL の向上を目指した緩和ケアおよび看護師の役割について考える。また、緩和ケアチームや多職種連携などチームアプローチの必要性を学ぶ。			
到達目標	1. 対象と家族の価値観やこれまでの生き方を尊重した関わりができる 2. 対象の状況をアセスメントし、緩和ケアとしての看護の方向性を述べられる 3. 看護師の関わりやチーム医療から緩和ケアとは何か、看護師の役割を考察できる 4. 看護実践を通し、看護提供者としての自己自身を成長させることができる （本授業は、DP4、5に対応している）			
授業計画・内容				
【実習期間】2 週間				
【実習内容】				
1. 対象者の健康障害と全人的苦痛の理解				
2. 身体状態や療養に対する対象者および家族の思いの理解				
3. 対象者のアセスメントから計画立案までの看護過程の実践				
4. 緩和ケアを必要とする人への看護および看護師の役割				
5. 緩和ケアにおけるチームアプローチ、多職種連携の必要性				
【実習方法】				
＜病棟実習＞ 一人の患者を受け持ち、看護過程を展開する				
＜学内実習＞ 緩和ケアの主要な概念について文献、論文を用いて学習し、学習成果をレポートおよびパワーポイントで作成し、プレゼンテーションする				
【実習施設】福井県立病院緩和ケア病棟または福井県済生会病院緩和ケア病棟				
※遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業で対応する				
キーワード	緩和ケア 症状コントロール 全人的苦痛 多職種連携 チームアプローチ			
教科書	宮下光令, ナーシンググラフィカ成人看護学⑥緩和ケア第 3 版, メディカ出版, 2022.			
参考書				
評価方法・評価基準	実習目標の達成度を実習記録用紙と学内実習のレポートから評価する 評価基準は実習要項参照。			
関連科目	成人・老年看護学概論、緩和ケア論、臨床病態学、解剖生理学、薬理学			
履修要件	成人看護学概論を履修し、緩和ケア論を修得していること			
必要な事前・事後学修	必要な事前学修：緩和ケアおよび受け持ち患者の病態について実習直前に提示する			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師を経験した教員の指導の下、緩和ケアに必要な看護実践能力を身につけるための実習を行う			

施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

老年看護援助実習

(Nursing Practice: Gerontological Nursing Assistance)

担当教員名 久米真代、岡田恭子、松崎かさね					
科目区分 専門必修		授業方法 実習	対象学年 3	開講期 後期集中	単位数 2
オフィスアワー	実習期間中の実習終了後				
メールアドレス	久米：kume 岡田：okada 松崎：kasane ※末尾に@fpu.ac.jp をつけてください。				
授業概要	介護保険施設に入所している要介護高齢者の生活を知り、高齢者の尊厳を支え、療養生活の質向上を目指した生活援助技術を修得する。また、通所サービスを利用しながら在宅で生活している高齢者と家族の生活の実際を学ぶ。認知症高齢者とのかかわりを振り返り、認知症看護について理解を深める。さらに、高齢者とその家族がもつ希望と課題を知り、課題解決のために協働する多職種の専門的役割と連携を理解する。				
到達目標	1. 介護保険施設で生活している高齢者の特性について理解することができる 2. 認知機能障害のある高齢者を担当し、健康課題と生活上の課題をとらえ、“強み”を引き出す生活援助技術（食事、排泄、清潔、活動）を修得することができる 3. 高齢者と家族の今後の希望を知り、それをかなえるための施設のケアプランを理解したうえで、看護の視点からケア計画を立案、実施、評価・修正を行うことができる 4. 高齢者との日々のかかわりや、ケアを通しての関りで得られた反応をとらえ、自己の態度を振り返り、施設での看護に必要なことを考えることができる 5. 通所サービスの見学を通し、要介護高齢者の生活を維持していくため多職種が連携・協働しながら提供しているサービスの実際と課題を述べることができる 6. 実習を通して得た経験から、高齢者の尊厳を支え、療養生活の質向上を目指す看護の課題と解決策を探ることができる （本科目はDPの4・5に対応している。）				
授業計画・内容					
実習場所：介護老人保健施設 ケアホームさいせい、ひかりケアホーム、あじさい 介護老人福祉施設 アニス松岡 実習期間：2週間 実習方法：80歳以上の認知機能の低下した高齢者を1名受け持ち、実習を行う。 高齢者と家族の今後の希望、ケアプランの目標を理解したうえで、高齢者の全体像をとらえ、看護過程にそって計画を立案、実施、評価・修正を行う。カンファレンスで実習指導者、グループメンバー、教員と積極的に討議を行い、多角的な視点から高齢者の理解を深め、より個別性のある看護を実践する。また、多職種の中で看護師の果たす専門的役割と連携を理解する。 実習期間中、通所サービスの実習を1～2日行い通所している高齢者の生活の実際と家族との関わりを学ぶ機会をもつ。 ※遠隔授業となった場合、実習施設の受け入れの可否によって授業方法は変更となる					
キーワード	認知症 強み 生活 希望 フィジカルアセスメント 多職種連携における看護の専門性				
教科書	最新老年看護学第4版 2023年版：日本看護協会出版会				
参考書	実習時に紹介します				
評価方法・評価基準	評価方法：小テスト（10点）と実習目標の達成がどの程度自力でできたのか（80点）とカ				

	ンファレンスへの参加度および発言内容（10 点）で評価する 評価基準：0～5 段階で各目標の達成度を評価する。0：かなり助言を行っても取り組むことができない、1：かなり助言を受けると言われたことを実践することはできる、2：助言がないと考えることが難しく実践できない、3：助言があれば考えて実践できる、4：助言があれば担当高齢者に合わせて実践できる、5：助言がなくても担当高齢者に合わせて実践できる
関連科目	成人・老年看護学概論、老年看護援助論、老年看護援助演習、解剖生理学Ⅰ・Ⅱ、臨床薬理学、病態生理学、臨床病態学Ⅰ・Ⅱ
履修要件	指定されている「看護学概論」など 10 科目の単位を修得していなければならない。また、「成人・老年看護学概論」「老年看護援助論」「老年看護援助演習」を履修していなければならない。
必要な事前・事後学修	実習前のオリエンテーションおよび最終面談で担当教員が指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員のもとで、老年看護に必要な看護実践能力を身につけるための実習を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

精神看護学実習

(Nursing Practice : Mental Health Nursing)

担当教員名 川村 みどり 、長谷川 小眞子				
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	対象学年 3年	開講期 後期	単位数 2
オフィスアワー	実習期間中の実習終了後			
メールアドレス	川村：kwmr2021 長谷川：hasegawa アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください			
授業概要	実習体験を通して、精神の健康の維持・増進、回復するために必要な知識・技術・態度を統合し、精神に障害を持つ人に対する看護実践の基礎的能力を養う。			
到達目標	1. 精神科病院における療養環境の特徴が理解できる。 2. 治療環境としての自己活用ができる。 3. 対象者の精神状態やニーズを把握し、必要な看護が展開できる。 4. 精神に障害を持つ人の社会復帰、地域生活支援の現状と課題が理解できる。 (本授業は、DP4、DP5に対応している。)			
授業計画・内容				
方法：精神科病棟での実習（8日間）、訪問看護または社会復帰施設での実習（1日間）、学内まとめ1日を行う。				
実習内容				
1. 精神科病棟実習				
1) 精神医療における入院治療の意味と適切な療養環境の調整・提供について理解する。				
2) 精神の健康問題を持つ対象者を一人選定し、その対象者について看護過程を展開し実践する。				
3) 精神看護における治療的関係性の意味と重要性を、自己と受持対象者との関係構築の経過や発展過程などから考察し理解する。				
4) 対象者に実践した看護実践の方法や効果、対象理解などについて実習メンバーでカンファレンスを行い、精神看護についての学びを深める。				
2. 訪問看護・社会復帰施設実習				
1) 訪問看護および社会復帰施設について、目的や支援内容等の説明を受ける。				
2) 訪問看護および社会復帰施設における利用者の特徴や活動内容を理解する。				
3) 訪問看護および社会復帰施設における専門職の支援内容を理解する。				
4) 利用者にとって訪問看護や社会復帰施設がどのような意味を持っているのか考察する。				
5) 精神に障害を持つ人の社会復帰、地域生活支援の課題を考察する。				
3. 精神看護学実習の学びの統合（学内最終日）				
1) 実習体験を基に看護過程の振り返りを作成し、実習メンバーで検討し実習の学びを統括する。				
2) 実習での学びを客観的に評価し、今後の自己の課題を明確にする。				
※遠隔授業となった場合、ZOOMによるオンライン授業を行う				
キーワード	治療的関係性、自己洞察、セルフケア、看護過程、地域生活支援			
教科書	なし			

参考書	田中美恵子編著, 精神看護学 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 (第2版), 医歯薬出版 (2015)
評価方法・評価基準	実習内容、実習記録、実習目標の達成度 (自己評価・教員評価) から、総合的に評価する。自身の実習を看護過程として展開させることができたか、受け持ち患者や臨地実習指導者、グループメンバーとの交流により考察を深めることができたか、実習に関する体験や記録等を基に、精神に障害を持つ人に対する看護実践能力を評価する。
関連科目	精神保健Ⅰ、精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習、精神看護発展セミナー
履修要件	「履修の手引き」の履修上の留意事項にある実習科目の履修要件の通り。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が実習開始前に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員の指導の下、精神看護学に必要な看護実践能力を身につけるための実習を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	養護に関する科目 看護学 (臨床実習及び救急処置を含む。)
その他	

地域・在宅看護学実習

(Nursing Practice : Community and Home Health Nursing)

担当教員名 普照 早苗、梅津 千香子				
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	対象学年 3	開講期 後期集中	単位数 2
オフィスアワー	必要時（研究室来訪時は事前にメール連絡をすること）			
メールアドレス	sfutio（普照）、cumezu（梅津） 後ろに@fpu.ac.jp をつけてください。			
授業概要	県内の訪問看護事業所において訪問看護師に同行し、在宅療養者および家族のQOLを保障する看護について学ぶ。この実習によって、病院から退院し在宅療養を開始する人々に、必要な支援が提供できる基礎的能力を身につける。さらに、在宅療養者および家族の尊厳を保障する看護実践の基盤となる能力を培う。			
到達目標	1. 受持ち療養者および家族がどのような生活や人生を望んでいるのか理解し、必要な看護を展開する。 2. 様々な疾患や障害を抱えながらも住み慣れた自宅で生活している療養者および家族についての理解を深め、基礎的な看護技術を訪問看護師と共に提供する。 3. 在宅療養者を支える様々な専門職種や連携・協働の実践について学ぶ。 4. 療養者および家族の生活の場に第三者が介入することの意味を考え、本人および家族を尊重し配慮した行動がとれる。 （本科目は、DP4とDP5に対応している。）			
授業計画・内容				
1. オリエンテーション 2. 訪問看護に同行し、看護師とともに在宅看護技術を提供する。 3. 受持ち療養者の療養計画を立案し、カンファレンスでの発表、実践、評価をする。 ・対象者（療養者および家族）の希望を理解する。 ・対象者（療養者および家族）の在宅療養する能力をアセスメントする。 ・対象者の利用できる社会保障制度・社会資源を明らかにする。 ・対象者（療養者および家族）の療養計画を立案する。 ・立案した療養計画をケースカンファレンスにおいて評価・修正し、実践する。 ・療養生活の様子、多職種とのカンファレンスや調整場面、ケアマネジャーの計画立案や調整、関連職種や訪問看護ステーションの管理者・スタッフの実践や考えを見聞することにより、在宅療養についての知見や考察を深める。 ※担当教員や看護指導者および学生同士との意見交換を積極的に行い、上記の課題に取り組む。 ※遠隔授業となった場合：ZOOM、LMSを中心としたオンライン授業に切り替える。				
キーワード	生活、療養者と家族、自己決定、QOL、セルフケア、連携、協働、ケアマネジメント、社会保障、社会資源、地域共生社会			
教科書	・ナーシング・グラフィカ「地域・在宅看護論①、②」メディカ出版 ・「訪問看護おもてなし接遇マナーハンドブック」ラゲーナ出版 ※いずれも2年後期と3年前期に使用したもの			
参考書	「写真でわかる訪問看護」インターメディカ、国民衛生の動向（最新版）。その他、適宜紹介する。			
評価方法・評価基準	実習目的・目標の達成度、学修姿勢などから総合評価：実習要項参照。遠隔授業時も同様。			
関連科目	「看護の基礎」「看護の対象・場の理解と実践方法」の各科目、公衆衛生看護学の各科目、			

	社会保障・社会福祉概説、衛生関係法規、保健福祉行政論
履修要件	「履修の手引き」の履修上の留意事項にある実習科目の履修要件の通り。
必要な事前・事後学修	既習の授業資料やテキストを用いて復習して臨むこと。事前学習課題は、実習前 OR で指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師・保健師の資格をもつ訪問看護師経験のある教員（普照、梅津）が担当する。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

地域包括支援実習

(Nursing Practice : Community-based Integrated Support)

担当教員名 成田光江 竹内智子				
科目区分 専門 必修	授業方法 実習	対象学年 3 年	開講期 後期集中	単位数 2
オフィスアワー	実習前・中・終了後、必要に応じて対応する 成田（N313）、竹内（N508）			
メールアドレス	成田：narita@fpu.ac.jp 竹内：totake@fpu.ac.jp			
授業概要	地域包括支援実習では、病院・施設等での実習を通し、地域で生活する医療的ケア児、障害児・者、高齢者、療養者、勤労者、生活困窮者等の生活実態や、多様な生活者が抱える多様な課題を知り、課題の解決・改善に必要な支援の場、支援者、支援技術、支援システム等、地域の資源を理解する。そして、生活者が望む生活の実現に向けた入退院支援の実際や、生活を支える社会保障制度、自治体施策の内容と実際、多機関・多職種の役割と機能、多機関・多職種連携・協働の実際を学び、地域包括支援における看護師の役割を考える。			
到達目標	1. 地域で生活する多様な個人・家族・世帯の生活実態がわかる。 2. 生活の継続を支える地域資源がわかる。 3. 生活課題の解決・改善に向けた入退院支援の実際がわかる。 4. 生活を支える各種制度や自治体施策がわかる。 5. 多機関・多職種の役割と機能、連携・協働の実際がわかる。 6. 地域包括支援における看護師の役割がわかる。 本授業は DP の 1～5 に該当する。			
授業計画・内容				
【1 週目】				
病院内の地域連携室や入退院支援室での同行実習を通し、地域で生活する多様な生活者や、生活者が抱える多様な課題と入退院支援の実際等を理解する。				
対 象：医療的ケア児、障害児・者、高齢者、療養者、勤労者、生活困窮者等とその家族・世帯				
実習先：福井県立病院、福井厚生病院、福井赤十字病院、医療法人健康会嶋田病院、医療法人穂仁会大滝病院（5 病院）				
実習生：1 病院 1～2 名				
方 法：火・水・木の 3 日間同行実習を行う。退院支援計画を作成する（1 例）。				
月曜日：AM 学内実習、PM 実習病院挨拶				
火～木曜：同行実習、退院支援計画の作成				
金曜日：AM 学内実習（1 週目のまとめ・カンファレンス、病院実習レポート作成、2 週目の事前学修） PM 実習施設挨拶				
【2 週目】				
入所・通所事業所等での同行実習を通し、地域で生活する多様な生活者と地域生活の実際、生活を支える地域の資源、多機関・多職種の役割と機能、連携・協働の実際等を理解する。				
対 象：医療的ケア児、障害児・者、高齢者、療養者、勤労者、生活困窮者等とその家族・世帯				
実習先：入所・通所施設、訪問診療所等（36 力所）				
実習生：1 施設 1～2 名				
方 法：月・火の 2 日間同行実習を行う。退院支援計画を完成する（1 例）。				
月～火曜日：同行実習、退院支援計画の完成				

水～木曜日：事後学修・記録の整理、施設実習レポート作成、報告会準備、全体報告会

報 告 会：同行実習を通し、多様な生活者と生活課題、生活を支える多様な地域資源、

多機関・多職種連携・協働の実際等を共有する

最終レポート：地域包括支援実習の学び、地域包括支援における看護師の役割

金 曜 日：AM カンファレンス、PM レポートの追加・修正、記録提出

【備 考】

遠隔授業になった場合は Zoom によるオンライン実習を行う

キーワード	多様性、地域資源、入退院支援、多機関・多職種連携・協働、地域包括支援
教科書	なし（適宜紹介する）
参考書	最新版 医療福祉総合ガイドブック（NPO 法人 日本医療ソーシャルワーク協会） 地域包括ケアシステム、多職種連携、社会保障制度に関する本（適宜紹介する）
評価方法・評価基準	評価方法：実習記録・レポート内容、報告会、カンファレンス等での発言内容、学修態度 評価基準：到達目標の習得状況 実習内容を個々の到達目標に関する既存の知識・技術と関連づけることができる 自己の考えを整理し、分かりやすく伝えることができる 礼節をわきまえ自ら学修しているか（容姿、挨拶、返事、主体性、自立性、積極性等） ※対面実習ができない場合は評価方法を変更することがある
関連科目	看護学に関するすべての科目、保健・医療・福祉制度に関する科目
履修要件	看護関連科目に関する全ての科目を「修得」していなければ履修できない
必要な事前・事後学修	事前学習：社会保障制度、自治体施策、入退院支援、病院・施設等サービスの種類と機能、 連携職種の役割と専門性、多職種連携の技術等、事後学修：レポート作成と報告会（実習 内容と既存の知識・技術との関連）
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師、社会福祉士の資格を持ち、病院の入院・外来看護、施設看護、訪問看護、入退院 支援、多機関・多職種連携、コミュニティワーク、メディカル・ソーシャルワーク、自治 体施策の立案・運営等の実務経験者、療育・介護家族の当事者・支援実務経験者
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	健康維持に努め、主体的・自立的に学修すること

公衆衛生看護学実習 I

(Nursing Practice I : Public Health Nursing Administration)

担当教員名 中谷 芳美、小島 亜未、坂部 敬子、斎藤 博子(非)				
科目区分 専門 選択	授業方法 実習	対象学年 4 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	実習期間中の実習終了後 中谷 (N410) 小島 (N316) 坂部 (N109) 斎藤 (N305)			
メールアドレス	中谷 ynaka@fpu.ac.jp 小島 akajima@fpu.ac.jp 坂部 ksakabe@fpu.ac.jp			
授業概要	地域診断を通して地域特性と健康課題を把握する能力を養い、健康課題を解決するために行われている公衆衛生看護活動について理解する。地域保健法に基づく広域的、専門的、技術的拠点としての保健所の役割・機能の実際と保健師の専門性について理解し、保健所内や管内市町との関係機関との連携・調整、他職種と協働しながら展開されている公衆衛生看護活動の基盤となる能力を養う。			
到達目標	1. 地域診断に必要な情報を収集・アセスメントし、実習市町の地域特性と健康課題を把握することができる。 2. 市町の健康課題を解決するために実践されている公衆衛生看護活動の全体像を捉えて、必要な支援を考察できる。 3. 保健所の組織、業務と保健所が管轄する市町の地域特性と健康課題を踏まえ、保健所の役割・機能と保健師の専門性を考察できる。 4. 健康危機への予防対策や健康危機発生時の対応方法と支援内容を理解できる。 5. 保健師実習生として主体的に実習することを通して、地域の健康課題を解決する保健所の公衆衛生看護活動の基盤となる能力を養う。 (本授業は、DP4, 5 に対応している。)			
授業計画・内容				
【実習方法】				
[地域診断実習]				
1. 地域診断に必要な情報を収集・アセスメントして、実習する市町の地域特性と健康課題を把握する。 2. 健康課題を解決するために展開されている公衆衛生看護活動（母子・成人・介護予防事業）に関する情報を収集し、事業の全体像を理解し、必要な公衆衛生看護活動を考察する。				
[保健所実習]				
1. 実習計画に従って実習する。 2. 毎日、事前学習と自己の実習目標を明確にして実習に臨み、実習目標に対する学びを記録する。 3. 家庭訪問に同行する場合は、事前アセスメント用紙を記入し、訪問後に個人・家族支援記録を記入する。 4. 保健所保健師の支援方法と技術、保健師が果たす役割について理解を深める。				
【実習場所】				
福井市保健所				
福井県福井健康福祉センター、坂井健康福祉センター、奥越健康福祉センター、丹南健康福祉センター				
※遠隔実習となった場合の対応：ZOOM によるオンライン指導				
キーワード	地域診断、地域の健康課題、公衆衛生看護活動、保健所の役割・機能、保健師活動			
教科書	標準保健師講座 第 1 巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 標準保健師講座 第 2 巻 公衆衛生看護技術 [医学書院] 標準保健師講座 第 3 巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院]			

	国民衛生の動向 2023/2024 [厚生統計協会]
参考書	関連科目で使用した教科書・参考書
評価方法・評価基準	評価方法は、実習課題（50%）と実習態度・実習記録（50%）を総合的に評価する。 評価基準は、実習課題（地域診断、健康課題の把握、公衆衛生看護活動の理解、保健所の役割機能・保健師の専門性の理解）の内容、実習態度・実習記録の内容により評価する。60 点以上を合格とする。 遠隔実習の場合の評価方法：実習課題は LMS に提出してもらい評価する。
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保健指導論、公衆衛生看護管理論、保健医療福祉行政論、公衆衛生学、疫学、社会保障・社会福祉概説、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
履修要件	疫学、公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、専門領域看護学実習の単位を修得していること
必要な事前・事後学修	実習前・実習中に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 保健師の資格を有する教員の指導の下、公衆衛生看護学に必要な看護実践能力を身につけるための実習を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	公衆衛生看護学実習Ⅱを履修していない者の公衆衛生看護学実習Ⅰの単位認定はできない。

公衆衛生看護学実習Ⅱ

(Nursing Practice Ⅱ : Public Health Nursing Process)

担当教員名 中谷 芳美、坂部 敬子、小島 亜未、斎藤 博子(非)				
科目区分 専門 選択	授業方法 実習	対象学年 4 年	開講期 前期	単位数 3
オフィスアワー	実習期間中の実習終了後 中谷 (N410) 小島 (N316) 坂部 (N109) 斎藤 (N305)			
メールアドレス	中谷 ynaka@fpu.ac.jp 小島 akojima@fpu.ac.jp 坂部 ksakabe@fpu.ac.jp			
授業概要	地域で生活している人々の生活環境も含めて健康課題に対する理解を深め、個人・家族・集団・地域全体を対象とする公衆衛生看護活動を展開するために必要な知識・技術・態度を学習し、市町保健師の公衆衛生看護活動の基盤となる能力を養う。			
到達目標	1. 市町保健センター・地域包括支援センターの役割・機能を理解できる。 2. 地域で生活する人々の健康課題に対応して展開されている公衆衛生看護活動を理解できる。 3. 健康教育の企画・実施・評価の過程を通して、健康教育に必要な基本技術と方法を身につける。 4. 地域の健康課題を解決するために効果的な公衆衛生看護活動を企画・立案、実施、評価する過程を理解し、保健師の役割を考察できる。 5. 保健師実習生として主体的に実習することを通して、地域の健康課題を解決する市町保健師の公衆衛生看護活動の基盤となる能力を養う。 (本授業は、DP4, 5 に対応している。)			
授業計画・内容				
【実習方法】実習計画に従って実習する。 1. 毎日、事前学習と自己の実習目標を明確にして実習に臨み、実習目標に対する学びを記録する。 2. 家庭訪問に同行する場合は、事前アセスメント用紙を記入し、訪問後に個人・家族支援記録を記入する。 3. 健康教育の対象と場のアセスメントに基づき、目的・目標を設定し、計画書・シナリオを提出し、模擬で指導保健師の指導・助言を受けて修正したうえで、健康教育を実施し、評価を行う。 4. 臨地実習の最終日は、健康教育の評価と学び、自己の実習目標について事実に基づく分析を通して理解したこと・考えたこと、保健師の役割を発表・討議する。 5. 最終日の学内のまとめでは、市町実習において理解できた公衆衛生看護活動と保健師の役割について発表・討議することを通して、地域で生活する人々の健康課題とそれらに対応して展開されている公衆衛生看護活動、保健師の支援方法と支援内容、保健師の役割について理解を深める。 【実習場所】福井県内の市町：福井市、永平寺町、坂井市、あわら市、大野市、勝山市、鯖江市、越前市 ※遠隔実習となった場合の対応：ZOOM によるオンライン指導				
キーワード	地域の健康課題、公衆衛生看護活動、市町保健センター・地域包括センターの役割、保健師活動			
教科書	標準保健師講座 第1巻 公衆衛生看護学概論 [医学書院] 標準保健師講座 第2巻 公衆衛生看護技術 [医学書院] 標準保健師講座 第3巻 対象別公衆衛生看護活動 [医学書院] 国民衛生の動向 2023/2024 [厚生統計協会]			
参考書	関連科目で使用した教科書・参考書			
評価方法・評価基準	評価方法は、健康教育の企画・実施・評価の過程と内容を含む実習態度・実習記録（65%）、実習中課題（35%）を総合的に評価する。 評価基準は、健康教育の企画・実施・評価の過程と内容を含む実習態度・実習記録の内容			

	実習課題（事前学習、臨地実習のまとめ）の内容により評価する。60 点以上を合格とする。 遠隔実習の場合の評価方法：実習課題は LMS に提出してもらい評価する。
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護活動論Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、保健指導論、公衆衛生看護管理論、保健医療福祉行政論、公衆衛生学、疫学、社会保障・社会福祉概説、保健統計学、すべての看護専門基礎科目、看護専門科目
履修要件	疫学、公衆衛生看護活動論Ⅱ、公衆衛生看護管理論、公衆衛生看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、専門領域看護学実習の単位修得していること
必要な事前・事後学修	実習前・実習中に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 保健師の資格を有する教員の指導の下、公衆衛生看護学に必要な看護実践能力を身につけるための実習を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	公衆衛生看護学実習Ⅰを履修していない者の公衆衛生看護学実習Ⅱの単位認定はできない。

看護研究方法論

(Nursing Research Methodology)

担当教員名 笠井 恭子 、大島 千佳 、普照 早苗 、東 知宏				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 3年	開講期 前期	単位数 1
オフィスアワー	笠井（N414） 大島（N306） 普照（N319） 東（N302）：随時（メール等にて事前に日時調整）			
メールアドレス	笠井：kasai 大島：oshima 普照：sfutio 東：azuma ※末尾に@fpu.ac.jp			
授業概要	1. 看護研究の必要性、演繹的アプローチ・帰納的アプローチによる研究の特長と具体的方法について教授する 2. 主に実験研究、調査研究、質的研究について概説し、実際の研究論文を用いて研究手法の基礎知識を深める 3. 人を対象とする看護研究の研究倫理、倫理的配慮について教授する			
到達目標	1. 看護実践と看護研究のつながりについて理解を深め、科学的思考や論理的思考を身につける 2. 医療や看護の原著論文のクリティークをととして研究のプロセスについて理解できる 3. 人を対象とする研究倫理について理解できる （本授業は、DP5 と DP6 に対応している。）			
授業計画・内容				
第1回	看護研究の目的と方法概要、リサーチクエスションの立て方			
第2回	文献検索の方法と実際、文献レビューの記述（文献カード）			
第3回	研究テーマ・研究目的・研究の枠組みの明確化、研究計画書の作成			
第4回	実験研究の特徴と倫理的配慮			
第5回	実験研究の進め方①：データ収集方法と実際			
第6回	実験研究の進め方②：データの分析方法と実際			
第7回	実験研究論文のクリティークとまとめ方・論文の書き方			
第8回	調査研究の特徴と倫理的配慮			
第9回	調査研究の進め方①：データ収集方法：質問紙調査法			
第10回	調査研究の進め方②：データの分析方法：記述統計／推測統計			
第11回	調査研究論文のクリティークとまとめ方・論文の書き方			
第12回	質的研究の特徴と倫理的配慮			
第13回	質的研究の進め方①：データ収集方法と実際			
第14回	質的研究の進め方②：データの分析方法と実際			
第15回	質的研究論文のクリティークとまとめ方・論文の書き方			
第1回、第3回	笠井			
第2回、第4～7回	東			
第8～11回	大島			
第12～15回	普照			
※遠隔授業となった場合は、ZOOM 等によるオンライン授業で対応する。				
キーワード	看護研究 質的研究 調査研究 実験研究			
教科書	系統看護学講座別巻 看護研究第2版：坂下玲子他，医学書院			

参考書	授業時に紹介する
評価方法・評価基準	評価方法：レポート（100％）第 1、3 回：研究計画書が科学的・論理的思考に基づき作成されているか（25％） 第 2、4～7 回：実験研究の基礎知識・研究プロセスの理解度（25％） 第 8～11 回：調査研究の基礎知識・研究プロセスの理解度（25％） 第 12～15 回：質的研究の基礎知識・研究プロセスの理解度（25％） 評価基準：①課題の的確な把握、②論旨の一貫性、③資料の構成の適切性 ※遠隔
関連科目	一般教育科目の「情報」に関する科目、社会調査の基礎
履修要件	上記関連科目を履修していることが望ましい
必要な事前・事後学修	事前学習：授業時に提示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が看護研究を行う際に必要な基礎知識および研究プロセスについて授業を展開する
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	この授業をとおして、医療・看護に関連する研究論文に触れていきましょう。実習をとおして感じた疑問を大切にして研究疑問へと発展させ、4 年生で取り組む卒業研究へとつなげていきましょう。

卒業研究（看護学科）

(Graduation Study)

担当教員名 看護学科専任教員（教授、准教授、助教）				
科目区分	専門 必修	授業方法 その他	対象学年 4年	開講期 通年 単位数 3
オフィスアワー	各教員と要相談			
メールアドレス	各教員のメールアドレスを参照			
授業概要	授業や実習経験を踏まえ、医療・健康に関する現象について研究課題を明確にしたうえで、文献検討、観察・調査・実験などの研究方法を用いて論文を作成する。研究は①課題と関連のある文献レビュー、②研究テーマの明確化、③研究方法の決定、④研究計画書の作成、⑤データ収集、⑥データ分析、⑦論文作成、⑧研究発表のプロセスを踏む。			
到達目標	卒業研究では、科学的思考力を養い、自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につけることを目的とする。従って、学生は教員の指導のもと、自主的・計画的に研究を遂行し、研究論文を完成させ、研究発表ができる。本授業は、DP5、DP 6に対応している。			
授業計画・内容				
4年次に卒業研究を完成させるために3年次後期後半から準備期間を設け、基盤看護学、成育看護学、成熟看護学、広域看護学のいずれかの分野の専任教員による個別指導を受けながら研究課題に取り組む。				
1. 実施方法				
卒業研究要項（別途配布）に基づいて実施する。				
2. 指導体制				
指導教員名は下記のとおりである。なお、学生が記載した希望調査票（関心のあるテーマ、領域）を参考にし て、学生数の調整後、指導教員を決定する。				
1) 基盤看護学分野				
健康科学：米田誠、平井一芳、水谷哲也、村上茂				
基礎看護学：笠井恭子、大島千佳、東知宏、上木礼子				
2) 成育看護学分野				
母性看護学：岩谷久美子、平井宏美、牧野葵				
小児看護学：金粕仁美、上谷祐子				
3) 成熟看護学分野				
成人看護学：有田広美、成田光江、熊谷あゆ美、矢島直樹、竹内智子、藤田祐子				
老年看護学：久米真代、岡田恭子、松崎かさね				
4) 広域看護学分野				
地域・在宅看護学：普照早苗、梅津千香子				
公衆衛生看護学：中谷芳美、小島亜未、坂部敬子				
精神看護学：川村みどり、長谷川小眞子				
※遠隔授業となった場合は、ZOOM 等によるオンライン授業で対応する。				
キーワード	卒業研究、研究課題			
教科書	各担当教員が指示する			
参考書	各担当教員が指示する			

評価方法・評価基準	自ら取り組む姿勢、研究能力の基礎などの指標に沿って評価する。 評価基準は遠隔授業の場合も含めて、卒業研究要項（別途配布）を参照のこと。
関連科目	看護研究方法論、専門基礎・専門科目、保健統計学、社会福祉調査 A・B
履修要件	
必要な事前・事後学修	準備学習については、各指導教員が指示する
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師、保健師、助産師の資格を有する教員又は医学教育の業務経験のある教員による研究指導を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

看護管理学

(Nursing Management)

担当教員名 上木 礼子				
科目区分 専門 必修	授業方法 講義	対象学年 4 年	開講期 前期集中	単位数 1
オフィスアワー	上木 (N416 研究室) 随時：メール等にて事前に日時調整			
メールアドレス	上木 reikou17@fpu.ac.jp			
授業概要	看護サービスを提供していくための看護管理の概念、看護の提供システム、看護サービスの質保証や看護における政策決定過程を学ぶ。 時代に対応した質の高い看護サービスを提供するための看護職者の役割を、看護管理の視点から考える。			
到達目標	1. 看護管理の基礎となる理論を理解する。 2. 質の高い看護を提供するためのシステム（構造と機能）を理解する。 3. 看護サービスの経済的・質的評価について理解し、質向上に果たす看護職の役割を考える。 4. 看護職者のキャリア形成について学び、看護職者としてキャリアを展望する。 5. 多職種と協働するためのリーダーシップ機能について理解する。 (本授業は、DP5、DP6 に対応している)			
授業計画・内容				
本授業は全 8 回、4 日間の集中講義で実施します。教科書を中心に講義形式ですすめます。第 5 回は PNS (パートナーシップナーシングシステム) 開発に関わった橘先生を外部講師として招き、看護方式の変遷と PNS の特徴を解説いただきます。 (1) 看護とマネジメント(継続的で一貫性のある看護を提供するために必要なこと) (2) 看護ケアのマネジメント(看護師の提供する看護ケアのマネジメント、チーム医療、安全管理) (3) 組織論の基礎、看護組織とは(組織とは、組織のデザイン、看護の組織化) (4) 看護サービスのマネジメント[1] (看護サービス提供のしくみづくり、人材のマネジメント) (5) 看護サービスのマネジメント[2] (看護方式の変遷とその特徴、PNS (パートナーシップナーシングシステム) が生まれた背景とその効果) 橘幸子先生 (6) 看護職のキャリアマネジメント(看護職のキャリア形成、看護専門職としての成長、ストレスマネジメント) (7) マネジメントに必要な知識と技術(マネジメントプロセス、組織とマネジメント、心理的安全性) (8) 看護を取り巻く諸制度 政策決定への参画(看護組織と関連法規、看護行政組織、職能団体) ※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業で対応します。				
キーワード	看護組織 看護管理 看護ケア 看護サービス キャリア形成 医療安全			
教科書	上泉和子他：系統看護学講座 統合分野 看護管理（看護の統合と実践①）医学書院 教員が作成した教材を使用			
参考書	講義では必要時その都度提示			
評価方法・評価基準	課題レポートと授業への積極的な参加をあわせて評価 課題レポート 70%、受講状況 30% 遠隔授業となった場合も同様			
関連科目	看護マネジメント実習			
履修要件				
必要な事前・事後学修	必要時には事前に提示する。			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 医療現場で実践される看護職者の管理的機能やそのマネジメントについての実際から、時代に対応した質の高い看護サービス提供するための方策を、看護管理の実務経験や研究成果から授業をすすめる。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	質の高い看護を提供するために、看護職者として組織マネジメントおよび看護サービスのマネジメントを理解し、一看護職者としての役割を明確にしながら多職種と協働できること期待しています。授業での学びを看護マネジメント実習で生かしてください

看護マネジメント実習

(Nursing Practicum in Leadership and Management)

担当教員名 上木 礼子 、有田 広美 、大島 千佳					
科目区分 専門 必修		授業方法 実習	対象学年 4 年	開講期 前期	単位数 2
オフィスアワー	上木 (N416 研究室) 有田 (N413 研究室) 大島 (N306 研究室) 随時：メール等にて事前に日時調整				
メールアドレス	上木 reikou17 有田 arita 大島 oshima (※アドレスの末尾に@fpu.ac.jp をつけてください)				
授業概要	ヘルスケアを提供する場において、看護サービス提供のマネジメントをするため、授業で学んだ基礎的知識について実習を通して理解し、理論と実践を結びつけて考察する。また看護の有効的なリーダーシップとマネジメントの実際を学習する。				
到達目標	1. 病院および看護部の組織構造と役割について理解できる。 2. 病棟における看護サービスの提供、看護マネジメントの実際について理解できる。 3. チームの一員としての視点から看護サービス提供のマネジメントを考察し、病棟の組織体制と病院・看護部理念とのつながり、さらには看護サービスへの影響を考察できる。 (本授業は、DP5、DP6 に対応している)				
授業計画・内容					
実習施設：福井赤十字病院、福井済生会病院、福井県立病院、福井大学附属病院 実習期間：[前半] 6 月上旬～中旬、[後半] 7 月上旬～中旬 集中実習 実習方法：1 病棟に 1～2 名の学生を配置し、担当看護師の指導のもと実習を展開する 実習内容 [1 週目] 1) 病院組織および看護組織についての概要、および組織の目標等の説明を受け全体像を把握する。 2) 病棟の組織や機能、特徴などについて説明を受け理解する。 3) 管理職(看護師長)とともに行動し、それぞれの役割と業務を理解する。 [2 週目] 4) 副師長、リーダーとともに行動し、それぞれの役割を理解する。 5) 施設、病棟単位の組織目標を理解しつつ、チーム医療の一員として看護サービスの提供の実際を学ぶ 6) 医療安全対策に向けたカンファレンス等に参加し、組織における安全管理システムの実際を学ぶ。 7) 実習終了後に、実習で体験したことをもとに報告会を行い、体験の共有化をはかる。 ※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業で対応します。					
キーワード	理念 看護組織 看護サービス チーム医療 医療安全管理				
教科書	必要時には独自の資料を配布				
参考書	「看護管理」の授業資料を必ず復習してください。				
評価方法・評価基準	評価方法：実習記録・自己評価表（50%）実習への取り組み態度（50%）から総合的に評価する。遠隔実習となった場合は評価方法に課題を追加し、評価比率を調整する 評価基準：病院・看護部の組織構造と役割の理解度を記録物から評価する。病棟における看護マネジメントの実際についての理解能力を記録物と病棟実習への取り組み態度から評価する。看護サービス提供のマネジメントを考察する能力を記録物とカンファレンスへの参加態度から評価する。				

関連科目	看護管理学
履修要件	看護管理学を履修していること
必要な事前・事後学修	必要時には提示する。
実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 病院での実務経験から、看護マネジメントについて、授業で学んだ基礎的知識や理論を実際と結びつけ理解が深められるように実習を通して導く。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	実習経験を題材にしながら、看護サービス提供の基盤となる看護組織の視点から看護の質の向上とは何か、その管理を考察する。

基礎看護発展セミナー

(Advanced Seminar : Fundamental of Nursing)

担当教員名 笠井 恭子 、東 知宏 、上木 礼子				
科目区分 専門 選択	授業方法 講義	対象学年 4 年	開講期 前期集中	単位数 1
オフィスアワー	笠井（N414） 東（N302） 上木（N416）：随時（メール等にて事前に日時調整）			
メールアドレス	笠井：kasai 東：azuma 上木：reikou17 ※末尾に@fpu.ac.jp			
授業概要	看護実践と理論のつながりについて文献検討を行った上で、専門領域看護学実習で受け持った事例について看護理論を活用してまとめる			
到達目標	文献検討ならびに自己の看護実践の振り返りをとおして以下の目標を達成する 1. 看護実践は看護理論の表現であり両者は密接な関係にあることを理解する 2. 看護の質を高めるためには、看護理論の活用が不可欠であることを理解する（本授業は、DP5 と DP6 に対応している。）			
授業計画・内容				
第1回 オリエンテーション／看護実践と看護理論				
第2回 看護理論を活用した看護実践報告の紹介				
第3回 看護における文献検討の意義				
第4回 文献検討の手法と結果の活用				
第5回 看護のケーススタディとは				
第6回 自己の看護実践を振り返る				
第7回 看護理論を活用してまとめた自己の看護実践について 発表（前半グループ）／ディスカッション				
第8回 看護理論を活用してまとめた自己の看護実践について 発表（後半グループ）／ディスカッション				
第1～2回 笠井				
第3～4回 東				
第5回 上木				
第6～8回 笠井・東・上木				
※遠隔授業となった場合は、ZOOM 等によるオンライン授で対応する。				
キーワード	看護実践	看護理論	文献検討	ケーススタディ
教科書	指定しない			
参考書	授業の中で紹介する			
評価方法・評価基準	評価方法：発表資料・プレゼンテーション（100％）について、以下の評価基準に沿って評価する。 評価基準：①自己の看護実践を振り返る際、適切な看護理論を用い分析しているか ②看護理論と看護実践の密接な関係について理解できているか ③発表資料は構成が適切でわかりやすく、プレゼンテーション力は優れていたか ※遠隔授業時の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。			
関連科目	専門教育科目全般			
履修要件	特になし			
必要な事前・事後学修	事前学習：事前配付資料に目をおし予備知識を持って授業に臨む			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師経験を有する教員が看護実践と看護理論のつながりについて講義と事例検討を行う
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	特になし

成人看護発展セミナー

(Advanced Seminar : Adult Nursing)

担当教員名 有田 広美 、藤田 祐子				
科目区分 専門 選択	授業方法 演習	対象学年 4 年	開講期 前期集中	単位数 1
オフィスアワー	随時 アポを取ってください			
メールアドレス	有田 : arita@fpu. ac. jp 藤田 : @fpu. ac. jp			
授業概要	既習の緩和ケア論で修得した知識および基礎看護学実習・専門領域看護学実習の体験を活かしながら、緩和・ターミナル期の病状経過に応じた患者・家族の援助を考える応用編である。緩和ケアに関して関心のあるトピックスを自ら調べ、そのテーマに関する文献抄読やディスカッションを行う。さらに、がん看護専門看護師が活動している場、在宅緩和医療を実践している訪問看護ステーションに出向き、フィールドワークを通して病院、外来、在宅での視点で緩和ケアを必要とする人への支援を学ぶ。			
到達目標	1. テーマに関する記事・文献の検索・検討を行い、自分の考えを述べることができる 2. 入院、外来、在宅で行われている緩和ケア・ターミナルケアの実際を理解できる 3. 入院、外来、在宅での緩和ケアにおいてどのような支援が求められるか、どのような課題があるかを考察できる (本授業は、DP5, 6 に対応している)			
授業計画・内容				
第 1 回 : 関心のあるテーマに関する記事や論文の文献検討 (実習の目的の明確化)				
第 2 ～ 7 回 : フィールドワーク				
方法 : 看護師 (専門看護師、訪問看護師) と共に動いて学ぶ				
場所 : 福井県済生会病院緩和ケア病棟、福井県立病院緩和ケア看護外来、オレンジホームケアクリニックの 3 施設のうち 2 施設で 1 日ずつ見学実習を行う				
学習内容 : がん看護専門看護師による療養支援、緩和ケアの実践、多職種連携、在宅ターミナルケアの実際など				
第 8 回 : ディスカッションとまとめ				
緩和ケアを必要とする人への支援と看護師の役割				
※遠隔授業になった場合は zoom によるオンライン授業で対応する				
第 1 ～ 8 回担当 有田、藤田				
キーワード	緩和ケア病棟、緩和ケアセンター、緩和ケア外来、在宅ターミナルケア、緩和医療チーム			
教科書	緩和ケア論で使用した教科書			
参考書	各施設のホームページ			
評価方法・評価基準	フィールドワークの目的のプレゼンテーションとレポートで総合的に判定する 評価基準 : ①課題を的確にとらえているか、②自分の主張 (考えや思い) を的確に表現しているか、③資料の構成が適切でわかりやすいか ※対面でフィールドワークができない場合は評価方法を変更することがある			
関連科目	成人看護学概論、成人看護学科目すべて、緩和ケア論、在宅看護論			

履修要件	緩和ケア論、成人慢性看護学実習は原則として修得していることが望ましい
必要な事前・事後学修	フィールドワーク施設のホームページをよく読んでその施設の特徴、どのような実践を行っているかを学習して臨むこと
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 実務経験のある教員の指導のもと到達目標を達成するためのフィールドワークを行う
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

老年看護発展セミナー

(Advanced Seminar of Gerontological Nursing)

担当教員名 久米 真代 、岡田 恭子 、松崎 かさね				
科目区分 専門 選択		授業方法 演習・一部 実習	対象学年 4 年	開講期 前期集中 単位数 1
オフィスアワー	講義終了後 研究室 久米（N311） 岡田（N508） 松崎（N411）			
メールアドレス	久米：kume 岡田：okadap 松崎：kasane ※末尾に@fpu.ac.jp をつけてください			
授業概要	認知症専門病院でのフィールドワークを通して、認知症看護の専門性について理解を深める			
到達目標	1. 認知機能障害が生活に及ぼす影響と、高齢者の強みを引き出し生活しやすくする看護の実際を理解できる 2. 認知症の原因疾患による生活のし辛さの違いを知り、看護の工夫を考えることができる 3. 生活のなかでの意思決定支援、意思表示支援の実際を理解できる 4. 退院に向けた多職種連携の実際を学び、高齢者の視点から課題を抽出し、解決策を検討できる (本授業はDPの5・6に対応する)			
授業計画・内容				
第1回 セミナー展開のオリエンテーション ①学習目標の明確化 ②フィールドワークにおける目標設定 ③認知症専門病院の果たす役割 第2回～4回 フィールドワーク（福井県立すこやかシルバー病院 9：00～15：00） 第5回～7回 フィールドワーク（福井県立すこやかシルバー病院 9：00～15：00） 第8回 フィールドワークを通しての学びをまとめ、発表・討議する ※感染症の発生状況や遠隔授業となった場合、実習施設の学生受け入れの可否によってフィールドワークの方法は変更となる ※履修者は4人以上6人までとする				
キーワード	認知症、意思表示、意思決定、退院支援			
教科書	2023 年版最新老年看護学第 4 版（日本看護協会出版会）			
参考書	講義時に指示する			
評価方法・評価基準	フィールドワーク（50%）、発表内容（20%）、討議への参加度（15%）、レポート（15%） ①フィールド学習の体験を通して授業目標について自身の考えがまとめられているかどうかを発表およびレポートで評価する。 ②主体的・自主的に課題に取り組んでいるかどうかをフィールドワークと討議への参加度から評価する。 ③他者の意見を聞き、自分の視点を広げることができているかどうかを発表内容、討議への参加度、レポートにより評価する。			

	※遠隔授業となった場合、レポートや討議等の評価比率は変更する
関連科目	老年看護学、老年看護学演習、老年看護学実習、在宅看護学実習、療養生活マネジメント実習
履修要件	3年次までに開講されている老年看護学に関連する全科目、在宅看護学実習、療養生活マネジメント実習は履修していること
必要な事前・事後学修	事前学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師業務を経験した教員が認知症看護の基本的な理念をもったうえで、看護実践や多職種連携の実際について臨地での指導を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

小児看護発展セミナー

(Advanced Seminar : Child Health Nursing)

担当教員名 金粕 仁美 、上谷 祐子				
科目区分 専門 選択	授業方法 演習	対象学年 4 年	開講期 前期集中	単位数 1
オフィスアワー	随時受付 金粕（N308）, 上谷（N110）			
メールアドレス	金粕: kanekasu@fpu. ac. jp, 上谷: kamitani@fpu. ac. jp			
授業概要	既習の小児看護学関連の学習内容を踏まえた上で、学生自身がテーマを選択し、小児看護の専門性を探求する。具体的には、子どもとその家族に関連するテーマを選択し、医療・保健・福祉・教育等の連携の視点で文献検索・検討を行う。また、文献検討の内容をプレゼンテーションし、グループメンバーによるディスカッションを通して学びを深める。また、学術交流を通して、日本と欧米の看護の類似点・相違点について学ぶ。			
到達目標	1. 小児看護学関連のテーマを選択し、文献検索・検討を行い、プレゼンテーションを実施することができる 2. ディスカッションを通して、選択したテーマについて内容を深め、小児看護の専門性を探求することができる 本授業は、DP5・6に対応している			
授業計画・内容				
第1回 導入、テーマ設定 第2回 文献検討、プレゼンテーション資料の作成、個別面談 第3回 1回目のプレゼンテーション 第4回 グループディスカッション 第5回 文献検討、プレゼンテーション資料の作成、個別面談 第6回 2回目のプレゼンテーション 第7回 グループディスカッション 第8回 プレゼンテーション・グループディスカッションのまとめ * 遠隔授業になった場合：ZOOMによるオンライン授業、GCを使用する				
キーワード	子どもと家族、成長・発達、小児医療、母子保健、児童福祉、学校教育			
教科書	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習、学校保健Ⅰ等で使用した教科書			
参考書	参考書等は随時提示する			
評価方法・評価基準	評価方法は文献検討とプレゼンテーション、レポートにより総合的に判断する。詳細は初回講義時に説明する 遠隔授業となった場合も同様			
関連科目	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習、学校保健Ⅰ			
履修要件	小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習、小児看護学実習を修得していること			
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり			

	看護師の資格を有する教員の指導の下、小児看護学に必要な看護実践能力を発展するための演習を行う
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

母性看護発展セミナー

(Progress Seminar in Maternity Nursing)

担当教員名 岩谷 久美子 、平井 宏美 、牧野 葵				
科目区分 専門 選択	授業方法 演習	対象学年 4 年	開講期 前期集中	単位数 1
オフィスアワー	講義終了後、随時 岩谷 (N408) 平井 (N109) 牧野 (N304)			
メールアドレス	岩谷：(後日連絡する) 平井：hirohira@fpu.ac.jp 牧野：mknaoi@fpu.ac.jp			
授業概要	国内外のリプロダクティブヘルス＆ライツの視点から最近の課題について探求し、母性看護の役割や母子保健について理解を深める。			
到達目標	国内・国外のリプロダクティブ・ヘルス＆ライツの基本的要素の視点に基づき、関心のあるテーマを決め、国内・国外を問わず、最近の話題や問題について医療・福祉、社会情勢など多方面から情報を収集する。集めた情報をさらに探求し、女性の生涯にわたってリプロダクティブヘルス＆ライツを脅かしている問題を明らかにし、女性の健康課題と母性看護の役割について学習する。 グループワーク・発表、意見交換など学生の主体的な学習形式を取り入れる。 (本授業は DP-5・6 に対応している)			
授業計画・内容				
第 1 回 : オリエンテーション、リプロダクティブヘル＆ライツの概念 第 2 回 : 関心のあるテーマについて発表、質疑応答 第 3 回 : 決定したテーマの学習・実施計画について検討 第 4 回 : テーマと実施計画の発表、質疑応答 第 5 回 : グループ討議・発表準備等 第 6 回 : グループ討議・発表準備等 第 7 回 : グループ討議・発表準備等 第 8 回 : 学習成果の発表と質疑応答 ※対面事業ができない場合は Zoom 等の利用によるオンライン授業形式に変更する				
キーワード	リプロダクティブヘル＆ライツ			
教科書	母性看護学概論、母性看護学、母性看護学実習で使用した教科書			
参考書	随時、提示する			
評価方法・評価基準	評価方法：レポート（80%）、発表（20%） 評価基準：母性の課題の把握、レポートの理解度・適切性、プレゼンテーション力を総合的に評価する。 ※遠隔授業の場合も、上記と同じ評価方法・評価基準とする。			
関連科目	母性看護学概論、母性看護学、母性看護学実習、母子保健学			
履修要件	母性看護学概論、母子保健学、母性看護学、母性看護学実習を履修または修得していること。			
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師・助産師の資格を有し業務経験のある教員が母性看護学及び小児看護学に必要な母子保健の基本的な知識を講義する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

精神看護発展セミナー

(Advanced Seminar : Mental Health Nursing)

担当教員名 川村 みどり 、長谷川 小眞子				
科目区分 専門 選択	授業方法 演習	対象学年 4 年	開講期 前期集中	単位数 1
オフィスアワー	川村：講義終了後または事前のメール連絡で日時調整（N409） 長谷川：講義終了後研究室（N303）			
メールアドレス	川村：kwmr2021 長谷川：hasegawa アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください			
授業概要	既習の精神看護学関連の学習内容を踏まえた上で、精神障害者の生活を支援する看護実践のあり方や精神看護の専門性とは何かを探究する。具体的には、今日、精神看護学領域において注目されている事柄（精神障害者の疾病との付き合い方、精神障害者の退院支援や地域生活支援、家族支援など）から、学生自身が問題意識を持ったテーマを選択し、テーマに関連する文献検討を行う。そして、実際の現場に出向き、対象者や看護職者との意見交換等から得られた各自の学びをプレゼンテーションし、グループメンバーによるディスカッションを通して学びを深める			
到達目標	1. 今日の精神医療・精神看護における現状および課題を理解した上で、本セミナーにて深めたいテーマを設定できる 2. 精神看護の現場において、自己のテーマ学習を通して、精神障害者（家族を含む）の生活支援のあり方や精神看護の専門性を考察することができる （本授業は、DP5、DP6 に対応している。）			
授業計画・内容				
第1回：オリエンテーション，文献検討 第2回：文献検討のまとめ，自己の学習目的・方法の明確化 第3回：フィールドワーク 第4回：フィールドワーク 第5回：フィールドワーク 第6回：フィールドワーク 第7回：プレゼンテーションおよびグループディスカッション 第8回：まとめ ※開講時期：4 年前期後半 ※実習フィールド（社会復帰施設など） ※遠隔授業となった場合、ZOOM によるオンライン授業を行う				
キーワード	精神障害者、退院支援、地域生活支援、家族支援			
教科書	精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習等で使用した教科書			
参考書				

評価方法・評価基準	文献検討、フィールドワーク実践、プレゼンテーション、グループディスカッションから総合的に評価する。 精神医療・精神看護の現状への理解の程度と、課題解決に向けた精神看護の専門性へに考察の内容を、演習全般を通して評価する。
関連科目	精神保健Ⅰ、精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習
履修要件	精神看護学概論、精神看護学、精神看護学演習、精神看護学実習を修得していること。
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する。
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師の資格を有する教員の指導の下、精神看護学に必要な看護実践能力を身につけるための演習を行う。
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	

在宅看護発展セミナー

(Advanced Seminar : Home Health Nursing)

担当教員名 普照 早苗、梅津 千香子				
科目区分 専門 選択	授業方法 演習・その他	対象学年 4	開講期 前期集中	単位数 1
オフィスアワー	随時（研究室来訪の際は事前にメール連絡をすること）普照（N319）、梅津（N205）			
メールアドレス	sfutio（普照）、cumezu（梅津）＊それぞれの後に@fpu.ac.jp をつけてください。			
授業概要	地域で自立・自律的に実践する看護師の機能や役割について学ぶ。各自テーマを設定し文献等で学習、実際の在宅看護現場に出向き、ケアマネジメントの視点を含めた療養者とその家族のアセスメント、多職種との連携・協働のあり方を検討する。さらに実践現場の看護職や介護職とのディスカッションを通して、包括的在宅ケアの在り方を深める。			
到達目標	1. 在宅看護領域の現状と課題を理解した上でセミナーで深めたい自らのテーマを設定できる。 2. 地域の療養者が生活する場において、多職種連携やケアマネジメントをはじめ、看護の実際を体験し、現地スタッフとのディスカッションを通して自らの考えを深めることができる。 （本科目は、DP1, 2, 3, 5, 6 に対応している。）			
授業計画・内容				
【期間】（予定）：7月～8月 集中セミナー（事前に日程調整を行います）				
【スケジュール】				
1日目： 学内 OR、教員からのガイダンス 各自のテーマ決定				
2～3日目： 現地看護職からのミニレクチャー・ディスカッション テーマに関して教員との面談・アドバイス 文献・資料検索、調査				
4日目： 各自のテーマに添って情報収集、レポート作成（学内）				
5日目： 学内まとめ、テーマにそったプレゼンテーション 現地看護職まじえての講評・ディスカッション				
※セミナー中、教員のほか地域・在宅看護勤務経験のある現地看護職も参加しディスカッションを行います。				
※遠隔授業となった場合：ZOOM、LMS を中心としたオンライン授業に切り替える。				
※受講者上限：4人（予定）				
キーワード	在宅療養者と家族、生活の場、在宅ケア、多職種連携、ケアマネジメント、地域共生社会			
教科書	・ナースング・グラフィカ「地域・在宅看護論①、②」メディカ出版 ※いずれも2年後期と3年前期に使用したもの			
参考書	随時提示する。			
評価方法・評価基準	ディスカッション参加状況（50%）レポート課題（50%）の総合評価を成績とする。 1週間の集中セミナー形式。遠隔授業時も同様。			
関連科目	「看護の基礎」「ライフサイクルと看護」の各科目、公衆衛生看護学の各科目 社会保障・社会福祉概説、家族看護論、在宅看護論、在宅看護演習、在宅看護実習			
履修要件	「履修の手引き」の履修上の留意事項の通り。在宅看護論、在宅看護演習、在宅看護実習を修得済であること。			
必要な事前・事後学修	オリエンテーション時に提示する。			

実務経験のある教員 による授業内容	実務経験あり 看護師・保健師の資格をもつ訪問看護師経験のある教員 2 名が担当する。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	

看護教育学

(Nursing Education)

担当教員名 川村 みどり				
科目区分 専門 選択	授業方法 演習	対象学年 4 年	開講期 後期	単位数 1
オフィスアワー	講義終了後または事前のメール連絡で日時調整 (N409)			
メールアドレス	kwmr2021 アドレスの末尾に「@fpu.ac.jp」をつけてください			
授業概要	◎看護と教育の共通性を学んだうえで、看護学教育の特徴を理解し看護を学ぶ自分自身の理解を深める ◎自己教育力を高めるために、実践からの学びを促進するツールとしてリフレクションを学ぶ			
到達目標	1. 看護教育を学ぶ意味が理解できる 2. 専門職としての看護と看護を学ぶこととで養う社会人基礎力が理解できる 3. 看護を学ぶ意味を、多職種連携教育、自我同一性地位を通して理解できる 4. 看護におけるリフレクションの意義を学び、自己の実習経験を Reflective Thinking で理解できる (本授業は、DP5、DP6 に対応している。)			
授業計画・内容				
第 1 回 看護学教育とは何か ①看護と教育の同形性：教育を成り立たせるものと看護実践にける対象者との関係形成 ②専門職としての看護と看護学教育と看護教育、看護教育学 ③社会人基礎力と実習で養いたい社会人基礎力				
第 2 回 多職種連携実践 (IPW) と多職種連携教育 (IPE)				
第 3 回 ①IPE の定義と意義 ②保健医療福祉職による IPW とその課題 ③事例を用いた多職種連携と課題を理解する				
第 4 回 看護学生のアイデンティティとプロフェッションフッド ①自己の同一性地位を判定する ②職業的アイデンティティと看護実践との関係を理解する ③プロフェッションフッドの 5 要素と自身のプロフェッションフッドを理解する				
第 5 回 看護の実践現場の特徴から実践から学ぶ意義を理解する ①専門職教育におけるリフレクションの意義 ②リフレクションに必要なスキル				
第 6 回 看護学実習における自己の実践を振り返りグループメンバーでリフレクション				
第 7 回 ①リフレクションに必要なスキルを自身の実践をとおして理解する ②「自己との対話」と「他者との対話」を繰り返し実践の批判的分析と学びを明らかにする ③グループ内で学びを共有する				
第 8 回 看護職におけるキャリアマネジメントの必要性を理解する ①リフレクションの経験と自己教育力と自己決定型学習について				

②個人のキャリアマネジメントと看護職の成長について

※遠隔授業となった場合、ZOOM によるオンライン授業となる

キーワード	
教科書	指定しない
参考書	グレッグ美鈴ら編：看護教育学改訂第2版、南江堂（2018） 目黒 悟：教えることの基本となるもの―「看護」と「教育」の同形性、メジカルフレンド社（2016） 勝原裕美子：看護師のキャリア論、ライフサポート社（2007）
評価方法・評価基準	グループワークと発表（50%）課題レポート（50%）：課題について自主的に取り組み他メンバーから学ぶことが出来ているかどうかで評価する。 教育看護に関する主要な概念の理解の度合いを、グループワーク等により評価する。 ※遠隔授業になった場合の評価基準に変更はない。
関連科目	
履修要件	専門実習を履修していること
必要な事前・事後学修	準備学習については、教員が講義時に指示する
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり 看護師業務を経験した教員が、看護職に必要な教育学的視点や理論について講義・演習を行う
施行規則に定める科目区分又は事項等	
その他	グループワークは必ず出席すること

災害看護学

(Disaster Nursing)

担当教員名 上木 礼子				
科目区分 専門 選択	授業方法 講義・演習	対象学年 4 年	開講期 後期集中	単位数 1
オフィスアワー	上木 (N416 研究室) 随時：メール等にて事前に日時調整			
メールアドレス	上木 reikou17@fpu.ac.jp			
授業概要	災害看護活動に必要な知識と基本的な心構えについて学ぶ。災害が人々の健康や生活に与える影響や災害時要配慮者のケアに関する文献や記事等を取り上げ、グループワーク、演習を通して、災害時の看護の役割について考える。			
到達目標	災害とは、災害が人間生活におよぼす影響について理解する。 災害医療システムおよび災害サイクルについて学習し、生活者のニーズの変化にそった看護、支援体制やネットワークについて理解を深める。 災害看護の基本的な心構えや役割を考えることができる。 (本授業は、DP5、DP6 に対応している)			
授業計画・内容				
本授業は全 8 回、4 日間の集中講義で実施します。災害時における看護活動の基本的な心構えを学びます。 (1) 災害の概念、災害の分類とその特性・傷病の特徴、特殊災害（被ばく医療など）の特徴、日本における防災体制・災害に関連する法律 (2) 災害サイクルと各期の特徴的な健康問題と看護の役割 (3) 災害時のトリアージ、被災者の回復プロセス・こころのケア、援助者のケア (4) 災害から学ぶ 災害時の情報とアセスメント (5) 災害時要配慮者・避難行動要支援者へのケア、個としての被災者の生活、集団生活（避難所、仮設住宅）、地域での看護 (6) 避難所での看護の視点、関連組織との連携 (7) 国際支援システム、国際支援での看護活動 (8) 災害時シミュレーション（グループワーク） ※遠隔授業になった場合は ZOOM によるオンライン授業で対応します。				
キーワード	災害拠点病院、トリアージ、災害時要配慮者、災害サイクル、災害看護			
教科書	酒井明子, 菊池志津子編集：看護学テキスト 災害看護 ー看護の専門知識を統合して実践につなげるー, 南江堂			
参考書	酒井明子, 永田恵子, 三澤寿美：ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践(3) 災害看護, メディカ出版 その他、必要時提示する。			
評価方法・評価基準	評価方法：受講態度、課題レポートから総合的に評価する。 評価基準：授業・グループワークへの参加度 (40%) 課題レポート (60%) ※遠隔実習となった場合は評価方法を変更することがある			
関連科目	看護学全般			
履修要件				
必要な事前・事後学修	その都度、提示する。			
実務経験のある教員による授業内容	実務経験あり			

	看護師としての経験を活かして、災害時のサイクルに応じた知識と役割等について講義および演習を行う。
施行規則に定める 科目区分又は事項等	
その他	準備学習については、教員が講義時に指示する。